

7
10

英獨兩國皇室例規概要



侍從子爵藤波言忠調

75-101

英獨兩國皇室例規概要

目次

英國皇室例規



以下皇族席次
限

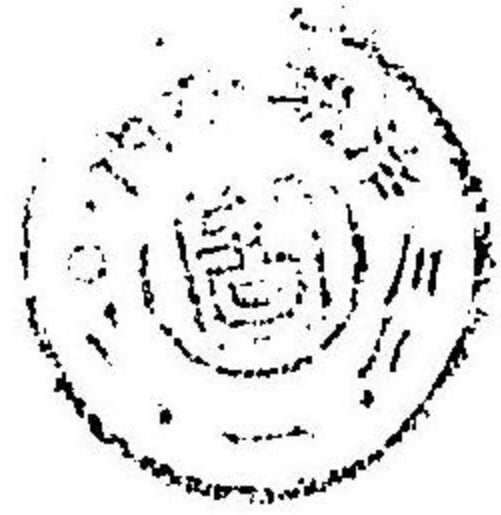
君主成年

親王宣下

皇族成年

國璽御璽

一	同	十	同	十	七	三	同	一
		四		一	頁	頁	頁	頁



帝室省宮内省	十五頁
式部官	十八頁
宮内外務及外交官ノ關係	十九頁
宮中法規	同
侍從職	同
宮内官員ノ俸給	二十三頁
皇帝ノ最親遇禮	同
皇室婚姻並ニ葬儀ノ費用	二十六頁
皇女降嫁	同
皇女出嫁スルノ年齢	二十七頁
親戚接遇	同
皇室皇族婚禮式	二十八頁

皇帝服裝	三十二頁
皇后服裝	三十三頁
皇室童服	同
女官ノ身分	同
忠孝節義者ノ賞與	三十五頁
皇后勳章	三十六頁
勳章親授	三十七頁
賞品種類	三十九頁
皇后ヨリ有功婦人ヘノ賞	四十頁
内外國行供奉	四十一頁
供奉騎兵組織	四十二頁
近衛士官當番	四十七頁

近衛當番士官

四

鐵道賃金

四十八頁

皇后御同行

四十九頁

觀兵式

同

五十頁

武官御會食

同

面會定日

五十二頁

內閣大臣會食定日

五十三頁

朝拜

同

學士起業者臨時引見

五十五頁

皇后會食

同

皇領地皇室費

同

侍補

六十二頁

君主學術

六十三頁

侍從著服

六十四頁

皇帝座右ノ什具書籍ノ取扱人

六十五頁

寶器及貴重ノ器物

同

宮中物品御用

六十六頁

親書取扱

同

皇家ノ色

同

數爵兼帶

同

君主養子

六十七頁

大赦特赦

六十八頁

帝名裁判

同

有勳者有爵者取扱

六十九頁

五

皇子皇族任官	七十頁
祖宗ノ祭典	七十一頁
演劇免狀及皇覽ノ趣意	同
宗廟陵墓	七十二頁
宮城守衛兵	同
貴族裁判	七十三頁
上下院	七十四頁
勅使體裁	七十五頁
宮内若ハ皇后ニ屬スル學校及幼稚園	七十六頁
皇族犯罪	同
皇帝親翰ノ送達	同
賞勳局	同

博物館等	七十七頁
馬車馬ノ毛色	同
皇帝皇族ノ徽章	七十八頁
侍從配膳侍立	七十九頁
御宴配膳者	同
文武官取扱	八十頁
謁見出願者	八十一頁
乘馬服	八十四頁
皇帝ノ帽	同
英國皇室費一斑	八十五頁

○ 獨國皇室家系一斑

ホーヘンツォルレルン家系

百二十九頁

ホーヘンツォルレルン家ヨリ王位ニ登ルノ經歷

マーク、オフ、ブランデンブルヒノ管領 百五十二頁

マルグラフィフ、オフ、ブランデンブルヒノ

經歷 百五十九頁

公領及國主 百六十五頁

ブランデンブルヒノ國主 百七十六頁

普魯士國王

フリードリッヒ 第一世 百八十四頁

フリードリッヒ、ウイルヘルム 第一世 百八十八頁

フリードリッヒ、デル、グローセ(大王) 百九十一頁

フリードリッヒ、ウイルヘルム 第二世 百九十四頁

フリードリッヒ、ウイルヘルム 第三世 二百一頁

フリードリッヒ、ウイルヘルム 第四世 二百九頁

ウイルヘルム 第一世 二百十一頁

皇室家憲ノ要領

皇 族 二百十二頁

婚 姻 二百十四頁

丁年及後見 二百十八頁

國王及皇族ノ財産 二百二十頁

皇室世襲財産 二百二十一頁

皇族世襲財産 同

皇室ノ貯金 二百二十二頁

私有財産相續 二百二十四頁

皇族ノ公法

王位繼承

攝政

皇族ノ裁判

ホーヘンツォルレルン家ノ獨逸帝位

二百三十頁

ホーヘンツォルレルン、スウアピア家ノ王族

二百三十二頁

ホーヘンツォルレルン、ヘッヒンゲン家

二百三十四頁

ホーヘンツォルレルン、シグマリンゲン家

二百三十七頁

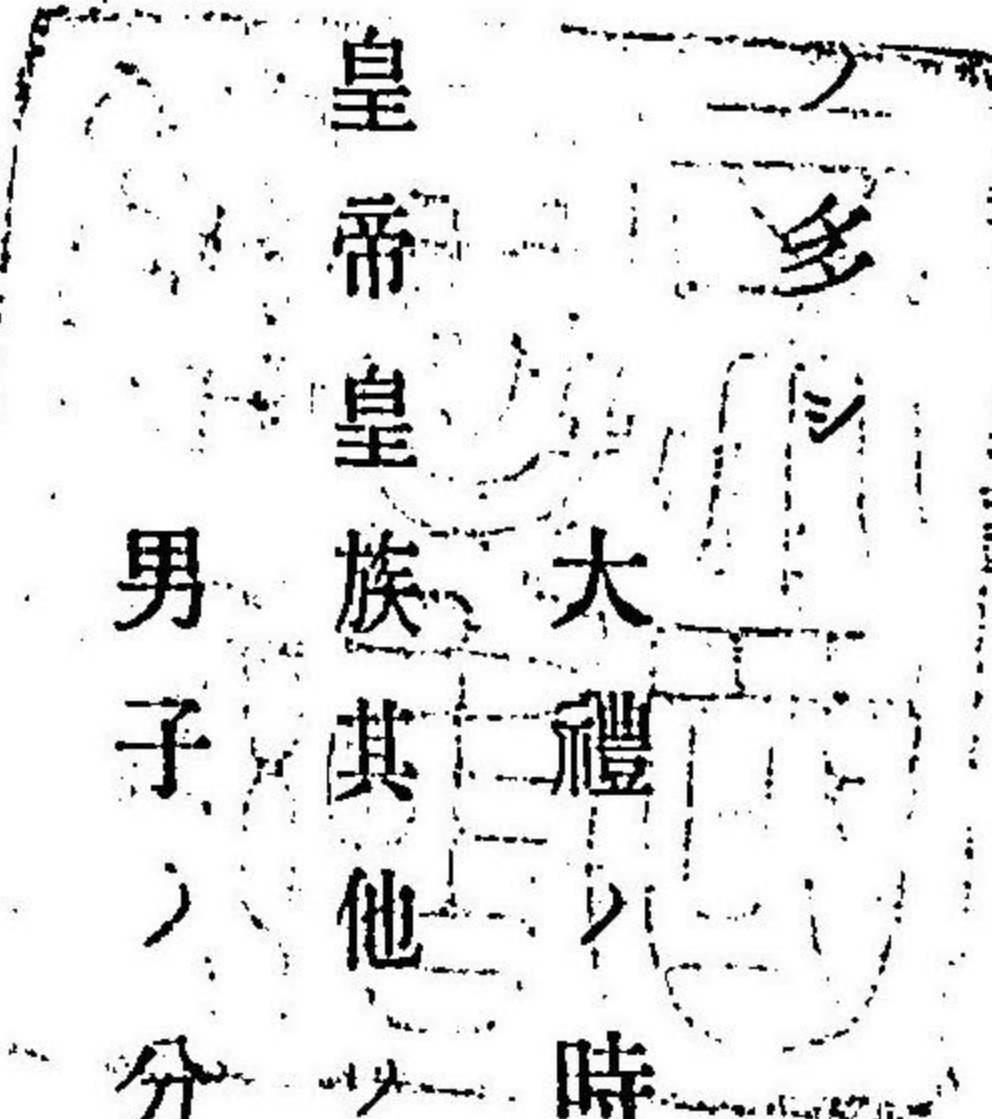
ホーヘンツォルレルン家

二百四十頁

英國皇室例規

皇室家憲

英國ノ憲法ハ普通ノ法律ト相混交シ又別ニ皇室家憲ノ設ケ
アルナシ然レトモ獨逸諸邦ニ於テハ皇室家憲ヲ制定セルモ



大禮ノ時皇帝以下皇族席次

皇帝皇族其他ノ席次ハ一定ノ席次規則アリテ之ニ據ル即チ

男子ノ分

一君主

一皇太子

一皇子(年齢ニ順フ)

一皇孫

一 皇兄弟

一 皇甥

一 皇叔父

女子ノ分

一 皇后

一 皇太后

一 皇太子妃

一 皇長女

一 皇女(席次長幼ニ順フ)

一 皇子妃(夫ノ年齢ニ順フ)

一 皇孫妃(夫ノ年齢ニ順フ)

一 皇孫女(席次父ノ年齢ニ順フ)

一 皇兄弟妃

一 皇姪

一 皇甥妃

一 皇叔妃

男女間ニ於ケル席次ハ別ニ表ヲ以テ定メタルモノナク表ニハ唯男女相分テテ其席次ヲ定メタリ而シテ男女同等ナルトキハ男ハ女ノ上席タルヤ明ナリ譬ヘバ皇太子ハ其妃ノ上席タルノ類ノ如シ然レドモ女ハ常ニ男ニ先ズルハ歐洲ノ風儀ナルニ依リ實際宴會等ニ於テハ男子ハ常ニ女子ニ上席ヲ與フルモノトス斯ノ如ク外面稍其差別ナキノ觀アリト雖モ定規ト禮儀トハ並行レ決シテ相悖ラザルナリ

攝政權限及ビ年限

古法ノ意義ニ依レハ君主ニハ丁年ナシ然レトモ實際ニ在リ
 テハ君主十八歳ニ達セサルトキハ攝政ヲ置キ政ヲ執ラシメ
 君主滿十八歳ニ達スルニ及ヒ始メテ政ヲ親ラス故ニ君主ノ
 成年ハ滿十八歳ヲ以テ其期ト爲スト云フモ可ナリ從テ攝政
 ノ年限モ亦之ヲ以テ終期トナスハ勿論ナリトス攝政ヲ任ス
 ルニハ別ニ一定ノ規則ナク君主ノ在世中豫メ議院ノ議決ヲ
 經テ發スル所ノ法律ヲ以テ之ヲ定ムルヲ常トス而シテ近世
 ニ於テハ皇太子ナキトキ或ハ皇太子幼年ナルトキハ君主ノ
 在世中豫メ攝政令ヲ定メ以テ不慮ニ備フルハ殆ト其常規ナ
 ルカ如シ今代ウヰクトリヤ女皇モ即位後暫時ニシテ千八百
 四十年八月四日ノ法律ヲ以テ攝政令ヲ定メ以テ女皇登遐ノ
 場合ニ備ヘタリ當時女皇ハ未タ若年ニシテ纔ニ十八歳ヲ超

ヘタルニ過キサリシナリ之ヲ約言スレバ英國ニ於テハ時ニ
 隨ヒ攝政令ヲ定メ豫メ不慮ニ備フルモノニシテ其ノ年限ハ
 前述ノ如ク君主滿十八歳ニ達スレハ政ヲ親ラスルニ依リ攝
 政ノ任期モ亦隨テ終ルモノトス
 攝政ハ何人ヲ以テ之ニ任スト云ヘル定規アルナシ先王在世
 中今女皇仍幼年ナリシニ依リ若シ百歳ノ後女皇猶十八歳ニ
 達ヒザルトキハ其母ケント女公ヲ攝政トナスノ法律ヲ定メ
 タリ女皇即位後定メタル法律ニ於テハ皇夫アルベルトヲ攝
 政ニ指名セリシヨ―ジ三世精神喪失ノ際ニハ太子ヲ以テ
 攝政ト爲シタリ之ヲ要スルニ攝政ニハ高貴ニシテ最モ其地
 位ニ適スル者ヲ選ブモノトス然レトモ又事情ニヨリ高貴ナ
 ル者數人ヲ以テ聯合攝政タラシメタル例亦史上ニ多ク見ル

所ナリ抑モ攝政ハ君主ノ代理者ナリ故ニ成ルベク君主ト同一ノ權ヲ附與スト雖モ時宜ニ依リ之ニ幾分ノ制限ヲ設ルコトアリ其詳細ハ攝政ノ歴史ニ就テ之ヲ見ルベシ

獨逸聯邦ニ於テハ攝政ニ關スル法規ハ各邦大概相齊シクシテ(第一)攝政ハ一人ニシテ英國ノ如ク數人共ニ政ヲ攝スルガ如キコトアラズ即チ攝政ハ君主權ヲ掌握スルモノニシテ君主權ハ之ヲ分割ス可ラズ故ニ數人ニテ之ヲ共有スルノ理ナシト云フニ在リ(第二)攝政ハ權利ノ制限ナク君主ト同一ノ權ヲ有ス即チ攝政ハ君主ノ代理者ナレバ其ノ權政テ君主ニ劣ルノ理ナシト云フニ在リ(第三)攝政ニ任セラルベキ者ハ常に當時ノ幼君ニ次テ王位ヲ繼承スルノ權ヲ有スル者ナリ

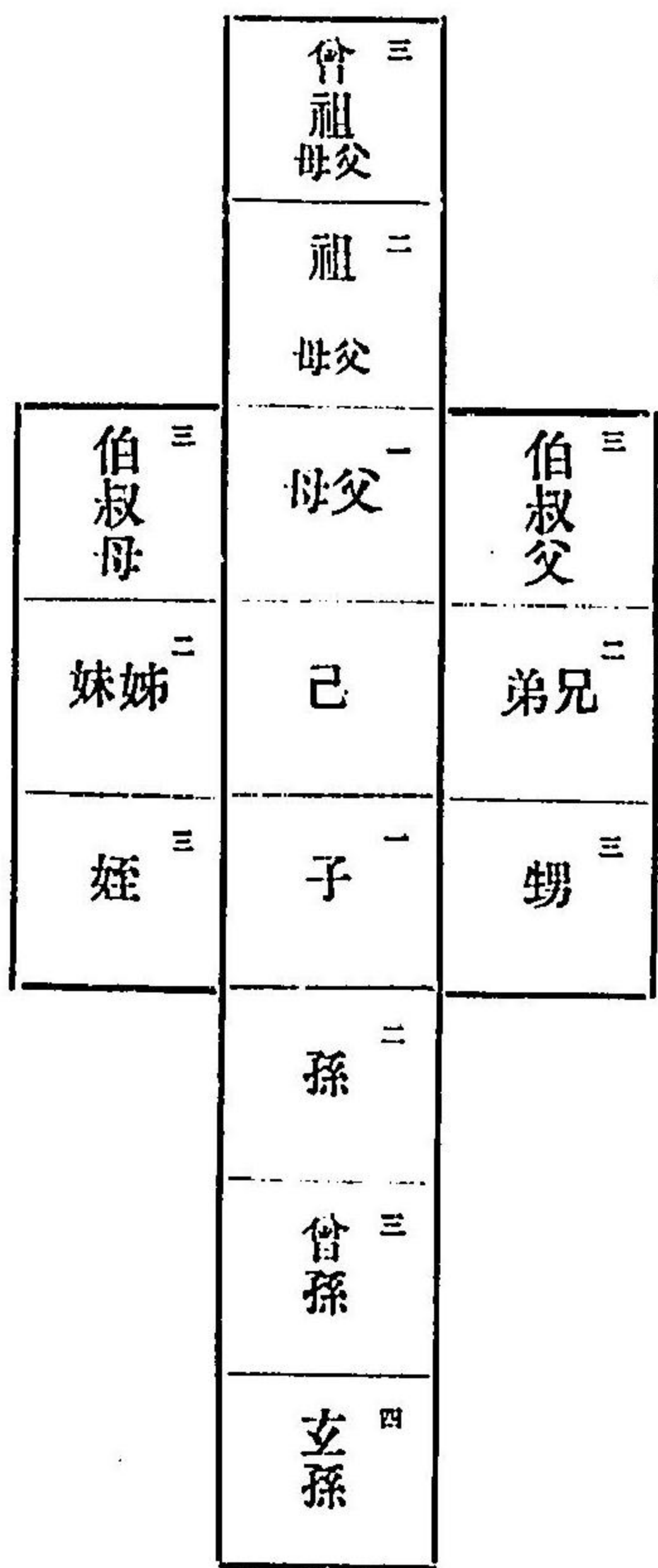
英獨兩國制度ノ差異ハ全ク兩國ノ習慣及ヒ原則ノ差異ヨリ

生スルモノナレトモ茲ニ之ヲ畧ス

皇室等親制度

歐洲ニ於テハ東洋ニテ所謂等親ト稱スルモノナキニ依リ從テ亦皇室ニ適用スベキ等親ノ制度アルベキナシ抑歐洲ニ於テ等親ノ意タルヤ血統ノ一級ト云フノ義ニシテ譬ヘバ直系卑屬ニテハ子ハ血統ノ一級ニシテ孫ハ二級曾孫ハ三級ナリ直系尊屬ニテハ父ハ血統ノ一級ニシテ祖父ハ二級曾祖父ハ三級ナリ傍系モ亦之ト齊シク血統ノ遠近ヲ以テ之ヲ算ス例ヘバ兄弟姉妹ハ二級ナリ何トナレバ兄弟姉妹ニ達スルニハ父ヲ經テ之ヲ算セサルベカラズ父ハ一級ナリ兄弟姉妹ハ父ノ子ニシテ父ヨリスレバ一級ナリ故ニ共算スレバ二級ナリ叔父ハ三級ナリ何トナレバ祖父ハ二級ナリ叔父ハ祖父ノ子

ニシテ祖父ヨリスレハ一級ナリ故ニ共算スレハ三級ナリ甥
 ハ三級ナリ何トナレバ兄弟ハ二級ナリ甥ハ兄弟ノ子ニシテ
 一級ナリ故ニ共算スレバ三級ナリ斯ノ如ク親族ハ其ノ親疎
 ナ間ハス左ノ方法ニ依リ之ヲ算スルヲ得ベシ故ニ東洋ニ於
 テ五等ト限レル如ク別ニ其ノ制限アルコトナシ



上圖ノ如ク血統ノ等級ニ據テ算スレバ之ヲ擴メテ數十等ニ至ルモ際限アル無シ

相續法ハ一般ニ下ニ降ルヲ常トシ直系卑屬盡キテ始メテ傍

系ニ及フ例ヘバ曾孫ハ三級ナリ兄弟ハ二級ナリ然トモ曾孫
 ハ兄弟ニ先ナテ相續スルノ權ヲ有ス其他皆然リ(王位繼承ノ順序ハ法律上一
 定ノ法アリテ他ヨリ之ニ關スルヲ得ズ然レモ革命及ビ
 其他ノ大變例アルトキハ議院ハ之ニ關與スルコトヲ得)其ノ順序ハ東洋
 ノ立嫡法ト多ク異ナラス其ノ法則左ノ如シ

(第一) 男女同等ナルトキハ其ノ長幼ヲ問ハス男ハ女ニ先ツ
 ナ例トス例ヘバ弟ハ姊ニ先ツカ如シ

(第二) 同等ノ同性間ニハ長幼ヲ以テ其ノ順序ヲ定ム例ヘバ
 男子間ニテハ兄ハ弟ニ先ナ女子間ニテハ姊ハ妹ニ先ツカ
 如シ

(第三) 子ハ常ニ亡父ニ代リ其ノ權利ヲ相續スルモノナリ故
 ニ長子若シ子ヲ遺シテ死スルトキハ長子ノ子即チ孫ハ次
 子ニ先ナテ相續スルノ權利ヲ有ス何トナレハ長子ハ次子

ニ先スルノ權ヲ有スルモノニシテ長子ノ子ハ長子ノ權利
ヲ相續ス從テ亦次子ニ先ズルノ權ヲ有スルナリ其他之ニ
準ス

(第四) 第三ノ理由ニヨリ男子ノ女ハ長幼ヲ問ハズ總テ女子
ノ男ニ先テ相續スルノ權ヲ有ス何トナレバ男子女子兩
ナガラ生存スルトキハ假令男子ハ女子ヨリ幼ナリト雖モ
之ニ先スルノ權利ヲ有ス而シテ男子ノ女ハ其ノ亡父ノ權
利ヲ相續スルモノナリ故ニ男子ノ女ハ女子ノ男ニ先ツモ
ノトス歐洲大陸諸國ニ於テハ概ネ女子ノ君位ニ登ルヲ許
サズ澳地利西班牙ニテハ昔時此ノ例ナリシモ後女子ノ登
位ヲ許認シタリ然レトモ之ガ爲メ數多ノ腥血ヲ濺クニ至
リタリ日耳曼聯邦中二三ノ邦國ニテハ輓近之ヲ折衷シ男

系ノ盡ルヲ待テ始メテ女子ノ登位ヲ認ムルノ法ヲ設ケタ
ルモノアリ

君主成年

君主ノ成年ハ前ニ述ベタル如ク滿十八歳ヲ以テ期トス歐洲
大陸諸國概テ皆ナ然リ

親王宣下

歐洲ノ婚姻法ハ元ト一夫一婦ノ制ナルヲ以テ庶子ハ一切法
律ノ認ムル所ニアラズ若シ親王ノ二字ヲ以テ歐洲ノ「プリン
ス」ト同意義ノモノトナサハ皇后ノ子ハ皆テ生ナガラニシテ
親王ナリ故ニ所謂親王宣下ナルモノアルナシ東洋ニ在リテ
ハ親王ト皇子トノ間ニ多少ノ區別アルカ如シト雖モ歐洲ニ
テハ法律上此ノ如キ區別アルナク親王ハ即テ皇子ニシテ皇

子ハ即チ嫡子ナリ庶子ハ假令之レアリトスルモ法律上君主ノ子ト認メサルナリ
 英國ニテハ太子ハ生ナガラユルンウォール公ノ爵ヲ有シ出生後暫時ニシテプリンス、オフ、ウエールスニ封セラレ其他ノ親王ハ大概世襲公爵ヲ授ケラル而シテ親王公爵ニ叙セラレタル時ハ上院ニ列スルノ權ヲ有ス親王ニシテ公爵ニ叙セラレタルモノハ其爵名ヲ用井某公殿下ト尊稱ス譬ヘハエデ井ンバラ公爵殿下ト稱スルカ如シ然レトモ昔時ハ單ニ其通稱ヲ用井テ某親王殿下ト尊稱セリ譬ヘバアルフレツド親王殿下ト稱シタルカ如シ
 我邦ニテハ奇異ナル思想行ハレ皇族ハ一種ノ階級ニシテ貴族ハ皇族ノ次ニ位スル別種ノ階級ナリト思意スルカ如シ故

ニ或ハ皇子ヲ公爵ニ叙スルハ之ヲ貶スルモノナリトナスモ是レ決シテ然ラズ皇族トハ皇室ノ親屬ナルノ謂ニシテ社會上ヨリ觀察スルトキハ勿論多少ノ特權ヲ有スト雖モ別ニ一種ノ階級ノ名稱ニアラス今マ法律上ニ於テ階級ノ大別ハ唯ニアルノミ即チ貴族平民是ナリ故ニ皇族ハ貴族中ノ高等ニ位スル者ト謂ハサルヘカラス從テ亦親王ニシテ公爵ニ叙セララル、ト雖モ貶黜セラレタルモノニアラス假令公爵ニ叙セララル、モ尙ホ皇族ニシテ貴族ノ上席ニ列スルモノトス而シテ皇族ノ名稱タルヤ之ヲ擴充スルトキハ君主ノ後裔ハ皆皇族ニアラザルハナシ然レトモ實際皇族ノ名稱ハ君主ノ近親ノミニ限リ法律ニハ降リテ孫ニ至ル迄ハ貴族ノ上席ニ列スルノ權ヲ有スト規定セリ之ニ由テ之ヲ看レバ公爵親王ノ裔

ニシテ貴族ノ上席ニ列スルハ其子即チ君主ノ孫ノミニ限ル
ト謂フモ可ナリ而シテ王位繼承ノ權利ニ至リテハ君主ノ後
裔ハ皆之ヲ有スルヲ以テ假令遠裔ニシテ貴族ノ上席ニ列ス
ルノ權ヲ有セザル者ト雖モ之ニ先テ王位ヲ繼承スル者ナ
キトキハ猶自ラ之レヲ亨クルノ權利ヲ有スルナリ
皇族ノ妃モ亦皇族ト稱ス

皇族成年

皇族ニ限り適用スベキ一種ノ法律ナシ皇族モ亦一般人民ト
同ク二十一歳ヲ以テ成年トス

國璽御璽

二箇ノ重璽アリ一ナ大璽ト稱シ一ナ秘璽ト稱ス以テ國璽御
璽ニ較フベシ大璽ハ司法大臣之ヲ司リ秘璽ハ尙璽大臣之ヲ
司ル概言スレバ大璽ハ緊要ナル國書ニ用非秘璽ハ主トシテ
君主ニ關スル文書ニ用ユ然レトモ二璽ノ用方ヲ區別スルハ
稍々困難ナリトス何トナレバ事司法大臣ノ職權内ニアルト
キハ大璽ヲ用非尙璽大臣ノ職權内ニアルトキハ秘璽ヲ用ユ
ルノミナラス法律中ニモ事件ニヨリ大璽ヲ用ユト記シタル
モノアリ或ハ秘璽ヲ用ユト記シタルモノアレハナリ

帝室省宮内省

英國ニテハ帝室省宮内省ノ別アルナク又一人ニシテ之ヲ統
轄スル宮内大臣ノ如キモノアルナシ廣ク云フトキハ宮内ノ
事務局ヲ分テテ三局トス(一)内膳局 (Department of Lord Steward)(二)儀式
局 (Department of Lord chamberlain)(三)御厩局 (Department of the Horse) 是ナリ其ノ
他御衣局ナルモノアリ稍々獨立ノ姿アリト雖モ儀式局ノ管

理ニ屬ス内膳頭ノ職掌ハ重ニ供御及調度ノ事ヲ掌ル故ニ内膳頭ト譯スルモ可ナラン儀式頭ハ重ニ儀式ニ關スル事務ヲ掌ル故ニ假ニ儀式頭ト譯ス御厩頭ハ御厩ノ事ヲ掌ル御犬ノ事務モ亦該局ノ管スル所ニシテ御犬事務長ハ御厩頭ニ次クノ重職ナリ右三官即チ内膳頭儀式頭御厩頭ハ貴族中ノ重ナル者ヲ以テ之ニ任ス御衣頭ハ女官ニシテ貴族中ヨリ之ニ任シ皇后ノ大禮服ヲ掌リ公儀ニハ君側ニ侍ス故ニ君主女皇ナルトキハ其職モ亦隨テ重シ即位式及其他大禮ノトキハ御厩頭ト共ニ御車ニ陪乘スルコトヲ得宮内ノ女官ハ皆之ニ附屬ス侍醫ハ獨立ノ姿ナレトモ儀式頭ノ管スル所ナリ英國宮内ノ制度ハ元來甚タ完全ナラズ當代ノ始メニ方リ女皇其皇夫ト共ニ大ニ之ヲ改革シタリト雖モ猶未ダ十分完全ノ域ニ達

シタルモノト云フベカラズ以上數局ニ屬スル官名ハ必シモ玆ニ詳述セズ今左ニ其ノ重要ナルモノヲ舉ゲン

内膳局ニハ内膳頭會計長調度長内帑掛女皇付秘書官(現時此ノ職ノ設ケアリ)及其他ノ屬官アリ

儀式局ニハ儀式頭權頭會計長檢査長調度長式部長式部副官侍從演劇檢査長演劇ヲ檢査シ及之ヲ許可スルハ儀式頭ノ職權内ニアリ)ウヰンヅル城守親兵長其他名譽官數人アリ即チ御歌掛御畫掛彫刻掛等是ナリ而シテ慶事アルトキハ御歌掛ヨリ詩歌ヲ獻シテ之ヲ奉祝スルコトアリ御厩局ニハ御厩頭御犬掛騎馬侍從扈從其他御厩官吏數名アリ

御衣局ニハ御衣頭典侍命婦侍女是ハ皆皇后ニ屬スル官ナ

リ但シ女皇ナレハ猶之ヲ女皇ニ屬ス
 以上ノ諸官ハ必ズシモ日々出勤スルモノニアラズ侍從及女
 官ノ如キハ大概輪番法ヲ用ユ女官ノ身分ニ就テハ猶後條ニ
 詳説スヘシ

式部官

別ニ所謂式部職ト稱スル局アルナク宮中ノ儀式ニ關スル事
 ハ總テ儀式局ニ於テ之ヲ司ル同局中ニ式部長及ヒ副一人補
 一人アリ重ニ外國語ニ通曉スル人ヲ用井貴賓ニ接スル責ニ
 任ス然レドモ國事ニ關スル儀式ハ儀式局ニテ一切之ヲ掌ル
 ニアラズ其故ハ往時封建ノ頃ヨリ「コレーザ、ナフ、アームス」ト
 テ武者所トモ譯スベキモノアリテ武家ノ徽章其他武事故實
 ノ保存ヲ掌ル即位式等國家大禮ノ鹵簿次第書等ハ多クハ此

役所ニテ製作セリ

宮内外務及外交官ノ關係

前述ノ如ク儀式局ニハ式部長及副一人補一人アリ嘗テ皇子
 外交官接待ノ儀式極メテ煩雜ナリシ頃時々ノ紛議ヲ防ク爲
 メ此ノ官ヲ置キタルモノニシテ外交官接待ノ事務ニ專任ス
 總テ禮式上ニ關シ宮内外務省外交官トノ間ニ往復周旋ヲ司
 ルハ此ノ官ノ任スル所ナリ

宮中法規

別段ニ宮中法規ト云ヘルカ如キ一部ノ書ナシト雖モ事件ニ
 付キ規定シタルモノアリ例バ謁見式規則ノ如キ是ナリ

侍從職

侍從ノ如キ官職三種アリ中ニ就キ我侍從職ト最モ相似タル

モノハ「ロード、イン、ウエーキング」ト稱スル官是ナリ定員八人ニシテ年俸各七百貳磅ナリ又タ「ゼントルマン、アツシヤ」ト稱スル官アリ數種ノ等級アリテ名稱モ何々「ゼントルマン、アツシヤ」ト唱フ往時ハ其職掌亦タ自ラ殊ナリシト雖モ今日ニテハ職務上更ニ殊ナル所ナシ其數總テ十五人内七人ハ年俸各二百磅八人ハ各八十磅ナリ外ニ黑棒「ゼントルマン、アツシヤ」ト唱フル一人ハ職掌稍之ト異ナリ年俸モ亦二千磅トス然レモ侍從職中ニハ姑ク之ヲ論セズシテ可ナリ又「グルーム、イン、ウエーキング」ト稱スル官アリ定員八人ニシテ年俸各三百三十四磅ナリ員外「ロードイン、ウエーキング」員外「グルーム、イン、ウエーキング」アリ皆ナ無給ニシテ常務ナシ「グルーム、ナフ、プリビジ、チエーシバ」ト云フ官アリ定員四人ニシテ年俸各百

二十磅ナリ以上皆儀式局ニ屬ス御厩局ニ屬シタル騎馬侍從八人アリ「エクエリ」ト稱ス其職掌ハ御馬ノ供奉ヲ主トス故ニ騎馬侍從ト譯ス常ニ武官中ヨリ之ニ任ス其中一人ハ御厩頭ノ書記官ヲ兼ネ事務ヲ代理ス他ハ年俸六百磅乃至五百磅ナリ又無給ノモノアリ「ロード、イン、ウエーキング」ハ皆貴族ヲ以テ之ニ任ス「グルーム、イン、ウエーキング」ニハ定規ナシト雖モ多クハ退職士官等ノ身分正シキ者ヲ用ユ此ノ二種ノ官ハ二週間交代ニテ常勤ノ當番一人ヲ置ク當番者ハ宮中儀式等ニ付キ儀式頭ヲ代理シ及ビ其命ヲ奉行スル責ニ任ス騎馬侍從ハ一ヶ月交代ニテ一人ノ常勤當番ヲ置ク以上三種ノ官ハ等級ノ差ナシ「ゼントルマン、アツシヤ」及「グルーム、ナフ、プリビジ、チエーシバ」ヲ合セ毎月五人宛當番ス但此官ハ公儀ノ時

ヲ除クノ外常務ナシ隨テ平常ハ出勤セザルナリ扈從三人十
 五歳以下ノ身元正シキ者ヲ以テ之ニ充ツ扈從ハ概ネ二人宛
 一ヶ月交代ニテ當番ス但一人ナル時アリ平生常務ナシ公儀
 ノ時君側ニ侍シ御用ヲ辨ズ扈從ハ君側ノ御用ヲ辨スル制度
 ニ起ルト雖モ往時ハ武家ノ儀式等ヲ練習シ而シテ後陸軍士
 官トナルモノナリシ今日ニ於テモ猶此ノ意義幾分カ存スル
 所アリテ生長後ハ陸軍學校ニ入ル者多シ
 以上諸官ノ當番表ハ年始ニ之ヲ定ム員外員ハ名譽ノミニテ
 職務ナシ

總テ儀式ノ節隨從ノ侍從以下ノ人員左ノ如シ

- 一 當番ロード、イン、ウエーチング一人
- 一 當番グループム、イン、ウエーチング一人

一 當番騎馬侍從一人

一 當番ゼントルマン、アツシヤ五人

一 當番扈從二人

外ニ御用辨ノ爲メ舍人等ノ供奉スルコトアルベシ

宮内官員ノ俸給

宮内官員ハ皆年俸ナリ

皇帝ノ最親遇禮

外國ノ君主來ルトキハ宮内ノ顯官ヲ從ヘ車寄ニ迎フルヲ正
 禮トス然レトモ略式ヲ用フルコト多シ○歐洲ニテ下班ノ人
 ヨリ上班ノ人ニ對スル最敬禮ハ曲腰禮ナリ然レドモ此ノ禮
 タルヤ班位遙ニ相異ナルニアラザレバ用井ザルヲ以テ普通
 社交上ニハ行ハレズ大抵普通人民ノ皇族ニ謁見スル時ニ用

フルナリ即チ皇族ノ前ニテハ男ハ曲腰禮ヲ用井女ハ一種ノ
 跪禮ヲ用フ普通社交上ニ在リテ互ニ一面識ナキ場合ニハ双
 方トモ少シク頸以上ヲ前ニ傾クルヲ以テ禮トシ已ニ相識ナ
 ルトキハ握手ヲ以テ禮トス然レトモ班位相異ナルトキハ上
 班ノ人ヨリ先ツ手ヲ出スヲ順當トシ下班ノ人ヨリ先ツ握手
 セントスルハ無禮ナルニ近シ是ニ由テ之ヲ觀レハ握手ハ敬
 テ表スルヨリモ寧ロ幾分カ親ヲ表スルニ近シ況ンヤ接吻禮
 ニ於テオヤ普通社交上ニ於テ接吻ハ大概親子兄弟姊妹ノ如
 キ近親間ニ用フ英國ニテハ女子ノ朋友ニテ極メテ懇親ナル
 トキ接吻ス佛國ニテハ男子ノ朋友間ニ於テモ告別ノ時或ハ
 久シク別離ノ後再會スルトキ等ニハ往々接吻禮ヲ用井テ親
 睦ヲ表スルコトアレトモ人之ヲ賞セズ之ニ依レバ帝王ノ最

敬禮ハ接吻マデニ至ラザルヤ明カニシテ握手ニテ十分敬愛
 ノ情ヲ表スルニ足レリ然レトモ男女ノ帝王相會スルトキハ
 男帝ハ女帝ノ出シタル手ヲ取り之ヲ己ノ唇ニ觸レ以唇觸手
 ノ禮ヲ行フコトアリ即チウ井クトリヤ女皇嘗テ拿破崙第三
 世ト相會セシトキ此ノ禮ヲ用井タルコトアリ是レ只ニ敬ヲ
 表スルノミナラズ又親ヲ表スルモノナルニ依リ時ト場合ニ
 ヨリテハ用ユヘキ禮ナルモ一般ノ禮式トシテ倣フベカラザ
 ルニ似タリ歐洲ノ皇室ハ互ニ相ヒ婚嫁シテ親戚ノ關係ヲ有
 スルニ依リ往々接吻禮ヲ用ユルコトアルモ之ヲ以テ國禮ト
 見倣スベカラズ

顯官授任ノ時又ハ遣外將師凱旋ノ時唇ヲ君主ノ手ニ觸ル、
 コトアリ又公式謁見式ノ時ニ當リ既ニ御前ニ出タル女子ハ

唇ヲ女皇ノ手ニ觸ル、コトアレトモ是等ハ姑ク特別ノ事例ト見テ可ナリ

皇室婚姻並ニ葬儀ノ費用

皇室ニ於テ吉禮舉行ノ重要ナルモノハ内閣ノ提議ニヨリ議院之ヲ議決シ國庫ヨリ其費額ヲ支出ス皇帝ノ結婚ハ此部ニ屬ス皇族中ニテモ皇太子及皇長女ノ結婚等ハ亦之ニ屬スベシ其他ハ時宜ニ因リ帝室費ヲ以テ之ヲ支辨ス例ヘバ去年皇季女ノ結婚ノ時ノ如キ是ナリ皇室葬送ノ費用モ亦之ニ同シ但帝室ヨリ支辨スル時ハ諸費總テ主管ノ局ニ於テ之ヲ仕拂フモノトス則チ食費等ノ類ハ内膳局儀式用ニ關スル器物等ノ費用ハ儀式局運送等ノ費用ハ御厩局ヨリ之ヲ仕拂フナリ

皇女降嫁

ル井皇女ノアーガ井ル公ノ長子ローン侯ニ降嫁セシヲ除クノ外近時降嫁ノ例ヲ見ズ餘ハ大概日耳曼諸邦ノ皇子ニ嫁セリル井皇女ハ降嫁後ト雖モ猶ホ皇族ノ禮遇ヲ受クルコト降嫁前ト異ナルナシ該皇女ノ稱號ハル井皇女(ローン侯夫人)ナリ

皇女出嫁スルノ年齢

皇女ノ嫁スルハ普通人民ト異ナルコトナク別ニ皇女ニ限り定マリタル年齢ナシ

親戚接遇

君主ノ親戚ハ交際上君主ノ眷顧ヲ被ムルコト稍ク多カルベシ例ヘバ會食ニ陪スルカ如キ之ヲ他人ニ比スレバ多カルベシト雖モ別ニ君主ノ親戚ニ屬スル特權ナルモノアラス

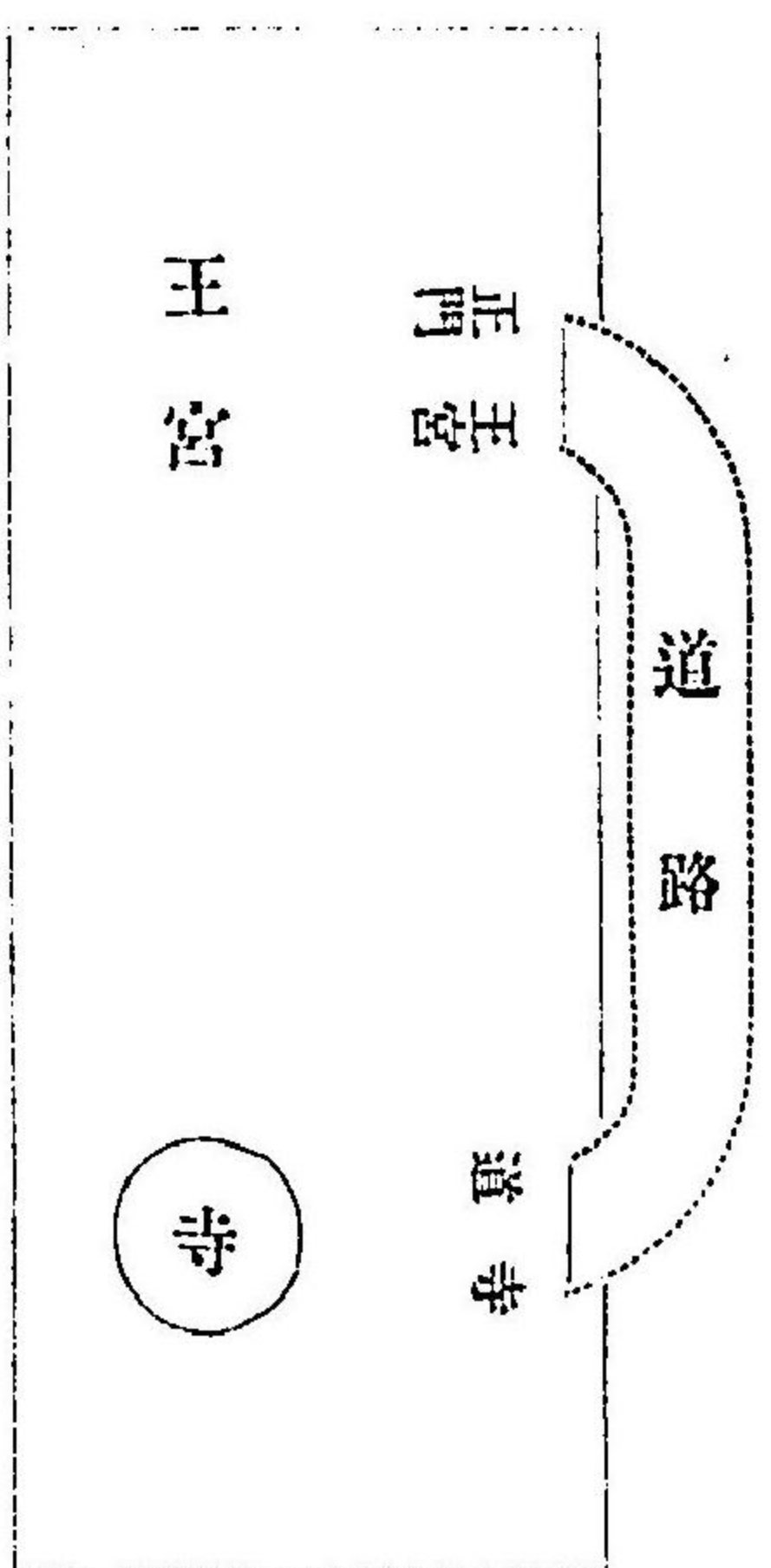
皇室皇族婚禮式

歐洲ニテハ婚姻ハ宗教上ニ屬スルヲ以テ寺院ニ於テ之ヲ行ヒ而シテ之ヲ行フ者ハ僧侶ナリ俗婚シワルヤリエーシハ近代ノモノニシテ此ノ禮ヲ行フモノ未タ多カラズ佛蘭西ノ如キ俗婚必要ノ國ニ在リテモ猶別ニ宗教婚ヲ行フモノ多シ然レバ皇室皇族ノ婚禮モ亦宗教婚ヲ以テ通例トナスモノト知ルベシ宗教婚禮ノ重ナル部分ヲ述ヘンニ式ヲ行フノ僧ハ附屬ノ僧侶ヲ從ヘ神机ノ前ニ立テ新夫新婦ニ向ヒ禮式上ノ問ヲ發ス新夫新婦ハ之ニ對シテ然リト答フルトキハ該僧ハ式ノ終リタルヲ告ゲ神ニ向ヒ祈禱ス之レ上下一般皆異ナルコトナキ點ナリトス只タ皇室皇族ノ婚姻ニハ其ノ儀仗ヲ盛ニスルハ頗ル望マシキコトニシテ之ガ爲メ多少高貴ノ人ヲ招キ式場ニ達スル迄

ノ行列ヲ盛大ニスルナリ其ノ梗概ニ至リテハ時々異ナルナシ然レドモ別ニ一定ノ式則チク細則ハ隨時之ヲ定ムルナリ君主ノ婚式ニハ大ニ意ヲ用井テ之ヲ盛大ニスルハ勿論ニシテ皇太子ノ婚式ハ之ニ次クヤ明ナリ今代女皇ノ婚姻ハ倫敦ノシント、ジエームス宮ノ皇寺ニテ之ヲ行ヘリ他ノ皇族ノ婚姻ハ近時大概ウ井ンゾル城ノ皇寺ニテ執行セリ然ルニ皇季女ビヤトリスノ婚姻ハ畧式ヲ用ユル爲女皇ノ希望ニヨリオスボルン離宮ニテ之ヲ行ヘリ歐洲ノ風俗トシテ班位ノ高下ヲ論ゼズ大概新婦ノ家ヲ中心トシ婚姻一行中ノ重ナル者ハ新婦ノ家ヨリ發シテ寺院ニ至ル(或ハ寺ニ待合ス者モアリ)式終レバ新婦ノ家ニテ式ニ列シタル人ヲ招キ朝餐ヲ食ス名ケテ婚姻朝餐ト云フ(或ハ式ニ列

シタル人ニシテ此ノ朝餐ニ招カレザル者アリ新夫新婦ハ婚
 後概テ旅行ス「ホネームーン」ト稱フ晚ニ至レバ式ニ列シタル
 人等ヲ招キテ夜會ヲ催スコト多シ皇室皇族ノ婚姻モ亦同ジ
 只常ニ新婦ノ家ヲ以テ婚姻ノ中心トナサザルノミ如何トナ
 レバ皇室皇族ノ婚姻ハ君主ノ意思或ハ衆庶ノ冀望ニヨリ其
 他時宜或ハ地ノ便利ニヨリ或ハ費用ノ都合ニヨリ婚姻ノ場
 處ヲ定ムレバナリ大概英國ノ皇族殊ニ今代女皇ノ皇子女ノ
 婚姻ハ英國ニテ執行セリ只タ女皇ノ第二皇子ガ故ノ露帝ノ
 皇女ト婚シタルトキ露國ニ於テ執行シタルアルノミ
 ウヰヰンゾル城ニテ執行シタル皇室婚姻ノ概畧ヲ述ベン抑モ
 該地ニアル皇寺ハ王宮ト同ジク該城ノ域内ニアリ然レドモ
 王宮皇寺各其門戸ヲ異ニシ城外ニ大ナル通路アリテ王宮ノ

入口ヨリ皇寺ノ入口ニ達ス圖ノ如シ



皇族貴族等ハ王宮内ニ參集シ順序ニヨリ馬車ニテ中庭ノ正
 門内ヲ發シ正門ヲ出デ城外ノ道ヲ經テ門ニ入り寺ニ至ル此
 他許多ノ參觀券ヲ發シテ上流社會ノ人ニ附與ス此等ノ諸人
 ハ行列ニ加ハル能ハスト雖モ寺内ニ其席ヲ占メ婚式ヲ拜觀
 スルコトヲ得又寺内ニ入ルヲ得ザルモ寺外ノ路傍ニテ行列
 ヲ拜觀スルヲ得ルノ券アリテ城外ノ路傍ニハ衆庶ノ拜觀人

齋至群集ス女皇モ大概行列中ニ加ハル而シテ寺ニ至ルノ途上ハ新夫新婦其車ヲ異ニシ各其近親ト同乗ス例ヘバ女ハ其ノ親ト男ハ其兄弟ト同車スルガ如シ式終レバ新夫新婦車ヲ同シテ歸ル

歐洲ノ婚姻ニハ結式ノ時新婦ニ陪侍スル幾多ノ女子アリ名ケテ新女ト云フ新夫新婦ノ近親又ハ親友ニシテ未婚ノ者ヲ以テ之ニ充ツ又或ハ新夫ノ親友及兄弟ニシテ新夫ニ陪侍スルコトアリ之ヲ婚姻差添人ト云フ今ノ皇太子ハ其弟婚姻ノトキ婚姻差添人ノ役ヲ務メラレタルコト屢々ナリ

皇帝服裝

皇帝ノ通常服ハ普通人民ト異ナルコトナシ禮服ニ至リテハ二種アリ一ハ即位式及ビ開院式ノ時ニ用ユル大禮服ニシテ

一ハ「ガートル」大勳章ニ屬スル特別ノ服是ナリ(是ハ「ナイト」中間ノ服ニテ之ヲ用ユルナリ)二種ノ間ニハ稍々其製式ヲ異ニスルモノアリ

皇后服裝

衣服ニ關シテハ皇后ノ服トテ別ニ異ナリタルモノナク只ダ禮式ノ時ニハ皇族冠及ビ頸飾等ノ異ナリタルモノアルノミ禮服喪服共ニ通常ノ貴女ト異ナルナシ
皇后ハ必ズシモ流行ノ率先者タルニアラズ然レドモ上ノ好ム所下必ラズ之ニ從フモノニシテ皇后ノ御服ハ大ニ社會ノ好尚及時様ニ影響ヲ及ボスコトアルハ勿論ナリ

皇室童服

皇室ニ限り別ニ異ナリタル童服ナシ

女官ノ身分

女官ハ身元正シク門地賤シカラザル者ヨリ之ヲ撰ブ典侍八人目下員外典侍四人アリ典侍ハ極メテ上流ノ社會(即チ貴族ノ名家)ヨリ之ヲ撰ビ有夫者又ハ寡婦ニ限ル一人宛輪番ニ出勤ス交代期日ハ二週間乃至一ヶ月ナリ命婦八人目下員外命婦四人アリ是亦概ネ結婚者ヲ舉グ門地ハ典侍ノ如ク嚴ナラズ此官亦一人宛當番アルコト典侍ニ同ジト雖モ常務ニアラズ國儀アルトキニ限り出勤ス侍女八人目下員外侍女アリ通例未嫁ノ女子トス二人宛輪番ニ常勤ス大概一ヶ月交代ナリ當番順序ハ諸女官トモ皆チ年始ニ女皇之ヲ定ム但員外官ハ概ネ當番ノ列ニ加ヘズ女官ノ衣服ハ總テ普通ノモノニシテ我邦女官ノ如ク異様ノ衣裳結髮ヲナスコト無シ歐洲ニハ日本ノ位階ノ如キモノナシ況ンヤ女官ノ位階ヲ帶ブルモノア

ランヤ女官ハ皆通常ノ名稱即チ貴族ナレハ其ノ名稱ヲ以テ之ヲ呼ビ別ニ女官ニ屬スル爵位ナシ婦人ニ與フル勳章アリト雖モ之ヲ得ルコト甚タ難キニ依リ女官ノ資格ニテ之ヲ得ルモノ殆ドアルナシ總テ儀式ノ節ハ典侍一人侍女二人陪侍ス平常ノ行幸ニモ大概供奉ス國儀ノ節ハ外ニ命婦一人陪侍ス君主男帝ナレバ女官ハ皇后ニ屬スルヲ以テ皇后ノ出御ナキトキハ女官ノ陪侍スルコトナシ

忠孝節義者ノ賞與

歐洲ニテハ公賞ノ主義稍ク東洋ト異ニシテ賞與ノ標準トスル所ハ概ネ公益ノ點ニアルガ如シ忠孝節義モ亦此ノ中ニ包含スル勿論ナルヘシト雖モ東洋ノ如ク之ヲ以テ判然賞與ノ主義トナスコトナキニ似タリ且歐洲ニテ金圓ヲ賞與スルニ

ハ之ヲ受クル者ノ貧富如何ニ據モノ、如シ即チ賞與ハ賑恤ノ意ヲ含ムモノ多シ日本ニテ學校等へ献金シタル賞與トシテ金銀木盃ヲ下賜スルニハ常ニ献金ノ多寡ニヨリテ之ヲ定ムルヲ以テ大臣參議ニシテ木盃ヲ受クルコトアルカ如キ死物同様ノ賞與法ハ歐洲ニ於テ之レアルヲ見ス

賞與ニ二種アリ一ハ年金ニシテ一ハ一時賞與若クハ臨時手當ナリ年金ハ學術技藝等ニテ功勞アル者ニ賜ハル制ニシテ法律ニ於テ定メタル宮内定額ノ養老金ノ項ヨリ之ヲ支給シ一時賞與ハ御手元金ヨリ之ヲ支出ス

國家ニ大勳功アル者ニ對シ議院ノ議決ヲ經テ金祿ヲ賜フ如キ場合ハ本條ノ限ニアラサルハ勿論ナリ

皇后勳章

英國ニテ婦人ニ與フル勳章二種アリ(一)「クワヰ井クトリア」アルベルト「章」ト云フ一千八百六十二年今代女皇ノ設クル所ニ係ル(二)「クラウン、オフ、インディア」ト云フ一千八百七十八年之ヲ設ク第一ノ勳章ハ一般ニ授與スルモノニシテ第二ハ印度ニ關係アル者ニ限ル即チ印度ノ王女又ハ英國婦人ニシテ印度ニ功勞アルカ或ハ其夫印度ノ高官ニ任シ之ヲ助ケテ功アル者ニ之ヲ與フルナリ皇女ハ大概此ノ二勳章ヲ受ク將來男主人ノ世トナルニ及デハ皇后モ亦之ヲ受クルナラン

勳章親授

外ニアリテ軍務ニ従事スル武官ニ勳章ヲ授與スル等已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外勳章ハ大抵君主ノ親授ニ係ル從軍章ヲ授ルモ亦然リ授與式ニハ勳章及ヒ從軍章ヲ受クル者ノ身

分如何ヲ論ゼズ假令通常ノ兵士タリト雖モ君主ハ親ヲ其人ノ胸間ニ就テ之ヲ懸ク勳章授與ノ式場ハ時宜ニヨリテ同シカラズ嘗テクリミヤ戰爭ノ後倫敦ノ公園ニテ授與式ヲ行ヒ衆庶ノ縱覽ヲ許シタルコトアリ此時君主及皇族ハ稍々高キ場所ニ其席ヲ占メラレ士官兵卒一々順ヲ以テ君前ニ進ミタリ中ニ戰場ニテ兩脚ヲ失ヒ小腕車ニ載セラレ御前ニ進ミタルモノアリシカ君主手カラ針ヲ以テ其ノ胸間ニ勳章ヲ懸ケラレタルトキハ之ヲ觀ル者皆感泣セザルハナカリキ又曾テ王宮内ニ於テ授與式ヲ行ヒタル時ハ勳章ヲ受クル者ハ馬蹄形ニ併列シ君主ハ一々其ノ胸間ニ就テ勳章ヲ懸クルコト前ノ如クナリシ此ノ席ニハ皇族男女及ビ宮内官吏列坐シタリ近來此ノ如キ儀式ニハ皇季女ビヤトリス大概女皇ニ陪席セ

リ又曾テ勳章ヲ受クヘキ者(蓋シト海軍人ナ)偶々海邊ニアリ女皇亦々偶然其ノ地ヲ經過セラレ、ニヨリ同人ヲ豫メ停車場ニ召サレ勳章ヲ授與セシコトアリ是レ素ヨリ變則ナリト雖モ式ノ簡單ナル却テ拜受者ヲシテ感情ヲ増サシムルモノナリ之ヲ要スルニ歐洲ニテハ勳章ヲ授與スルニ方リ其ノ方法常ニ之ヲ受クル者ヲシテ感謝ノ情ヲ増進セシムルヲ以テ目的トセリ大陸ニテハ皇帝親カラ兵營或ハ戰場ニ赴キ授與式ヲ行フコトアリ

賞品種類

賞與ニ物品ヲ用フルハ甚々稀ニシテ別ニ定リタル規則ナク時宜ニ依リテ同シカラズ起業者等ヲ賞スルニハ大概「パロネツト」ノ爵ヲ以テス此ノ爵ヲ得ルモノハ「サ」ノ名稱ヲ以テ之

ヲ呼フ此爵ハ未タ貴族ニ列スルニ至ラズト雖モ平民中ノ最高位ニシテ我カ士族ニ似タリ只我カ士族ノ如ク其數多カラザルノミ外國人ニシテ國事ニ關シ功勞アル者ニハ劍ヲ賜フコトアリ

皇后ヨリ有功婦人ヘノ賞

名譽ノ根源ハ只君主ニアルノミ故ニ君主ヲ除クノ外勳章及爵位ヲ授與スルモノナシ然レトモ皇后及ビ皇太子ニ對シ功勞アル者ニハ君主之ヲ賞スルコトアリ例ヘバ太子公式ニテ府縣巡行ノ際府尹縣令等ニシテ盡力シタル者ニハ「太子何府ヘ巡行ノ節特別ノ功勞ニヨリ某爵ヲ授與ス云々」トテ君主ヨリ之ヲ賞スルコトアリ(但此爵ハ「バロチツト」即チ士族ニ近キ爵ナリ)

内外國行供奉

女皇曾テ一千八百五十五年巴里ヘ行幸ノ後ハ外國行ハ大概微行ナリ行幸ノ時衛兵ニハ定數ナク上下一切二三十人ニ過キス微行ノ時ニハ衛兵ナシ陪扈ハ皆宮内官吏及女官ヲ撰ビテ之ニ充ツ是亦定數ナク場合ニヨリ五六人多キモ十人ニ過ギズ女皇外國行ノ時及内國ニ在リテモ遠地ニ行幸ノ時ハ内閣大臣一人陪從スルノ例ナリト雖モ微行ニハ之ヲ略スルコト多シ只女皇付秘書官概チ隨行スルノミ

内國行ニハ女皇大概瀛車旅行ナルニ依リ扈從亦從テ少ク五人乃至十人ニシテ陪從スル者ハ侍從、女官及秘書官ナリ倫敦御着ノ時ハ護衛ノ騎兵停車場ニテ女皇ヲ迎フ其數大概十二騎ナリトス

供奉騎兵組織

供奉騎兵ノ組織ハ其ノ人柄ト場合ニヨリテ多少アリ其ノ種類左ノ如シ

一 佐官護衛

佐官一人

大尉二人

中少尉四人

下士官十人

馬醫二人

喇叭手一人

騎兵百人

右皇帝國儀ノ節ニ用ユ

一大尉護衛(軍旗ヲ備ヘタルトキ)

大尉一人

中少尉二人

下士官三人

馬醫一人

喇叭手一人

騎兵四十六人

右儀式ニヨリ外國君主ヲ護衛シ其他特別ノ命令アルトキニ用ユ

一大尉護衛(軍旗ナキトキ)

大尉一人

中少尉ノ内一人

下士官四人

馬鑿一人

騎兵三十人

右皇帝半國儀ノ節ニ用ユ

一太子ノ護衛

中少尉ノ内一人

下士官三人

騎兵二十四人

右太子皇帝ノ代理ニアラザルトキノ半國儀ノ節ニ用ユ

一普通旅行護衛

中少尉ノ内一人

下士官一人

騎兵十二人

右國儀ニアラザル他ノ儀式ノ場合ニ皇族ヲ護衛ス

一皇帝旅行護衛

中少尉ノ内一人

下士官二人

騎兵十二人

右皇帝倫敦發着ノ際王宮ヨリ停車場ノ間普通此ノ護衛ヲ用

ユ其他ノ行旅ニハ略式ヲ用ユルコト多シ故ニ此護衛モ常ニ

ハ用井ザルナリ

一陸軍都督タル皇族ノ護衛

下士官一人

騎兵十二人

右儀式ノ節陸軍都督タル皇族ヲ護衛スルニ用ユ

一皇族ノ護衛

下士官一人

騎兵八人

右君主ノ名代ニアラズシテ皇子若クハ皇女ノ儀式ニ臨ムト
キノ護衛ニ用ユ
右ハ其大體ヲ舉クルモノナリト雖モ時ト場處ト場合トニヨ
リ多少ノ變更アルモノト知ルヘシ
供奉ノ外ニ名譽護衛ト云フモノアリ即チ騎兵ヲ公式場ノ正
門ノ兩側ニ排列スルノ謂ニシテ王宮謁見式ノ時ニハ宮門ニ
之ヲ排列ス開院式ニ親臨ノ節ニハ宮門并ニ議院ノ入口ニ之
ヲ排列ス其ノ他開業式等ニモ之レヲ用ユ騎兵ノ數ハ百騎ヲ

普通トス上下士官喇叭手等之レニ稱フ事態ニヨリテハ増減
スルコアルベシ又大禮例ヘバ即位式又ハ開院式閉院式等ニ
親臨ノ時ニハ近衛歩騎兵ヲ御通路ノ兩側ニ配置シ以テ盛儀
ヲ添フ騎兵ハ常ニ二騎宛竝行ス

近衛士官當番

英國ノ近衛兵ハ騎兵三聯隊歩兵三聯隊ヲ以テ組織ス各當番
大佐一人之ヲ司令ス騎兵將官一人大佐二人金杖ト云フ官ニ
任ス一ヶ月交代ニテ一人宛當番ス當番者ハ當番中近衛騎兵
ヲ都督シ直ニ君主ニ隸屬ス騎兵聯隊ノ大佐中佐銀杖ノ官ニ
任ス各一ヶ月交代ス銀杖ハ金杖ニ隸屬ス大儀式行列ノ節ハ
當番供奉ニ加ハル金銀杖ノ名ヲ得タル所以ハ金銀ノ杖ヲ持
スル故ナリ其ノ由來詳ナラズ蓋シ亂人ヲ防ク爲メナラント

云フ

近衛歩兵佐官一人當番士官ヲ務ム其ノ職掌金銀杖ヨリモ多シ其ノ詳細左ノ如シ

近衛當番士官

近衛歩兵大中佐十人ニシテ一人一ヶ月宛王宮當番士官ヲ勤ム當番中ハ儀式局ニ屬シ儀式頭ノ命ヲ近衛ニ傳ヘ護衛兵ノ準備等ヲ爲ス但重要ノ件ハ此限ニアラズ
左ノ場合ニ於テハ當番士官ハ君主ニ供奉ス

(二)議院開閉(三)公式ニテ劇場ニ臨御ノトキ

以上ノ場合ニ於テハ供奉車ノ中ニテ何レニカ一座ヲ賜フヲ例トス騎馬ニテ供奉スルコトアリ御車後輪ノ右背ノ所ニ從フ隊付士官ハ兩側ニ從フ

(三)王宮謁見式ノトキ(四)勳章親授ノトキ(五)宮中舞蹈會(六)總

テ所謂名譽護衛ヲ排置スルトキ但護衛解散等ノ責ニ任ス(七)公式ニアラズシテ音樂會ニ臨御ノトキ但此場合ニハ武官ノ制服ヲ着セス

鐵道賃金

國王ト雖モ鐵道賃金ヲ仕拂フコト他ノ旅客ニ異ラス但列車中一輛ヲ雇切ルヲ以テ常トス鐵道役員ニ於テ一層ノ注意ヲ加フルハ勿論ナリトス

皇后御同行

夫婦同行ハ歐洲ノ習慣ナリ故ニ其ノ事件ニシテ男子ノミニ限ル場合ニアラザレバ夫婦同行ヲ常トス皇族ニ於テモ亦然リ故ニ皇帝皇后概テ同行ス

觀兵式

觀兵式ニハ緩歩急歩定例ナシ急歩ノ際ニ在リテモ例ヘハ一隊恰モ外國ノ苦戰ヨリ歸リタルモノアル如キ場合ニハ其前ヲ過クルニ當リ特ニ緩歩熟覽シ以テ皇恩ヲ加フルカ如キ活法ヲ用ユルコト少カラズ

觀兵式ニハ女皇大概皇夫ト騎馬ニテ同行シタリ然レトモ時ニ依リ女皇ハ馬車皇夫ハ乘馬ナリシコトナキニアラス男主ノ世ト雖モ皇后ハ大概同行ス即チ佛ノ拿破崙第三世ノ皇后ハ常ニ騎馬ニテ同行シ供奉女官モ亦騎馬ナリシコトハ目撃者ノ語ル所ナリ

武官御會食

近時英國ニテハ君主武官ノ資格ニ依リ武官ヲ會食ニ召サル

コト少シ勿論君主屢々武官ヲ會食ニ召サル、コトアリト雖モ是レ武官タルノ故ニアラズシテ寧ロ一箇人トシテノ禮遇上ヨリ出デタルモノナリ勿論武官タルニ依リ此禮遇ヲ受クルノ機會多シトノ意義ヲ忘却ス可カラズト雖モ武官ナレバ必ス其資格ニ依リ直ニ陪食スルコトヲ得ルモノト思做ス可ラズ

舞蹈會音樂會ニハ許多ノ武官招狀ヲ受ルコト多シ此等ノ會ニ與カルコトヲ得ヘキ者ハ皆ナ會テ謁見ヲ得タルモノナリ今マ武官ニシテ謁見ヲ得ル者ハ士官以上ナリ故ニ日本武官ニ比較スレハ少尉以上ナラン

此等海陸軍武官ハ士官ナルノ故ニ依リ舞蹈會音樂會ニ召サル、ノ權アルニアラス宮内省ヨリノ招狀アルニヨリ之ニ赴

クヲ得ルノミ「レビ」ニテ謁見ヲ得タル武官ハ概ネ御禮トシ
 テ一兩日内ニ王宮ニ赴キ帳簿ニ其姓名ヲ記ス儀式局ニテハ
 舞蹈音楽アル毎ニ招待スベキ者ヲ此ノ帳簿中ヨリ撰ビ表ヲ
 作り君主ノ允許ヲ得タル上之ヲ招待スルナリ或ハ該會ニ招
 待セラルベキ者ニシテ素行修ラザルニ依リ招待ニ與ルヲ得
 サル者アリ招クト招ザルハ一ニ君主ノ意思ニ在ルモノトス

面會定日

謁見日ノ外ハ一般ノ臣下ハ容易ニ君主ニ拜謁スルヲ得ルモ
 ノニアラズ從テ亦定日ナシ内閣大臣ハ何時タリトモ君主ニ
 謁シ國事ヲ奏上スルコトヲ得議院議長亦同シ英國憲法ニ據
 レバ貴族ハ君主ニ謁見スルヲ得ルノ權アリ是レ封建ノ昔貴
 族權ヲ專ニシ君主威ヲ恣ニスルノ時ニ方リ君主過アレバ貴

族之ヲ諫ムルヲ得ル爲メ斯ノ如キ權利ヲ與ヘタルモノニシ
 テ今猶貴族ハ此ノ權ヲ保有セリ然レトモ責任内閣ノ今日ニ
 於テハ實際之ヲ行フコトアルナシ

内閣大臣會食定日

内閣大臣陪食ノ定日ナシ但時々特別ニ之ヲ招カルスル時ニ
 ハ其妻ヲモ招カル、コト多シ又ウヰヰンヅル城ニ招カル、時
 ハ其夜ハ宮中ニ留メラル、コト屢ナリ又政務ノ爲メ内閣大
 臣宮城又ハ離宮ニ伺候スルコトアリ斯ル時ニハ其夜ハ大概
 陪食ヲ賜フ大臣ノ陪食ハ必ズシモ全内閣員ヲ同時ニ招カル
 、ニアラズ

朝拜

英國ハ佛伊普ノ諸國ト異ニシテ所謂朝拜即チ元旦謁見ナル

モノアルナク春時ニハ屢々謁見式アリ其一ナ「レウヰ」ト稱シ
 一ナ「ヅロ」ウイング、ル「ム」ト稱ス「レウヰ」ハ男子ノ謁見日ニ
 シテ「ヅロ」ウイング、ル「ム」ハ重ニ婦人ノ謁見日ナリ「ヅロ」
 ウイング、ル「ム」ニハ男子ハ遠慮スルヲ例トス兩時共ニ女皇
 自ラ臣下ヲ引見ス然レトモ女皇其ノ配ヲ失ヒシ以來深ク人
 事ヲ厭ハセラル、ニヨリ「レウヰ」ニハ太子ノ代ラル、コト多
 シ「レウヰ」ニハ皇族男子及内閣大臣之ニ陪シ「ヅロ」ウヰング、
 ル「ム」ニハ皇族男女及内閣大臣女官之ニ陪ス外交官ハ兩時
 共ニ謁見スルコトヲ得
 凡ソ謁見ハ在官者及其家族ニ限ルニアラズ平人ト雖モ身元
 正シク紳士社會ニ屬スルモノナレハ謁見ヲ得ルモノトス而
 シテ謁見ノ手續等ハ別ニ例規アリテ存セリ

學士起業者臨時引見

學士起業者等ヲ臨時君前ニ召サル、コトアリ例ヘハ女皇曾
 テ教授「マックスミユレル」氏ヲ御前ニ召シ言語學ノ講義ヲ聽聞
 セラレタルコトアリ斯ノ如キ例少カラズ

皇后會食

歐洲ニテハ家族相集リテ會食スルハ正則ナリ通常ノ晚餐ニ
 於テモ亦會食男女ノ數大概相同シカラシコトヲ欲ス獨リ此
 例外ニ屬スルハ事國政ニ關スルカ或ハ府町ノ集會等ニテ婦
 人ト全ク相關セサルトキノミ故ニ宮禁ノ晚餐等ニ皇后ノ會
 食スルハ正則ナルヤ明ナリ

皇領地皇室費

昔時ハ國費ト皇室費トノ區別判然ナラズ君主ハ宛モ國事ニ

關スル各項費ノ請負人タルノ觀アリ而シテ歲入ノ一部分ハ關稅及其他ノ租稅ニシテ一部分ハ所謂皇領地及牧場森林等ノ收入金ナリ當時財政ノ制度宛モ我幕府ノ時ノ如シ然レドモ當時財政甚不完全ニシテ皇領地ノ私領ニ於テハ殊ニ然リトス而シテ之カ賣却貸與一ニ君主ノ擅ニスル所ニシテ其歲入亦適當ノ額ヲ生セズ茲ニ於テ始メテ法ヲ設ケ君主ノ恣ニ其ノ皇領地ヲ賣買讓與スルヲ禁シ漸次ニ其管理方法ニ及ホシ遂ニ所謂皇室費ノ制ヲ設ケタリ此ノ制タルヤ皇領地ノ私領ヲ皇室ヨリ分離シ行政々府中ニ一局ヲ置キ專ラ皇領地ノ管理ヲ掌リ其ノ監督ハ議院之ニ任シ別ニ皇室ノ費用トシテ巨多ノ定額ヲ支出スルニアリ故ニ所謂皇領地ナルモノハ純然タル皇領地ニアラズ寧ロ之ヲ國領地ト謂フモ可ナリ皇室

費ノ外皇子婚シテ別ニ一家ヲナストキハ內閣ノ發議ニ依リ議院ノ可決ヲ經テ若干ノ年俸ヲ國庫ヨリ贈與ス又未タ婚姻セザルモ成年ニ達スレバ若干ノ年俸ヲ贈與スル事アリ皇女ノ嫁スル時亦然リ是レ皇室ニ於テハ皇領地ヲ政府ニ委託シ且大ニ皇室費ヲ節約シタルニヨリ之カ報償トシテ斯ル別途ノ費用ハ國庫ヨリ之ヲ支出スルナリ以前ニ在リテハ皇族俸給ハ皆皇室ニテ之ヲ負擔シタリ其他君主ハラシカスターノ公領地ヨリ出ツル若干ノ歲入金ヲ受ク該公領地ノ管理ハラシカスター公領地頭ナル官アリテ之ヲ掌ル該官ハ大概內閣大臣ノ一人之レニ任ス公領ノ歲入金ヨリ一切ノ費用ヲ仕拂タル後純粹ノ收入金ハ君主ノ御手元金トナルモノナリ然レモ是必シモ皇領地ト云ニアラズ寧ロランカスター公ノ資格

ニテ君主ニ屬シタル領地ト云フモ可ナリ抑モ該公領地ノ根源タルヤ封建ノ時エドワード第三世皇族シヨン、オフ、ガウンナル者ナ此地ニ封セシニ基ツケリシヨン、オフ、ガウンノ子ヘンリー（ランカスター）家繼テ此ノ地ヲ領ス後ナリテヤルド第二世廢セラレヘンリー王位ニ登リヘンリー第四世トナリタル時此ノ領地ハ皇領ニ混入スベキ筈ナリシモヘンリー第四世ハ假令王位ヲ失フモ公位ヲ失ハザランカ爲メ如何ニモシテ此領地ヲ保存セント欲シ遂ニ議院ノ認可ヲ得之ヲ自己ノ有トナシ其ノ子孫ニ傳ユルコトトナシタリヘンリー第五世第六世ノ時ニモ其儘之ヲ傳襲セリヨーク家ノエドワード第四世王位ニ復スルニ及ビ之ヲ皇領ニ混入シタリト雖モ其吏員等ハ依然タリシナリ後ナヘンリー第四世ノ裔ヘンリー第

七世王位ニ即クニ及ヒ再ビヘンリー第四世ノ政略ヲ用井之ヲ他ノ皇領ヨリ分離シ續テ今代ニ至レリ實際上此土地ハ時々ノ君主ニ屬スト雖モ前述ノ如クランカスター公ノ資格ニテ所有スルモノナリ
君主ハ私人ノ資格ヲ以テ其手元金ニテ土地ヲ購求スルハ自由ナリ然レトモ是皇領地ニアラズ君主ノ私有財産ナリトス太子ニ屬スルコルンウシャルノ公領地アリ其ノ純歲入六万五千磅許ナリ曾テエドワード第三世ノ太子始メテ此ノ地ニ封セラレタルニ基クモノ、如シ續テ今ニ至ルモ猶太子ハ生ナガラニシテコルンウシャルノ公ニシテ收入ハ皆太子ノ内帑ニ納ム從來太子幼少ニシテ二十一歳ニ達セザルトキハ君主常ニ該地ノ歲入ヲ私有シタリシモ今代ノ女皇ニ及ンテハ

太子ニ代リテ之ヲ貯藏シ其長シテ結婚セララル、ニ及ビ悉皆之ヲ太子ニ與ヘタリ
 皇室費ハ君主即位ノ時議院之ヲ議定ス今代女皇ノ皇室費一ケ年ノ總額左ノ如シ
 三拾八萬五千磅

内

千貳百磅

養老金

學士及ビ工藝技術ニ長シタルモノニシテ公賞ヲ受クベキ貧困ナル者若クハ其遺族ニ賜與ス別ニ法律ニ規定セル文武官ノ養老金ヲ云フニアラズ

六萬磅

御手元金

十三萬千貳百六拾磅

宮内官吏俸給及養老金

拾七萬貳千五百磅

宮内經費

壹萬三千貳百磅

貧民救助費等

餘金

不定

ランカスター公領地歳入ハ今代女皇即位ノ初ハ僅ニ八千九百十二磅ナリシモ千八百五十九年ニ至リ一切ノ雜費ヲ控除シ御手元へ納メタル純益金二萬五千磅ニ達セリ亦以テ管理方法ノ進歩ヲ見ルニ足ルヘシ
 現今皇族年俸左ノ如シ

太子

四〇、〇〇〇磅

太子妃

一〇、〇〇〇磅

皇長女(日耳曼太子妃)

八、〇〇〇磅

エヂンバラ公(第二ノ皇子)

二五、〇〇〇磅

- クリスチヤン皇女(第二皇女ニシテ日耳曼ノ) 六〇〇〇磅
- ルイ皇女(第三皇女ニシテ) 六〇〇〇磅
- ユンノート公(第三皇子) 二五〇〇〇磅
- ビヤトリリス皇女(皇季女ニシテ日耳曼バツテンベルヒ國ノ皇子ヘンリーニ嫁ス) 六〇〇〇磅
- ケンブリヂ女公(皇叔女) 六〇〇〇磅
- メツクレンブルヒ女公(皇從妹) 三〇〇〇磅
- ケンブリヂ公(皇從弟) 一二〇〇〇磅
- テック女公(皇從妹) 五〇〇〇磅
- アルバニー女公(皇季子ノ寡婦) 六〇〇〇磅

侍補

特別ニ侍補ノ如キ官ノ設ケナシ然レトモ君主付秘書官之ニ近シ秘書官ハ才幹アル者ヲ以テ之ニ任ス往昔君主ノ政務ヲ

専裁シタリシ時君主ハ一二ノ書記官ヲ用井政務ヲ執ラシメタリ後政務漸ク多端ナルニ及ヒテ書記官ニ代ルニ尙書ヲ以テセリ即チ今ノ諸省ノ大臣是ナリ秘書官ノ職ハ蓋シシヨルシ第三世明ヲ失ヒシトキ初メテ此ノ官ヲ置ケルモノ、如シ而シテ此ノ官職ハ憲法上ノ設置ニ係ルモノニアラザルヲ以テ之ヲ置クト否ハ時宜ニ從フノミ其ノ性質ハ眞ノ秘書官ニシテ國政ニ參與スルモノニアラズ

君主學術

皇子皇族ノ教育ニハ大ニ意ヲ用ユ殊ニ主トシテ佛語獨語等ノ緊要ナル語學ヲ教授ス何トナレバ此等ノ語ハ皇族ニ緊要缺クヘカラザレバナリ王位繼承ニ近キ者ニ在リテハ殊ニ然リトス之ガ爲メ概チ一人ノ監傳ヲ置キ其認定ニ依リ亦普通

ノ教師ヲ聘シ之ヲ教育ス今代ノ女皇ハ數國ノ語ニ通シ且拉丁希臘語ニ通曉ス皇子幼少ナルトキハ宮中ニテ之ヲ教育シ漸ク長スルニ及ヒテ陸軍學校或ハ海軍學校或ハ大學ニ入ラシメ或ハ海陸軍學校ニ入ラシメ且大學ニ入ラシムルモノアリ皇子學校ニ入ルトキハ其監傅モ亦之ニ從フ君主幼年ナルトキハ其教育ニ意ヲ用ユヘキハ勿論ナリ然レトモ長スルニ及ビテ別ニ定マリタル教育ノ方法ナシ或ハ時宜ニヨリ語學教授ノ爲メ教師ヲ置クコトアルベシ

侍從着服

教師ニ定員ナシ
 平常奉仕ノ服ニハ別段ノ定制ナシ公式供奉ニハ制服アリ英國上流社會ニテハ晚食ヨリ小禮服ヲ着スル事多シ宮中モ亦

然リウヰンゾル宮中ニ限り侍從等ノ宮中晚餐後ノ服ニハ一定ノ制アリ此ノ服ヲ稱シテ「ウヰンゾル」服ト云ヒ決シテ他所ニ用ヰズ其制紺色ニ赤色ノ袖及襟ヲ付シ釦ハ金鍍金ニ用ヰ即チ女皇ヰヰクトリヤノ畧字ヲ付シタルモノヲ用ユ宮内高官及ビ侍從之ヲ着ス

皇帝坐右ノ什具書籍ノ取扱人

別段ノ制ナク常人ト殊ナラズ但宮中ニ御書物掛アリ

寶器及貴重ノ器物

寶器中最モ貴重ナルモノハ大寶冠、皇笏、大寶玉等ナリ其他歴代君主皇后ノ着シタル大寶冠(即位式ノ時ニハ皇后モ亦即位冠ヲ着ク)ノ存スルアリ皆儀式局ノ管轄スル所ニシテ倫敦塔中ノ寶玉ノ間ニ備ヘ衆庶ノ縱覽ニ供ス古代ノ武器等亦此ノ塔裡ニ藏メ衆庶ノ縱覽

ナ許ス其他ノ器物ハ宮中ニ尙藏スルモ別段ノ規則ナシ

宮中物品御用

宮中ニテ物品ヲ購入スルニハ大凡一定ノ御用店アリ但必ズシモ他店ニ命セズト定レルニアラズ

親書取扱

親書ハ女皇付秘書官之ヲ取扱フ御親族間ニ於ケル往復ノ私書ハ此限ニアラズ

皇家ノ色

歐洲ニテモ日本ノ如ク紫色ヲ尊ブ諺ニ曰ク「紫衾上ニ生ル」ト即チ皇族ニ生ル、ノ謂ナリ即位式中ニモ君主大禮服ノ上ニ紫色ノ外衣ヲ着スルコトアリ

數爵兼帶

爵ハ封建時代ニ起リタルモノニシテ本ト土地ト關係ヲ有シタルモノナリ故ニ一人ニシテ某地ノ公ト他所ノ侯トヲ兼テタル者アリシ後チ爵ハ全ク土地ト關係ヲ有セザルニ至リテモ猶此ノ風習ヲ存シ一人ニシテ數爵ヲ兼帶スル者アリ近時ニ在リテモ爵ニ冠スルニ地名ヲ以テセリ例ヘバサリスバリ
|| 侯ビーコンスフ井ールド伯ノ如キ是ナリ故ニ今日數爵ヲ兼帶スルハ封建時代ノ餘習ニシテ決シテ怪シムニ足ラザルモノトス

君主養子

君主ニ養子ナシ王位ノ繼承ハ法律ニ規定セル所ニシテ君主ト雖モ擅ニ之ヲ變更スルノ權ナシ獨逸ニハ「フアーブル」ダリングト云フ制アリテ稍ヤ我が養子ト相類シ君主ノ血統絶

へ王位ヲ繼承スベキ者ナキトキ君主ハ其ノ繼嗣ヲ指定スル
コトアリト雖モ是亦議院ノ承諾ヲ得ザル可ラズ

大赦特赦

大赦特赦ハ君主ノ特權ナリ英國ニテハ未タ大赦ノ例ヲ聞カ
ズ若シ之ヲ行フトキハ議院ノ承諾ヲ經ザル可ラズ何トナレ
バ法律ニ之カ制限アルヲ以テナリ特赦ハ事情斟酌スベキモ
ノアレバ概テ内務尙書ノ奏請ニ因リ之ヲ行フ刑罰執行ノ責
任ハ該尙書ニアリ

帝名裁判

王者ハ正義ノ源泉ナリ故ニ道理上ニ於テハ裁判官ハ君主ノ
名代ニシテ裁判宣告ハ君主ノ裁判ナリ往昔封建ノ世裁判法
未タ完全セサル時ニ於テハ君主自ラ訴訟ヲ聽キ之ヲ裁判シ

タルコトアリシト雖モ近時絶テ此ノ如キコトアラズ裁判召
喚狀等ニハ王名ヲ用ユト雖モ裁判ハ裁判官口頭ヲ以テ其ノ
理由ヲ説明シ之ヲ宣告スルニ依リ道理上裁判官ハ君主ノ名
代タルモ之ヲ以テ帝名裁判ト云フベカラズ

有勳者有爵者取扱

有勳者有爵者ノ取扱方ニ付キテハ一定ノ方法アルナシ只タ
大禮アル時之ヲ招キ或ハ會食ニ陪セシメ或ハ宮中ノ舞踏會
音樂會等ニ招ク等宮廷ノ厚遇ヲ被ルニ過ズ然レドモ此等ノ
接遇ハ勳爵ノ尊卑ヲ以テ之カ標準トナスニアラズ有勳爵者
ニシテ素行不修等ノ事情アリテ君主ノ寵遇ヲ被ルヲ得ザル
者アリ故ニ君主ノ接遇ハ活物ニシテ死物ニアラズ其公式上
着席ノ順序ニ至リテハ素ヨリ一定ノ規則アリテ存ス其他君

主ノ優遇スル所以ノモノハ一ニシテ足ラズ即チ功臣病ニ臥スル時ハ勅使ヲ遣シテ之ヲ慰問シ功臣其ノ妻ヲ失フトキハ勅使ヲシテ之ヲ吊慰シ或ハ功臣死スル時ハ勅使ヲ遣シ或ハ花ヲ贈リテ其棺ヲ裝飾シ特別ノ場合ニハ議院ノ議決ヲ經テ國葬ノ禮ヲ賜フコトアリ彼ノ文武ノ大功臣タルウエルリントン公ノ薨シタルトキノ如キ即チ是ナリ然レトモ君主ノ接遇ニハ一定ノ規則アルナシ故ニ曰ク死物ニアラズト

皇子皇族任官

皇子皇族ハ概チ文官ニ任セラル、コトナク其ノ任官ハ陸軍ニアラザレバ則チ海軍武官ニシテ其ノ方法ニ至リテハ別ニ一定ノ規則アルナシ只陞叙進級ハ特別ノ詮議ニ依リ他ノ官吏ノ如ク規則ニ羈束セラル、コトナキノミ

祖宗ノ祭典

祖宗ノ祭典トテ別ニ國禮ノアルナシ然レトモ近親ヲ祭ルコトアルハ勿論ナリ例ヘバ女皇其ノ皇夫ヲ祭ルカ如キ是ナリ然レトモ歐洲ニ於テハ宗教上ノ禮式ハ總テ僧侶ノ掌ル所ニシテ君主ハ式場ニ列席スルノミ僧侶ニ代リ親祭スルコトナシ

演劇免狀及皇覽ノ趣意

演劇ヲ認可スルノ權ハ儀式局ニアリ然レトモ演劇ノ性質國亂ヲ挑發スルノ虞アルガ如キ放任シ難キ事情アル場合ニアラザレバ其ノ脚色ニ干涉スルコト甚タ稀ナリ歐洲ニテハ演劇ハ寧ロ技藝ノ點ニアルヲ以テ皇帝ノ觀覽スル演劇ハ人民ノ風俗ヲ善ニ導クノ趣旨ナリ」ナド云フコトアラス其ノ批評

ハ寧ロ之ヲ輿論ニ任スルノミ

宗廟陵墓

我國ニテ所謂宗廟陵墓ノ如キモノナシ古代ノ君主ハ皆テ寺院ニ葬リ近代ニ至リテハウヰンゾル城皇寺ノ床下ノ石窖ニ葬ル故ニ特別ノ建築修繕ヲ要スルコト少シ皇夫アルベルトノ薨スルヤ女皇ハ其ノ愛情ヨリ特ニ石陵ヲ建築セラレ其ノ費用ハ御手元金ヨリ之ヲ支出シタリ

宮城守衛兵

宮城ノ外廓ヲ守ルハ近衛兵ノ職掌ナリ近衛兵ノ外ニ二種ノ宮禁兵アリ普通兵ニ比スレバ稍身分好キ者ヨリ撰拔スルモノニシテ親兵ト稱スベシ(一)ヲ「ゼントルマン、アト、アームスト」云フヘンリ―第七世ノ時始テ之ヲ置ク其數元來五十人ナリ

シガ後々改メテ四十人トナセリ即テ現時ノ員數ナリ(二)イオコン、ナフ、ガード」ト云フヘンリ―第八世ノトキ之ヲ設ク其ノ數元來百人ナリシガ後々増シテ二百人トナリ又減シテ百人トナル即テ現時ノ員數ナリ此等ノ宮禁兵ハ元宮中ヲ守衛シ或ハ君主外出ノ時ノ護衛兵タリシガ今ハ之ヲ用フルト少ク謁見式等ノ時宮中ノ通路ヲ守リ或ハ謁見室ノ次室ヲ守ル故ニ寧ロ之ヲ裝飾ノ兵ト云フテ可ナリ即位式議院開閉式等ノ際ニハ其幾部ハ行列中ニ加ハルナリ

オスボルン及ビバルモラノ離宮ニハ別ニ守城ノ制ナシ必用ノ節ハ近方屯在ノ鎮臺兵ヲ用ユ

貴族裁判

重罪裁判ニハ貴族ハ上院ノ裁判ヲ受クルノ權アリ他ノ刑事

民事ニ在リテハ平民ト異ナルコトナシ閉院ノ時ニハ上院議長タル大法官ヲ臨時裁判官ニ任ス抑モ此ノ權利ノ根原ハ「マ
グナ、カルタ」中「英國臣民ハ各其同等人ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ
有ス」トノ一章ニ本クモノニシテ上院ハ貴族院ナリ故ニ貴族
ハ上院ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ有スルナリ然レトモ實際此ノ
如キコト甚タ稀ナリ法律上ニテ貴族タルモノハ只當主ニ限
ル故ニ其妻ヲ除クノ外貴族ノ家族ハ此ノ權ヲ有セス貴族ノ
妻ハ其ノ夫ト同一ノ權利ヲ有スベキヤ否ハ久シク世上ノ疑
問タリシガ遂ニ夫ト同一ノ權利ヲ有スルモノト決シタリ

上下院

英國上院ハ英國内地、蘇格蘭、愛爾蘭ノ貴族ヨリ組織ス愛爾蘭
貴族議員ハ其ノ數二十八人ニシテ終身議員ナリ愛爾蘭貴族

中ヨリ之ヲ互撰ス蘇格蘭貴族議員ハ其數十六人ニシテ同地
貴族中ヨリ之ヲ互撰ス其ノ任期ハ滿七年トス然レトモ議院
解散ノ後總撰舉アルトキハ七年ニ滿タスト雖モ之ヲ改撰ス
英國貴族議員ハ世襲議員ナリ故ニ撰舉ナシ
英國及蘇格蘭ノ貴族ハ下院ノ議員タルヲ得ス又下院議員ノ
撰舉人トナルコトヲ得ズ愛爾蘭貴族ハ上院議員ニアラザル
者ハ英國撰舉區ノ下院議員タルヲ得然レトモ愛爾蘭撰舉區
ノ下院議員タルヲ得ズ
此等ノ法律ハ貴族ノ當主ニ適用スルモノニシテ其ノ家族ハ
法律上平民ト異ナルナキヲ以テ下院議員ノ撰舉權及被撰舉
權ヲ有ス

勅使體裁

別ニ勅使ノ體裁ニ關スル制度ナシ

宮内若クハ皇后ニ屬スル學校及幼稚園

此ノ如キモノナシ

皇族犯罪

皇族犯罪ノ裁判トテ特別法ノ設ケナシ其ノ取扱方貴族ニ同
シ

日耳曼聯邦ニテハ大概宮内會議ハウスホルト、カウシユナルモノアリ皇族司法大臣
大判事等ヲ以テ之ヲ組織シ皇族ノ裁判ヲ司ル

皇帝親翰ノ送達

宮中付屬ノ使部アリ之ニ任ス

賞勳局

英國ニテハ佛國ノ如ク別ニ賞勳局トテ一局ヲナシタルモノ

ナシ數種ノ勳章アリテ各々之ヲ管掌スルノ掛官アリ首相之
ヲ總理ス

博物館等

博物館美術館圖書館等ハ數多アリ或ハ地方政府ノ公立ニ係
リ或ハ私立ニ係ル又國立ニ係ルモノアリ即チ英國博物館南
ケンシントン博物館及ビ「ナシヨナル、ガレリ」等是ナリ是等
ハ即チ國有財産ニシテ主トシテ政府ノ管理ニ係ルト雖モ自
ラ特別ノ組織ヲナシ其ノ役員等ハ政府ノ吏員ニアラザルモ
ノアリ

馬車馬ノ毛色

大禮即チ即位式及ビ開院式ニハ御車ニ駕スルニ八頭ノ白馬
ヲ以テス他ノ公式ニハ大概六頭又ハ四頭ナリ毛色ニハ定規

ナク栗毛又ハ青毛ヲ用ユルコト多シ葬式ニハ長尾長鬣ノ黒馬
ヲ用ユ此等ノ黒馬ハ豫メ準備飼養セルモノナリ平人ノ葬式
ニハ市中ニ同様ノ借馬アリ

皇帝皇族ノ徽章

武者所(ユレーヂ、オフ、アームズ)アリ皇室及ビ其他ノ徽章ノ事
ヲ司ル皇帝ノ徽章アリ他人之ヲ用フルヲ得ズ太子亦一種ノ
徽章アリ世々ノ太子皆之ヲ用ユ其模様皇帝ノ徽章ト粗同シ
自餘ノ皇子女ノ用フルモノモ亦大畧皇帝ノ徽章ト同シト雖
モ各自稍異ナル所アリ此等ノ徽章ハ皆皇帝ノ勅許ヲ得テ用
ユルヲ例トス其模様ヲ異ニスル所ハ武者所ニ於テ之ヲ圖シ
皇帝ノ認可ヲ得ルナリ又既嫁未嫁ニヨリ少シク變更ヲ加フ
又皇孫ハ皇子ノ徽章ト區別スル爲亦少シク變更スル所アリ

畧紋ハ徽章ノ上邊ノ一部分ナレバ之ヲ離シテ用ユルコトア
リ例ヘバ太子ノ三本駝鳥羽ノ畧紋是ナリ
西洋ノ徽章ハ元來楯ノ表面ノ繪畫ヨリ出テタルモノニシテ
其由來極メテ古シ

侍從配膳侍立

英國ニテ日本ノ侍從ニ相當スル官ハ身分亦高クシテ配膳ノ
賤役ニ任スルコトナク又御宴ノ節御坐ノ後邊ニ侍立スル如
キコトナキノミナラズ御宴ノ節ニハ時々陪食ヲ仰付ラルハ
コトアリ陪食ノ招狀ハ内膳頭勅ヲ奉シテ之ヲ發ス
總テ公式ニ關スル御宴會ニハ内膳頭會長ノ責ニ任ス

御宴配膳者

配膳者ハ内膳局ノ舍人ノ類之ニ任ズ平常配膳ノ服ハ燕尾服

ニシテ長キ脊足袋ヲ穿テ膝關節ニ達ス袴ハ短クシテ膝關節ノ處ニテ結ブ此ノ服ハ總テ英國貴族等ノ家僕ノ用ユルモノナリ公式ノ宴會ニハ別ニ一定ノ制服アリ

文武官取扱

謁見式等ノ際内閣大臣其他高官ハ一般謁見者ニ先テ謁見室ニ入ルヲ得ル爲メ私門通行ノ特例アリ私門通行券ハ外交官ニモ儀式局ヨリ之ヲ送付ス

内閣大臣其他高官ニハ宮中ニ於テ舞蹈會音樂會等アルトキ招狀ヲ送ルヲ常トス此ノ禮遇ハ亦其ノ妻女ニ及ブ

内閣大臣及高官ヲ除キ其他ノ官吏ニハ別段ノ特例ナシ而シテ其ノ宮中諸會ニ招カル、如キハ官ニ付屬シタルモノニアラズシテ寧ロ其人ノ社交上ノ地位ニ依リテ支配セララル、モ

ノトス

武官ノ宮中會ニ列スルヲ得ルハ總テ士官ノ名ヲ付シ得ベキモノトス即チ日本ノ武官ナレバ少尉迄ニ及ブ但是亦招狀アルニアラザレバ出席セサル勿論ナリ

謁見出願者

總テ新ニ謁見ヲ願フニハ已ニ謁見ヲ經タル人ノ紹介ヲ要ス紹介者ハ其人謁見ノ節同伴セザルヲ得ズ謁見出願ノ順序ハ紹介者ヨリ何日ノ謁見式ニ自分出席仕候其節何某ヲ紹介謁見仕度トノ趣意ヲ記シタル書面ヲ儀式局ニ差出スモノトス此ノ書式ハ儀式局ニ印刷シタル用紙アリテ願ニヨリ之ヲ下付ス出願者ハ唯之ニ月日姓名等ヲ記入スルノミ儀式局ニテハ掛リ官吏出願者ノ身分如何ヲ調査シ而シテ後表ヲ作りテ

君主ノ閱覽ニ供ス中ニ就キ不都合ト思考スル者アレバ御聽ニ達ス君主該表ヲ認可スルトキハ通例儀式局ヨリ大ナル名刺臺紙二葉ヲ出願者ニ送付ス此ノ臺紙ニハ出願者並ニ紹介者ノ姓名ヲ分明ニ大字ニテ認メ謁見ノ節宮中ニ持參シ一葉ハ謁見扣所ノ中ニ在ル扈從ニ交付シ他ノ一葉ハ謁見室ニ於テ君側ナル儀式官ニ差出スモノトス儀式官ハ謁見ノ際之ニ依テ其姓名ヲ讀上ルナリ謁見ヲ出願スルモ君主ノ允許セサル者若クハ君主ノ御意ヲ伺ハサルモ己ニ謁見ヲ出願スル不適當ナルコト分明ナル者ニハ儀式局ヨリ程好ク之ヲ謝絶スルナリ一度謁見ヲ經タル者ハ將來ノ謁見式ニハ豫メ通知ヲ要セス出席スルコトヲ得但不都合アリテ謁見ヲ差留ムヘキ者アル

トキハ程好ク之ヲ謝絶ス出所醜穢ナル婦人ニシテ紳士ニ嫁シタル者其ノ素生ヲ隱匿シ巧ニ謁見ヲ遂ゲ後ニ至リテ發覺スル時ハ御不満足ノ趣ヲ官報ニ記載シ之ヲ懲戒スルコトアリ英國ノ謁見式ニハ内閣大臣ハ君主ノ臨御前謁見室ニ入ル内閣大臣等ハ御内輪ノ如キ有様ニテ君主出御ノ時モ一應ノ禮式ニ止マリ正式ノ謁見ヲ行ハズ謁見者ハ謁見室ノ次室ニ控ヘ君主出御ノ上中間ノ戸ヲ開ク是ニ於テ外交官先ツ席次ニ順ヒ進テ謁見ス書記官屬員等ハ其長官ノ後ニ隨テ進ム一般ノ謁見者ハ其人平時ノ席次ニ拘泥セズ到着ノ順序又ハ相互ノ讓合ニヨリ順次ニ進ムモノトス勿論儀式局ノ官吏其

ノ席ニアリテ不都合ナキ様之ヲ調定スルナリ
謁見ノ爲メ參内ノ時間ハ豫定スル所アリ從テ其時間迄ハ宮
門ニ入ルヲ得ルナリ

乘馬服

君主ノ乘馬服ニハ定制ナシ平時遊行等概テ常服ヲ用ユ騎馬
ノ供奉者亦同シ

皇帝ノ帽

御内向即チ御苑中散歩ノ如キ時ニ用ユル帽ハ敢テ制ナク普
通ノ丸帽ヲ用ユルコト多シ

英國皇室費一班

英國皇室ニ屬スル土地ノ歳入ノ沿革ヲ按スルニ其變遷消長
ハ尙ホ一家ニ於ケル家産ノ盛衰ニ異ナラサルナリ
抑モ昔時ニ在リテハ全國ノ土地ハ皆君主ニ屬シ地主ハ即チ
借地人ニシテ君主ハ即チ地主ナリ故ニ皇室ノ歳入ハ此等ノ
土地ヨリ生ズル種々ノ租稅及皇室直領地ヨリ收入スル地租
ニシテ其歳出トハ唯皇室ノ奢侈ニ要スル費用ニ外ナラザリ
シナリ何トナレバ地主タル君主ハ事アルニ臨ミテハ其借地
人タル臣下即チ兵士ヲシテ戰陣ニ赴カシムルモ其兵馬糧餉
ハ皆兵士ノ自辨ニシテ君主ハ別ニ軍費ヲ要セサレハナリ
然ルニ又封建時代ノ制トシテ嗣子ナキ者ノ土地ハ皇領地ニ

復歸シ又罪過等アレバ土地ヲ沒收セララル、ニ依リ終ニ全國ノ土地ハ悉ク皇室直領地ニ歸セントスルノ勢アリシ然レドモ如斯皇領地ハ巨多ナリシニ拘ハラス猶臣下ノ貪欲ヲ満足セシムルニ足スシテ之ヲ臣下ニ賜與シタルノ土地ハ却テ復歸沒收ノ土地ニ超過スルニ至リ爲ニ一旦賜與シタル土地ヲ復ビ追取シタルコト少カラズ故ニ曩ニ皇室ノ歲入巨額ニ達シタルニモ係ハラス其額次第ニ減少シヘンリ―三世ノ如キハ其歲入ヲ以テ供御ノ費ヲモ辨スルニ足ラスト歎セラレ庖厨ノ費用ヲ仕拂フニ手形ヲ發スルカ如キ窮迫ノ境遇ニ陥ルニ至リタリ然レトモ王ハ賜與ノ土地ヲ夥シク追取シ且叛臣ノ土地ヲ沒收シタルニ依リ再ヒ皇室ノ資産ヲ恢復スルコトヲ得タリエドワルド二世ニ至リ亦土地ヲ濫與シタリシ

カハ議院ハ法律ヲ設ケ皇領地ノ賜與ヲ禁止シタリ然レトモ王ノ即位第十五ノ後再ビ議院ニ於テ此禁止ヲ解除セリリチヤルド二世亦土地ヲ賜與シタルコト多シト雖モ沒收シタル土地亦少シトセス即チ彼ノ薔薇軍ノ起リシニ因リ沒收ノ土地多クシテ國土ノ過半ハ皇領地ニ歸スルニ至レリ故ニ若シ之ヲ保持シタランニハ歐洲君主中之ト肩ヲ並ブル者ナカリシナラン然レドモ戰國ノ時ニ方リテハ領土ノ掠奪ハ相互ノ常習ナレハ實際君主ハ皇領地ヨリ得ル所幾何モアラサリシナリヘンリ―第五世ノ時外國僧侶ノ寺領ヲ沒收シタルヲ以テ大ニ皇領地ヲ増加シタルモヘンリ―第六世ニ及ビテハ皇室ノ歲入五千磅ノ少額ニ減ジタリ故ニ王ハ此窮乏ヲ補ハン爲メ議院ノ承認ヲ經テ賜與ノ土地ヲ多ク追取シタリ

ヘンリー第七世苛斂ヲ好ミ之ニ依リテ皇室ノ窮乏ヲ補充スルコトヲ得タリヘンリー第八世ニ及ヒテハ苛斂殊ニ甚シク寺院等ヲ掠奪シ之ニ依テ獲ル所ノ金額三千萬磅以上ニ達シタリ然レトモ其奢侈モ亦甚シク崩御ノ時内帑又一錢ノ存スルナキニ至レリ降リテジェームス第一世ノ即位第七年ニ至リテ皇領地及ランカスター公領地ヨリ收入ノ歲額ハ僅ニ六萬六千八百七十磅ニ過ギサリシト雖モ皇室ノ負債ハ百萬磅以上ノ巨額ニ達シタリ而シテ王在世中賣却シタル土地ノ代價ハ七十七萬五千磅ニシテ其遺シタル負債モ亦殆ンド之レト同額ナリシ

チャールズ第一世ニ及ヒ窮乏猶一層甚シク議院ヨリハ國費ノ供給ヲ得ル能ハズ而シテ又不法ノ苛斂ニ依リ得ル所亦多カラサルニ依リ遂ニハ已ムヲ得ズ皇室ノ財産ヲ賣却シ又ハ典質スルニ至リタリ王崩御ノ後議院ハ幾シト皇領地ノ全部ヲ賣却シ以テ議院徵募兵ノ給料殘額ノ仕拂及新政府ノ負債ノ償還ニ充テタリ王位回復ニ及ヒ議院ノ皇領地ヲ賣却シタル所置ハ之ヲ無效トシ再ヒ皇室ノ所有ニ復シタリト雖モ是レ徒ニ奢侈費ニ充ツルニ過ズシテ未タ三年ヲ經サルニ早クモチャールズ第二世ハ皇領地ノ歲入二十一萬七千九百磅ヲ減耗シテ十萬磅トナスニ至リタリウヰリヤム第三世亦土地ヲ濫與スルコト甚シク終ニ議院ノ諍議ヲ招キ爲ニ其曾テ唯六志八片ノ地租ヲ納ムベキ契約ヲ以テポートランド伯ニ賜ヒタルデンビー全州五分ノ四ノ土地ヲ追取シ更ニ他ノ土地及皇室直領地ヲ賜フニ及ベリ

議院ハ斯ク皇室世襲歳入ノ漸次ニ減少スルヲ憂ヘ屢々議案ヲ提出シテチャーレス第二世ジエームス第二世及ウヰリヤム第三世ノ賜與シタル土地ヲ追取スルコトヲ企畫シタリウヰリヤム王在位ノ晩年ニ至リ議院ハ皇領地歳入ノ帳簿ヲ得之ヲ檢査シタルニ賜與賣却等ノ爲歳入著シク減少シ殆ト地方郷士ノ小作帳簿ニ過キザルヲ發見シタリ

斯ク皇室ノ王權ヲ濫用スルハ永ク默視スヘキニアラサルヲ以テアン女王ノ時ニ至リ議院ハ終ニ之ニ干涉シタルモ時機既ニ晩カリシナリ從來君主ノ費用ハ大概皇領地ノ地租ヲ以テ支辨シタリシニ歴代ノ君主之ヲ減少シ遂ニアン女王ノ皇領地歳入ハ以テ政府ノ費用ノ一部ニ充ツルニモ足ラサルニ至リタリ然レモ猶殘存シタル土地ヲ保持センガ爲メ法律ヲ

設ケ皇領地ノ貸與ハ三十二年若ハ三世ヲ超ユベカラズ且相當ノ料金ヲ賦課スベシト定メタリ若シ王位回復(チャーレス第二世)ノトキヲ云フノ後直ニ此ノ如キ法律ヲ設ケタランニハアン女王ノ皇領地歳入ハ以テ國費ヲ支辨スルニ充分ナリシナラン然レトモ此ノ法律ヲ設ケタルカ爲漸ク殘存シタル少許ノ皇領地ヲ保持スルコトヲ得タルハ論ヲ俟タサル所ニシテ且女王ノ世及後ノ二世ノ間ニ復歸又ハ沒收等ノ土地アリタルニ依リ稍皇領地ヲ増加シタリ

皇室財産ノ減耗シタルハ財政上ニ害ヲ與ヘタリト雖モ之カ爲大ニ國民ノ自由擴張ノ幫助トハナリタリ若シ君主ニシテ夥多ノ世襲歳入ヲ保維シタランニハ君主ハ宛モ議院ヨリ獨立シタルベシト雖モ其奢侈謹慎ナラザリシ爲國民ノ供給ヲ

俟タサルヲ得サルニ至リ終ニ自己ノ必要ト國費ノ次第ニ増加スルトニ迫マラレ國王ハ全ク議院ノ爲メ羈束セラル、コト、ハナリタリ

抑モ國民ニ於テ行政府ヲ羈束センニハ議院ニ於テ歲入ヲ議決スルノ權ヲ得タルニ愈ル緊要ナル憲法上ノ變革アラザルベシ又君主ノ權力ヲ掣肘スルモ亦此ノ手段ニ如クモノナカルベシナヤールス二世ノ時ニ至リ初メテ議院ハ歲入ヲ議決スルニ常ニ各項毎ニ其費額ヲ定ムルコト、ナシタリ然レトモ革命以前ニ在リテハ皇室費ノ定額ヲ定メタルコトナク君主即位ノ初年ニ於テ議院ハ常ニ皇室費竝施政及國防ノ費用トシテ若干ノ歲入ヲ豫算シ之ヲ君主ニ供スルノ習慣ナリシナリ是即テ經常費ニシテ若シ非常ノ事件アルトキハ別ニ臨

時費トシテ臨時其費額ヲ支出シタリ而シテ經常費ノ財源ハ第一皇室世襲歲入ニシテ第二ハ君主ノ一世間議院ニテ議決シタル租稅ナリ皇室世襲歲入トハ即テ皇領地ノ地租、封建田制ノ課料、郵便局收入、酒類免許料ヨリ成ルモノニシテ千六百六十年ナヤールス二世ガ封建田制ヲ廢シテヨリ國稅ノ一部分モ亦世襲歲入ノ一トハナリタリ

シエームス二世ノ時ニ於テ皇室世襲歲入及君主ノ一世間議院ヨリ供スル租稅ノ總額ハ凡ソ一ケ年平均百五十萬九百六十四磅ナリ此總額中ヨリ政府ノ必要ナル費用ヲ支辨シ殘額アルトキハ君主ノ意思ニ依リ如何ナル費途ニ之ヲ使用スルモ全ク其自由ニ屬スルナリ然レトモナヤールス二世ハ之ニ満足スル能ハスシテ猶議院ニ於テ軍費トシテ支出シタル金

額ヲ多ク内帑ニ納メ以テ其私用ニ供シタリ
 此ノ如キ濫費ヲ快トセス之ヲ防カン爲議院ハウヰリヤム王
 及メリー女王即位ノ初ニ於テ皇室費トシテ別ニ定額ヲ設ケ
 タリ而シテ此皇室費中ニハ宮内諸用、内廷費及文官俸給、養老
 年金ヲ包含スルモノニシテ議院ノ議決ニ依リ經常歲出ハ平
 時ニ於テ一ケ年百二十萬磅トシ内皇室費ヲ七十萬磅ト定メ
 タリ但皇室費ノ内四十萬磅ハ皇室世襲歲入ヨリ殘額三十萬
 磅ハ國稅ノ一部分ヨリ支出スルモノト豫算シタルナリ斯ノ
 如ク定メタル制度ハ後世ニ至ル迄繼續シ皇室費ト稱スルハ
 單ニ純然タル皇室費ノミニアラズシテ尙政府ニ屬スル費用
 ノ一部ヲ包含シタリアン女王ノ皇室費モ亦此ノ例ニ倣ヒ其
 金額亦ウヰリヤム三世ノ時ト同一ナリシモ女王ハ其歲入

或ハ前代ノ金額ヨリモ減少セラレシコトヲ恐レ議院ニ向ヒ
 一ケ年十萬磅ハ之ヲ公費ニ充ツヘシト約シタリ然ルニ此約
 アリシニモ拘ハラズ却テ其在位十二年間ニ女王ノ負債ハ百
 二十萬磅ノ巨額ニ達シタリ是ニ於テ議院ハ此負債ヲ仕拂ヒ
 皇室費ヨリ其金額ヲ償還スルコトトナシタリ
 シヨルジ第一世ノ皇室費モ亦一ケ年七十萬磅ト定メタリ而
 シテ王在位間ニ負ヒタル債ハ百萬磅ニシテ是レ亦議院ニ於
 テ前代ト同一ノ方法ニ依リ之ヲ仕拂ヒタリ
 シヨルジ第二世ノ時ニハ皇室ノ世襲歲入ヲ一ケ年八十萬磅
 トシ若シ歲入ニシテ此額ヨリ寡少ナルトキハ其不足額ハ議
 院ニ於テ之ヲ補充シ超過スルトキハ其剩餘額ヲ君主ノ内帑
 ニ藏ムルコト、定メタリ而シテ王在位ノ末年五年間ハ毎年

ノ歳入平均八十二萬九千五百五十五磅ニ上リタリト雖モ其在位間ノ歳入ヲ平均スレハ一ケ年八十萬磅ニ達セサルナリ千七百四十六年ニ於テ皇室ノ負債四十五萬六千磅ヲ議院ニ於テ仕拂ヒタリ是レ此負債ハ從來皇室ノ歳入八十萬磅以下ニ減少シタルニヨリ生シタルモノナリトノ口實ナリシヲ以テ議院ハ前約ニ依リ之ヲ仕拂ハサルヲ得サリシナリ

シヨルジ三世即位ノ初メニ於テ王ハ英國ノ皇室歳入ノ管理ハ議院ノ意思ニ隨フベキコトヲ承認セラレタリ又從來議院ハ其十分ナリト思惟シタル若干ノ歳入ヲ皇室ニ供シタリシモ今ヤ王ハ宮内諸費及君主ノ威嚴ヲ保維スルニ適當ナル金額ヲ定メ之ヲ皇室費ノ定額トナスヘキコトヲ諾セラレタリ然リ而シテ議院ガ皇室經費ニ付キ直接ノ管理ヲナシタル

ハ實ニ此時ヲ以テ初トス抑モ王ハ大ニ君主ノ特權ヲ擴張シ國事ニ關シテハ議院ノ掣肘ヲ脱セント銳意企畫スルノ際ニ在リテ議院ト皇室ノ關係ニ斯ノ如キ緊要ナル變更ヲ生シタルハ實ニ甚タ奇ナリト謂ハサルヘカラス

前代君主ガ議院ノ議決ニ依リ取得シタル皇室ノ世襲歳入ハ今ヤ一括トシ此中ヨリ皇室費トシテ一ケ年七十二萬三千磅ヲ支出スルコトトハナリタリ抑モ此定額ハウエールス女公主カンバーランド公及アメリカ親王ノ年金ヲ受クル間ノミニシテ若シ右年金ノ支出ヲ廢止シタルトキハ皇室費ノ定額ヲ増加シテ一ケ年八十萬磅迄ニ達スヘキコトトナシタリ故ニ王ハ前王ノ時ニ於ケル皇室費ノ最少額ニ甘ンシ剩餘ノ金額ハ之ヲ要求セザルコトトナリタリ而シテ此ノ剩餘金ハ即位

後八年間ニ十萬磅ニ達セリ
 然レトモ王ハ此ノ他議院ノ管理外ニ在ル歲入ヲ得タリ即チ
 敵船捕拿、關稅及不時ノ歲入ハ夥多ノ金額ニ上リタルノミナ
 ラス又蘇格蘭ニアル皇室世襲歲入及愛爾蘭ノ國費ヲ所有シ
 ランカスター公領地コルンウォール公領地亦該君主ノ所有シ
 タルモノナリシ故ニ此等ノ歲入ニ定額ノ皇室費ヲ加フレハ
 一ケ年ノ歲入ハ殆ト百萬磅ニ近カ、ルベシトハバーク氏ノ
 計算セシ所ナリ而シテハノール國ノ歲入及オスナバルジ
 ノ寺領ノ收入ハ此計算外ナリトス又王ノ在位間議院管理外
 ナル敵船捕拿及不時ノ歲入ヨリ得タル總額ハ千二百七十萬
 五千四百六十一磅ニ達シ内二百六十萬磅ハ王自ラ公費ニ充
 テ五百三十七萬二千八百三十四磅ハ敵船捕拿者及之ニ關係

シタル者ノ費用ニ供シ殘餘ノ金額四百七十三萬二千六百二
 十七磅ハ即チ王ノ純收入金ナリシナリ且シヨルジ三世ハ
 前代君主(ヘンリー)三世以來尤モ節儉ナル君主ガ其皇室費
 中ヨリ貯蓄シタル金十七萬二千六百五磅ヲモ得タリ
 斯クノ如ク歲入巨多ナリシモ支出ハ殆ント其上ニ出テ俸給
 及養老金ハ漸次ニ増加シ皇室歲入ハ之ヲ支拂フニ不足ヲ告
 タルニ至レリ初メシヨルジ三世ノ位ニ即クヤ前代君主ニ
 奉仕シタル宮内官吏ヲ其儘使用シタル者多キニ拘ハラヌ猶
 從來王ニ奉仕シタル數多ノ從臣ヲ宮内ノ官吏中ニ加ヘダリ
 此ノ如ク皇室ノ費用増加シタルニ際シ王及皇族ハ啻ニ節儉
 ナ爲シタルノミナラズ殆ンド君主ニ相當セザル吝嗇ヲ行ヒ
 タリ千七百六十二年王ハバッキンハム宮ヲ購求シ卑賤ノ臣僕

ト共ニ此宮中ニ住シ一切ノ華美ヲ廢シ極メテ節儉ヲ務メタ
 リ(王ハ終身此ノ如ク節儉ヲ爲シタリアツテキントン氏其兄ニ與タル書中ニ王ノ召ニ應シ陪食シタリ御晚餐ハ羊肉片ト菓子ノ二品ナリトアリ)パーク氏
 曰ク此ノ如ク節儉ヲ行フニ係ハラス其所爲ハ吝嗇トナリ其
 結果ハ奢侈トナルナリ一錢モ消費セラル、ナク又一錢モ貯
 蓄セラル、ナシ而シテ又別ニ貯蓄セラレタルヲモ信スル能
 ハサルモ別ニ消費セラレタルヲモ認ムル能ハサルナリト
 斯ノ如キ節儉中ニ在リテモ王ハ猶權勢ヲ張り大ニ皇室ノ權
 威ヲ擴張センコトヲ務メタリサレバ議院ニ於ケル王黨ノ忠
 誠能ク皇室ヲ補助シタルハ蓋シ大ニ皇室費ノ夥多ナルヲ致
 シタル原因ナラン即チ皇室ノ臣僚ノ爲メニ財ヲ奪ハレタル
 ニアラスンハ議院ノ歡心ヲ買ハンカ爲王自ラ幣帛ヲ散シタ
 ルナルベシ

一千七百六十九年ニ於テ王ノ即位後未タ九年ナラザルニ其
 負債已ニ五十一萬三千五百十一磅ニ上リタリ依テ王ハ已ム
 ナ得ス之ヲ議院ノ議ニ付シ其償却ヲ要求シタリト雖モ此要
 求タル恰モウヰルキース氏捕縛セラレ人心大ニ激動シ皇室
 ノ政畧其宜ヲ得ス大ニ民心ヲ失ヒタル時ニシテ時宜ヲ得タ
 ルモノニアラサリシ然レトモ皇室ハ人民ノ歡心ヲ失ヒタル
 モ未タ議院ノ反抗ヲ招クニ至ラズ故ニ議院ニ於テ負債ノ源
 因ヲ檢査シ其理由ノ説明ヲ要求シタリト雖モ其原因ノ檢査
 ニ關シテハ内閣ノ拒絕スル所トナリ遂ニ説明ヲ得ルコトナ
 クシテ負債ヲ償却シタリ翌年再ビ議院ニ於テ皇室費ノ支出
 方ヲ檢査セントノ動議ヲ起シタリト雖モ是亦十分ノ賛成ヲ
 得ル能ハサリキロード、チャザムノ如キハ皇室費ハ議員ノ賄賂

ニ費スモノナリト明言シタリ皇室費ニ關シテハバーク氏ノ
 「現時不平ノ原因」ト題スル小冊子中ニ詳ナリ
 斯ク皇室ノ費用夥多ナル原因何レニアリトスルモ尙之ヲ制
 止スル所ナカリシ而シテ八年ノ後王ハ再ヒ議院ニ六十一萬
 八千三百四十磅ノ負債ノ償却ヲ要求シタルノミナラス猶皇
 室費ノ定額ヲ毎年九十萬磅ニ増加セシコトヲ要求シタリ是
 ニ至リテ内閣大臣等ハ最早議院ノ請求ヲ拒絕スル能ハス遂
 ニ負債ノ原因ニ關スル説明書ヲ議院ニ提出シタリ然レトモ
 此説明ハ未タ以テ反對黨ヲ満足セシムルニ足ラズ議院ハ更
 ニ此原因ヲ論難シ現皇室ノ歳入ト前代君主ノ歳入トヲ比較
 シ莫大ノ金額ヲ機密ニ使用シタルコト及養老年金ノ増加シ
 タルコト及ヒ暗々裏ニ賄賂ヲ行使シタル事ニ至ルマテ悉ク

之ヲ發見セリ然レトモ議院ハ遂ニ王ノ要求ヲ承諾スルニ至
 レリ時ノ下院議長サー、フレッチャー、ノートン氏議案ヲ王ニ捧
 呈シタルトキ王ニ奏シテ曰ク下院ハ今當ニ莫大ノ金額ヲ陛
 下ニ供スルノミナラズ猶巨額ノ歳入ヲ増加セリ是實ニ前代
 ニ其例ヲ見サル所ニシテ抑モ亦過度ノ皇室費ナリト議長ノ
 此不敬ナル奏言ハ議院ニ於テ彈劾ノ問題トナリシモ議長ノ
 朋友ナルフオックス氏ハ爲メニ之ヲ救護シタリ然レトモ皇室
 ノ寛宥スル所トナラスシテ次期ノ議院ニ於テ氏ハ遂ニ議長
 ノ任ヲ失フニ至リタリ
 王ノ要求ハ議院ニ於テ異議ナク之ヲ承諾シタリト雖モ其不
 平不満ノ感情ハ決シテ消滅シタルモノニアラス彼ノ米國戰
 争ニ依リ國費ト國債ハ大ニ増加シ而シテ皇室費ノ濫用ハ再

議院ノ問題トナレリ一千七百七十九年ニ於テリッヂモント
 公ハ皇室費ノ減額ニ付王ニ上奏スベシトノ動議ヲ提出シタ
 リト雖モ大多數ヲ以テ否決セラレタリ其ノ數日後ニ至リバ
 一ク氏ハ彼有名ナル財政改革案ヲ提出スヘシト豫告シ一千
 七百八十年二月十一日ヲ以テ其精密ナル方案ヲ演述シタリ
 其要旨タル數多ノ官職ヲ廢シテ費用ヲ省減シ其他行政事務
 ナ改良スルニアリテ論議諸省ノ内情ニ及ホシ就中皇室費ノ
 一項ニ關シテハ最モ緻密ナル穿鑿ヲ遂ケタリ即チ宮内ノ事
 ニ關シ氏ハ社會諸般ノ事情大ニ往時ト其趣ヲ變シタルニ依
 リ宮内ノ諸官職亦已ニ今日ニ不必用ナルモノ多キヲ論シ更
 ニ此等ノ官職ヲ淘汰シ養老年金ノ總額ヲ一ケ年六萬磅ニ省
 減シ且其支出ヲ一切出納局ニ委任スベシト主張シタリ

バーク氏ハ五箇ノ議案ヲ提出シタリト雖モ當期ノ議院ニ於
 テ會議ニ付シタルモノハ唯其一案ノミ而シテ是レ亦第二讀
 會ニ於テ政府ノ廢棄スル所トナリタリ
 翌年ニ至リ氏ハ又該議案ヲ提出シ當時初メテ議院ニ出テタ
 ルウヰリヤム、ピット氏ノ賛成ヲ得タリ然レトモ亦第二讀會
 ニ於テ廢案トナリタリ

然ルニロード、ロッキンハム繼テ内閣ヲ組織スルニ及ビ財政改
 革ヲ行ハンコトヲ決意シ其考案ヲ王ニ捧呈シ奏言シテ曰ク
 「今回財政ノ改革ヲ圖リ冗費ヲ省減スルモ決シテ陛下ノ内帑
 及皇室ニ關係ヲ及ホスコナシ唯其要旨ハ内閣大臣ノ權勢ヲ
 殺クニアルノミ」ト一千七百八十二年四月十五日王ハ詔勅ヲ
 兩院ニ下シ國費ヲ省減スベキヲ諭シ且諸省改革ノ計畫アル

ヲ示サレタリ

王ハ再ビ其負債ヲ議院ニ報告スルノ止ムヲ得サルニ至リタリ然レトモ從前ノ如ク國庫ヨリ之ヲ償却スルノ要求ヲナサズシテ皇室費ノ節減ヨリ生スル金額ヲ以テ負債ノ償却ニ充ツルコトヲ述ヘタリ而シテ曩ニ皇室費ヲ増加シタルニモ係ハラス皇室ノ負債額ハ二十九萬五千八百七十七磅ニ達セリ今此負債ハ皇室費ノ節減ヨリ生スル金額ヲ以テ年賦償却ヲ爲スモノナレハ皇室費ヲ節減スルモ爲ニ皇室ヲ利スル所ナク亦國民ヲモ益スル所ナキナリ

ロード、ロッキンハムノ皇室費議案ハバーク氏ノ原案ニ及ハカリシト雖モ尙ホ非常ノ改革ト謂ハサル可ラス即チ數多ノ冗官ヲ淘汰シ機密費ノ支出ヲ禁シ養老年金ヲ省減シ皇室費ノ

監督法大ニ其ノ宜キヲ得タルノミナラス此時始メテ皇室費ヲ八項ニ分チタリ是ゾ大ニ將來ニ於テ更ニ緊要ナル改革ヲ爲スノ基トハナリタルナリ

然レトモシヨルジ第三世在位中ハ負債ノ絶ヘタルコトナク屢々議院ニ其償却ヲ要求シタリ即チ一千七百八十二年以後數度議院ニ於テ償却シタル負債ノ額ハ二百三十萬磅以上ニ達シ而シテ其即位ノ初ヨリ議院ニ於テ償却シタル負債ノ總額ハ一千七百八十二年皇室費中ヨリ償却シタル負債三十萬磅ヲ除キ三百三十九萬八千餘磅ナリ即チ

五十一萬三千五百十一磅

一千七百六十九年

六十一萬八千三百四十磅

一千七百七十一年

六萬磅

一千七百八十四年

二十一萬磅	一千七百八十六年
九十九萬五千三百磅	一千八百二年
五十九萬八千八百四十二磅	一千八百四年
一萬四百五十八磅	一千八百五年
十一萬八千八百五十七磅	一千八百十四年
十萬磅(臨時費)	一千八百十四年
十八萬五千磅	一千八百十六年
合計三百三十九萬八千六十一磅	

當時皇室費中ニハ君主ノ私費ト毫モ關係セザル費用ヲ包含セリ即チ裁判官公使其他官吏ノ俸給皇族ノ年俸及文官ノ養老年金等ニシテ此等ノ諸費ハ皇室費ヨリハ寧ロ國庫ヨリ之ヲ支出スベキ當然ナルモノナリシナリ然レトモ此等ノ費額

ハ漸次ニ皇室費中ヨリ除却シシヨルジ第三世即位以來一千八百十五年迄ニ皇室費ノ負擔ヨリ分離シタル金額ハ實ニ九百五十六万三千三百九十六磅ニ達シタリ

攝政初年ノ末即チ一千八百十二年皇室費ニ一ケ年七萬磅ヲ増加シ且特ニ攝政ノ年俸トシテ十萬磅ヲ議決セリ一千八百十六年ニ至リ皇室費ヲ百八萬三千七百二十磅ト定メ且皇室費ニ關スル諸規則ヲ設ケ二三ノ皇族年俸ヲ皇室費ヨリ分離シ又皇室費ハ大藏省ニ於テ之ヲ検査スルコト、ナシタリ

シヨルジ第四世位ニ即クニ及ヒ其曾テ攝政中ニ受ケシ所ヨリモ猶多額ノ皇室費ヲ得ンコトヲ望ミタリト雖モ内閣大臣ノ諫諍ヲ容レ議院ニ向ヒ一千八百十六年ニ定メタル皇室費ヲ改正スルノ意ナシトノ勅諭ヲ下シタリ曩ニハシヨルジ第

三世精神喪失シタルニ依リ太子攝政ノ任ニ膺リ爲ニ多額ノ皇室費ヲ要シタリト雖モ今ヤシヨルジ三世崩御セラレタルヲ以テ議院ハ新ニ皇室費ヲ八十四萬五千七百二十七磅ト定メタリ然レドモ王ハ在位中此歳入以外ニ於テ蘇格蘭ノ世襲歳入一ケ年平均十萬九千磅ト愛爾蘭ノ國費二十五萬磅トヲ受ケ且未ダ議院ノ管理外ニ在リテ皇室ニ屬シタル敵船捕拿ヨリ得タル收入金、關稅、西印度關稅等ヲ受ケタリ

ウヰリヤム第四世位ニ即クニ及ヒ初メテ此等皇室ニ屬シタル諸歳入ヲ悉ク國庫ニ交付シ皇室費トシテ唯五十一萬磅ヲ受タリ而シテ此金額ヲ分ナテ五項トシ每項其金額ヲ定メタリ即七萬五千磅ノ養老年金モ亦其一ナリトス且又寧口國庫ノ負擔ニ屬スベキ費用ハ之ヲ皇室費ヨリ分離シタリ即チ裁

判官俸給、外交官俸給、養老年金及其他種々ノ諸費ナリ然レトモ斯ク皇室費ヲ定ムルニ方リ下院ハ委員ニ付託シ十分之カ調査ヲ爲シ以テ之ヲ決定セントシタリ而シテウエルリントン公ノ内閣ハ之ヲ抗拒シタル後辭職シ次テグレイ伯改進黨内閣ヲ組織シタリ下院委員ハ皇室ノ事ヲ精密ニ調査スルハ君位ヲ輕ンスルモノナリト思考シタリト雖モ尙政府官吏ノ俸給ヲ省減シ其額凡ソ一萬千五百二十九磅ニ上レリ然レトモ王ハ此省減ヲ拒ミテ曰ク「若シ新議案ノ如ク人民ハ下院ヲ羈束シ下院ハ君主ガ其有司百官ニ與フル俸給ヲ議決スルモノトセハ所謂君主ノ特權ハ人民ノ掌裡ニ歸シ君主ノ君主タル所以ハ果シテ何レニアルヤ君位ハ到底有名無實ノモノトナルヘシ」ト是ニ於テ内閣ハ王ノ抗論ニ從ヒ下院ヲ懲慝シ遂

ニ皇室費ヲ前陳ノ如ク定メタリ

ヅ井クトリヤ女皇ノ皇室費モウ井リヤム第四世ノ皇室費ト同一ノ主義ニ依リテ之ヲ定メ其額ハ三十八萬五千磅ナリ唯其主タル變更ハ養老年金ノ額元來七萬五千磅ナリシヲ千二百磅ニ減シタルノミ是ニ至リテ皇室費定額ハ終ニ純然タル皇室費ノミトナリタリ

斯ノ如ク其方法宜キヲ得タルト且君主ノ管理良好ナリシトニヨリ獨リ今代ノミナラスシヨルジ第四世及ウ井リヤム第四世ノ在位中ニ於テモ曾テ議院ニ向ヒ負債償却ノ要求ヲナシタルコトアラサリシ

假令皇室費ノ定額ハ斯ノ如ク減少シタリト雖モ從前皇室費中ヨリ支辨シタル諸費ハ亦皇室費ヨリ分離スルニ至リ且君

主ノ掌握シタル間接ノ權勢ハ之ヲ拋棄シタルヲ以テ君主ハ不徳ノ汚名ヲ蒙ルノ虞ナシ而シテ又政府ノ費用ニシテ事務多端ナルニ隨ヒ漸次ニ増加スル時ハ從來君主獨リ其責ニ任シタリト雖モ今ヤ議院ニ於テ之ヲ負擔スルコト、ハナレリ此等ノ變更及憲法上ノ他ノ改革ハ之ヲ外面ヨリ觀察スルトキハ君主ノ威權ヲ蠶食シタルカ如シト雖モ實ハ君位ニ真正ノ威嚴ヲ加ヘ大ニ國民ノ信用ト敬愛ノ情トヲ増加スルノ具トハナリタルナリ

今代女皇陛下ノ即位以前ニ在リテハ歷代ノ君主皆ハノーバ
ル王國ノ歲入ヲ受ケタリ然レドモ今ヤ該王國ハ英國ノ君位ニ屬セズ且歷代ノ君主ハ其前王ヨリ夥多ノ不動産ヲ讓受ケタリト雖モ女皇陛下ハ毫モ相續シタルモノアラス然レドモ

皇室ニ屬スルランカスター及ビコルンウオールノ二公領地
 アリランカスター公領地ハ君主ニ屬シコルンウオール公領
 地ハコルンウオール公ノ資格ニテ太子ニ屬スルモノナリ此
 二公領地ノ管理方法其宜キヲ得タルニヨリ現今大ニ其歳入
 ナ増加シタリ

女皇陛下即位ノ初年ニ於テランカスター公領地ノ歳入二萬
 三千三十八磅其費用一萬四千二百二十六磅ニシテ純收入ハ僅
 ニ八千九百十二磅ニ過ギザリシナリ然ルニ一千八百五十九
 年ニ及ビ其歳入ハ増加シテ四萬五千四百三十六磅ニ達シ而
 シテ純收入ハ三萬千三百四十九磅ニシテ内帑ニ收納シタル
 モノ實ニ二萬五千磅ナリキ
 一千七百八十三年コルンウオール公領地ノ歳入ハ一萬三千

磅ニ滿タサリシモ女皇陛下ノ即位ニ及ビ其歳入増加シテ二
 萬八千四百五十六磅ニ達シ内費用一萬二千六百七十磅ヲ控
 除シ純收入ハ一萬五千七百八十六磅トナレリ一千八百五十
 九年ニ及ビ皇夫アルベルト親王ノ管理方其宜キヲ得タルニ
 依リ其歳入六萬三千七百四磅ニシテ純收入ハ五萬七百七十
 磅ニ達シ内四萬七百八十五磅許ハ皇太子ノ内帑ニ納メタリ
 從來皇太子ノ幼少ノ間ハ該公領地ノ歳入ハ君主ノ御手元金
 トナリタリト雖モ女皇陛下ニ及ビ之ヲ私用セラレズシテ皇
 太子ノ爲メ之ヲ貯蓄セラレ其額五十萬磅ニ超過シタリ
 此等公有歳入ヲ受クルノ外君主ハ別ニ私有財産ヲ所有スル
 ノ權利ヲ有セリアン女王ノ時君主ハ其皇領地ヲ賣却讓與ス
 ルヲ禁セラレタリト雖モ此法律ハ君主ガ一私人ノ資格ニ依

リ取得シタル私有財産ニモ適用スベキヤ否ノ疑問ヲ生シタリ然レトモ君主ノ私有財産ノ賣買讓與ヲ制限スベキノ理素ヨリアラサルヲ以テ一千八百年ニ至リ法律ヲ以テ君主カ一私人ノ資格ニ依リ取得シタル財産ハ君主ノ自由ニ依リ之ヲ賣買讓與スルヲ得ルコトニ定メタリシヨルシ第四世即位スルニ及ヒ此法律ハ君主ガ其即位以前ニ取得シタル財産ニモ適用スヘキヤ否ノ疑問起リシト雖モ一千八百二十三年ノ法律ヲ以テ之ヲ適用スルコトニ定メタリ

斯ク皇室費ヲ支出スルノ外議院ハ別ニ皇族ノ年俸ヲ供ス即チ君主崩御ノ後ハ皇后ノ費用トシテ充分ノ年俸ヲ供シ又皇兄弟姊妹及其他ノ皇族ノ年俸アリ皇子長シテ成年ニ達スレハ別ニ其年俸ヲ供シ皇女嫁スルトキハ其嫁資ヲ供ス是皆議

院ヨリ別途ニ支出スルモノナリシヨルシ第三世ノ時其皇太子ノ負債ヲモ猶議院ニ於テ償却シタルコトアリ

シヨルシ第三世ノ皇太子成年ニ達セシハ一千七百八十三年ナリシ時恰モ米國戰爭ノ費用夥多ニシテ國民疲弊ニ苦ムノ際ナリシカハ莫大ノ費額ヲ支出セシムル要求ニ對シテハ實ニ其時機ニアラサリシナリ然レトモ聯合內閣ノ改進黨ハ此機會ニ乘シ皇太子ト政事上ニ於ケル關係ヲ厚クセント圖リ國費多端ノ際ヲモ顧ミス皇太子ノ費用トシテ一ケ年十萬磅ヲ支出セントノ議ヲ唱導シタリシヨルシ第三世此議ノ己ニ不利ナルヲ悟ルヤ皇太子ヲ親愛スルノ情減却シ從テ亦內閣大臣ヲ憎惡スルノ意増進シタルハ皇太子ヲ獨立セシメテ其平常嫌忌スル政黨ニ親近セシムルヲ欲セズ依テ皇室費ノ不

足ナルニモ係ハラズ猶一ケ年五萬磅ヲ皇室費中ヨリ支出シテ皇太子ノ費用ニ充テ議院ヨリ支出ノ額ハ六萬磅迄ト定メタリ此金額タル謹慎ナル太子ニ在リテハ十分ナルベシト雖モ放蕩無賴ナル太子ニ對シテハ實ニ僅少ノ金額ナリト謂フヘシ一千七百八十六年皇室費改正ノ時皇太子ノ黨ハ太子ノ爲メ其費用ヲ増加セント盡力シタリト雖モ宰相ピット氏ハ之ヲ援助セズ王モ亦斷然之ヲ承諾セズ遂ニ皇太子ハ其宮殿ヲ賣却シタリト雖モ猶ホ負債ヲ償却スルニ不足ヲ告ケタリ一千七百八十七年ニ至リ皇太子ハ非常ノ窮迫ニ陥リタル際倫敦府ノ長老タリシニユーナム氏ノ救護ヲ得タリ即チニユーナム氏ノ動議ニ依リ皇太子黨ノ贊成ヲ得テ皇太子ノ負債ニ關シ王ニ上奏シタリシカバ王モ此議ヲ採納シ皇室費中ヨ

リ支出スル皇太子ノ費用ノ外一ケ年一萬磅ヲ増加シ其負債十六萬千磅ハ議院之ヲ負擔シ猶カールトン宮殿費用二萬磅ノ支出ヲ議決セシメタリ王ハ下院ニ向ヒ皇太子ハ爾後一切ノ費用ハ總テ其歲入内ヲ以テ支辨シ決シテ其外ニ出テサルベシト保證シタリト雖モ此約モ亦水泡ニ歸シ一千七百九十年太子ハロード、マルノスバレ―氏ニ向ヒ其負債已ニ三十七萬磅ニ達シタリト述べタリ而シテ一千七百九十五年ニ及ヒテハ其額六十五萬磅ニ達シタリシガ此ノ時皇太子ハ婚姻シタルニ依リ一ケ年六萬五千磅ノ歲入増加ヲ得殆ンド此全額ヲ舉ケテ毎年負債ノ償却ニ充テタリ一千八百三年ニ至リ再ビ其歲入ニ六萬磅ノ増加ヲ得以テ漸ク其負債ヲ完済スルコトヲ得タリ

今代ヲ除クノ外歴代君主ノ皇室費用中最モ主要ナルモノハ
養老年金ノ一項ニシテ常ニ政治上ノ一問題タリシモノナレ
バ左ニ其規定習慣及由來ヲ説明セン

アン女王ノ即位以前ニ在リテハ君主ハ其世襲歳入ヨリ養老
金及年俸ヲ賜與スルノ權ナ有シ且法律上一旦君主ノ賜與シ
タル養老金ハ崩御ノ後ト雖モ猶後嗣ヨリ續テ之ヲ賜與スヘ
キモノナリシ然ルニアン女王即位ノ初年皇領地ノ賣買讓與
ヲ禁シタルト同時ニ議院ハ法律ヲ設ケ世襲歳入中ヨリ養老
金等ヲ賜與スルニハ永クモ其一世間ヲ出ツル能ハザルコト
ニ制限シタリ

然レトモ此法律ノ設定ハ蘇格蘭ト聯合以前ニアリタルニ依
リ同國ニ於ケル世襲歳入ニハ適用セズ而シテ又愛爾蘭ノ議

院ハ之ト同一ノ法律ヲ設ケザルヲ以テ該國ニアル世襲歳入
ニモ亦之ヲ適用スルコトヲ得ザルノミナラス此法律ハ議院
ノ管理外ナル關稅ニ及ボスコト能ハザリシ此法律設定以後
英國ノ世襲歳入ヨリ賜與シタル養老金等ハ常ニ其君主ノ一
世間ニ限りタリト雖モ猶大概後嗣ノ君主ニ於テ更ニ之ヲ賜
與シタリ然ルニ蘇格蘭、愛爾蘭及關稅中ヨリ賜與シタル養老
金ハ此法律ノ範圍外ニ屬スルヲ以テ受給者ハ常ニ其一生間
之ヲ受クルコトヲ得タリ

シヨルシ三世位ニ即クニ及ヒ皇室費ノ定額ヲ定メ其代償
トシテ夥多ノ世襲歳入ヲ國庫ニ交付シタルヲ以テ從來世襲
歳入ヨリ賜與シタル養老金ハ皇室費中ヨリ之ヲ支出スルコ
トトナレリ即チ其賜與ハ皇室費ノ都合ニ依ルモノニシテ別

ニ定額ナク又之ニ關スル規定ナク唯君主及内閣大臣ノ隨意ナリシナリ

抑モ養老金ノ一項ハ皇室費中緊要ナルモノニシテ其賜與ニ關スル定額及定規ナキハ帝ニ國民ノ負擔ヲ重カラシムルノミナラズ又大ニ皇室ノ權威ヲ増長シ議院ノ獨立ヲ妨クルモノナリ
 バーク氏ガ一千七百八十年ニ於テ提出シタル財政改革案中ニモ養老金ノ總額過多ニシテ之ニ關スル規則ノ設ケナキノ弊害ヲ説キ特ニ君主ノ隨意ニ依リ私ニ養老金ヲ賜與スルハ惡弊流行ノ根本ナルヲ切論シ猶養老金ヲ漸次ニ減額シテ六萬磅トナシ而シテ之ヲ賜與スルハ國家ニ功績アル等眞ニ之ヲ受クベキ資格アル者ニ限ルベシト唱導シタリ
 一千七百八十二年ロッキンハム氏ノ内閣ニ於テ定メタル皇

室費令ハ大ニ養老金賜與ノ制限ヲ設ケ第一養老金ノ總額九萬磅ニ減スル迄ハ一ケ年三百磅以上ノ養老金ヲ賜與スベカラズ第二一ケ年賜與ノ金額ハ六百磅ヲ超過スベカラズ第三養老金賜與表ハ之ヲ議院ニ示スベシ第四養老金ノ總額ハ爾後九萬五千磅ヲ超過スベカラズ又一人ノ養老金額ハ千二百磅ヲ超過スベカラズ等ノ條項ヲ規定シタリ是皆バーク氏ノ計畫ニ據リタルモノニシテ猶氏ノ議案ノ主義ヲ採用シ養老金ヲ賜與スルハ貧困ヲ救恤スルカ或ハ功績ヲ賞與スルカノ二途ニ限ルベシト定メタリ
 スクノ如ク英國養老金額ニ關シテハ定額定規ヲ設ケ議院ノ掣肘スル所トナリタリト雖モ君主ハ尙議院ノ管理外ナル財源ヲ有シ自由ニ之ヲ賜與スルコトヲ得タリ即チ愛爾蘭ニア

ル皇室世襲歳入ハ毎年ノ純收入二十七萬五千百二磅ニ達シ
 而シテ此歳入ハ君主ノ自由ニ處分スル所ナルノミナラス此
 歳入中ヨリ賜與シタル養老金ハ君主ノ在位中ニ止ラス其死
 後ト雖モ尙ホ後嗣ナシテ之ヲ賜與セシムルノ權ヲ有スルモ
 ノナリ從テ此歳入中ヨリ夥多ノ養老金ヲ賜與スルハ自然ノ
 勢ナリト謂フヘシ而シテ別ニ定規ノ存スルナキヲ以テ養老
 金額ハ漸次ニ増加シ愛爾蘭國民ハ漸ク此濫用ニ向ヒ不平ヲ
 唱ヘ一千七百五十七年ノ頃ニ至リテハ已ニ愛爾蘭下院ハ此
 ノ如ク公財ヲ濫用スルハ獨リ國庫ニ大害アルノミナラズ皇
 室竝國民ニ對シテモ亦不利ナルモノナリト決議シタリ然レ
 トモ一千七百五十七年四萬磅ノ額ニ達シタル養老金ハシヨ
 ルジ三世即位以後三十年間ニ増加シテ三倍トナリ一千七

百九十三年ニ至リテハ十二萬四千磅ノ高額ニ達シタリ此ノ
 如キノ濫用ハ永ク默視スベキニアラサルヲ以テ政府ハ之カ
 改革ニ着手シタリ而シテ愛爾蘭下院モ亦直ニ之ヲ採用シ曾
 テ英國皇室歳入ヲ國庫ニ交付シタルト同ク愛爾蘭皇室歳入
 ヲ愛爾蘭ノ國庫ニ交付シ之カ代償トシテ年々養老金ヲ除ク
 ノ外皇室費ノ定額ヲ十四萬五千磅ト定メ又養老金額十二萬
 四千磅ハ之ヲ國庫ヨリ支出シ漸次ニ減額シテ八萬磅ニ至ル
 迄ハ毎年養老金賜與ノ額ハ一萬二千磅ヲ超過スベカラサル
 コト、定メタリ此法律ヲ以テ豫定シタル如ク養老金ノ八萬
 磅ニ減シタルハ漸ク一千八百十三年ナリ而シテシヨルジ第
 四世即位ノ時ニ及ヒテハ尙ホ減シテ五萬磅トナリタリ
 蘇格蘭ノ皇室世襲歳入ノ議院ノ管理ニ屬シタルハ漸ク一千

八百十年ノコトナリシ此年ニ至リ蘇格蘭皇室世襲歳入ヨリ支出スル養老金ハ三萬九千磅ノ額ニ達シタルニ依リ議院ハ法律ヲ設ケ養老金ノ總額二萬五千磅ニ減スル迄ハ一ケ年八百磅以上ノ金額ヲ賜與スベカラズ且ツ一人一ケ年ノ養老金額ハ三百萬磅ヲ超過スベカラズト定メタリ然レトモ尙外ニ議院ノ管理外ナル關稅アリテ此歳入中ヨリ支拂フ養老金ノ額モ亦決シテ少カラズ一千八百三十年ニ至リウヰヰヤム第四世ハ此歳入ヲ國庫ニ交付シタルバ從前該歳入中ヨリ賜與シタル養老金ハ國庫ヨリ之ヲ支拂ヒタリ

此時ニ及ヒ英、蘇、愛、三國ノ養老金ハ合併シテ一括トナシ其總額中ヨリ十四萬五千七百五十磅ヲ減シテ七萬五千磅トナシ之ヲ皇室費ノ負擔ニ屬シ其他ハ皆國庫ヨリ之ヲ支拂コトト

ナレリ

女皇陛下ノ即位ニ及ビ君主ヨリ賜與ノ養老金額ヲ減シテ一ケ年一萬二千磅トナシタリ一千八百三十四年二月十八日下院ノ議決ニ依リ此養老金ヲ賜與スルハ君主ノ恩惠ヲ受クルニ適當セル者或ハ君主ニ功勞アル者或ハ國家ニ功績アル者或ハ學藝技術ニ達シ若ハ有益ノ發明ヲ爲シタル者等ニ限ルベシト定メタリ

斯クノ如ク養老金ノ定額定規ヲ設ケタル結果トシテ皇室及議院間ニ軋轢ヲ生スルノ憂ナク惡弊流行ノ根本ハ杜絶シ皇室ノ權勢ヲ増加スルナク又國民ノ負擔ヲ輕減スルニ至レリ而シテ養老金ヲ受クル者ハ皆有徳ノ君子ニシテ國民ノ尊敬ヲ受クル人物ニアラザルハナシ

獨逸皇室家系ノ一斑

獨逸皇帝ノ姓ヲホーヘンツォルレント稱ス其家系ノ淵源ニ
沂レハ敷説アリ或ハ曰ク其祖先カウント、オフ、ツォルレン家
ハ羅馬ノコロナト稱スル歐羅巴中最舊家タル貴族ニ連系ス
ト或ハ曰クカウント、オフ、ツォルレンハカウント、ユラルド、オ
フ、ロンバルデーノ裔ナリト蓋シカウント、コラルド、オフ、ロン
バルデーハ伊太利ニ於テ當時聞エタル貴族ノ勢家ナリシナ
リ然レトモ此説兩ナカラ信ヲ措クヘキモノニアラス抑モ歐
洲各國ニ於テ貴族ハ各其最モ舊家ナルヲ誇リ以テ世人ノ尊
敬ヲ博スル慣習ナルニ依リ中古史學ノ未タ進マサルトキニ
乘シ擅ニ無縁ノ舊家ヲ自家ノ祖先ト稱シ或ハ訛傳ヲ甘シ

之ヲ祖先トナス等ノ弊アルヲ免カレザリシナリ蓋シ前説亦或ハ之ニ彷彿タルモノニ外ナラストス爰ニ一二ノ例證ヲ舉ケン彼ノ歐羅巴中ニ於テ最モ著名ナル佛帝ノ祖先ヲ尋ヌルニ其先モ、ランシーニアルヘント云フ而シテ佛國皇宮ノ畫室ニ掲ケタルモ、ランシーノ畫像ヲ見ルニ盛粧シタル一貴人大洪水ニ際シノアノ舟ニ同乗シテ俱ニ逃レントスルノ狀ヲ畫ケリ果シテ然ラハモ、ランシーハノアト俱ニ大洪水ヲ逃レタルモノナルヘシト雖モ未タ曾テ經典ニスラ之ヲ記シタルモノアルヲ聞カス又澳國ハ實ニ貴族ノ多キ國ナルニ依リ普國ヨリ爰ニ派遣スル大使ハ常ニ高位ノ貴族ヲ以テスルノ例ナリシ然ルニ往年ビスマークヲ大使トシテ派遣スルヤ普王ノ親書ニ曰クビスマークハ高位ノ貴族ニアラスト雖モ

其舊家ナル殆ント朕ノ家系ニ同シ幸ニ其高位ナラサルヲ恕セラレヨ云々ト亦以テ其舊家ヲ尊フノ狀ヲ見ルヘシ然ラハ獨逸皇帝ノ祖先ニ就キ信憑スヘキ説那邊ニアルヤヲ尋ヌルニ其系統二人ノ「カウント」ニ出ツ即チ一「バーカード」ト云ヒ他ヲウエゼル、フォン、ツォルレルント稱シ獨逸皇帝ハインリッヒ第四世ノ治世一千六十一年ノ頃ニ生存シタル人ニシテ不幸ニモ國民ノ爲メ俱ニ殺害セラレタリ此兄弟二人ハアレモニアン家ノ裔ニシテ第十世紀中「バーカード」ハ「ホーヘンツォルレルン」ノ「カウント」ニシテツォルレルン城ニ在リ因テ其姓ヲツォルレルント稱セシトソ

「バーカード」及ウエゼル兄弟ニ數子アリ或ハ「カウント」トナリ或ハ「ナイト」トナリ或ハ牧師トナレリ「中古」ニ在リテハ貴族ノ

子弟ヲ多ク牧師ト爲スノ慣習ナリシ一千百七十年ニ至リ其子孫ニフリードリッヒ及バーカードノ二人アリ俱ニ「カウント」トナリ當時ノ皇帝ハインリッヒ第六世ノ寵遇ヲ蒙リタリ而シテ此兄弟ハ家産ヲ分割シカウント、フリードリッヒハツォルレルン城及之ニ附近ノ地該州ノ東部竝北部ケュービンゲン市ニ至ルノ間其他ダニューブ河邊ノ地ヲ領シカウント、バーカードハホーヘンベルヒ城及南西部竝南部ノ地、ダニューブ河ノ近傍、城府及ハイガロ州ヲ領セリ而シテバーカードハ一千百七十年ヨリ一千百九十二年ニ至ルノ間生存シホーヘンベルヒ家ヲ興シタリ世人或ハ呼ンテカウント、オフ、ツォルレルント云ヒ或ハカウント、オフ、ハイガロト稱セシト雖モ自ラ常ニカウント、オフ、ホーヘンベルヒト稱セリ其子孫ニシテ最モ著名ナル者

ハカウント、アルブレヒト、ミンストレル第二世「ミンストレル」トハ樂人ト云フノ義ニシテ昔時ハ貴人ヲ以テ樂人トナシタリ即チアルブレヒトハ樂人ナリシヲ以テ此名アリニシテ一千二百九十八年ニ逝去シ其妹ハ獨逸皇帝ルードルフニ嫁セリ盖シ皇帝ルードルフハ素ト瑞西國ノ「カウント」ニシテ獨逸皇帝ノ位ニ即キタルモノナリ故ニ皇帝ルードルフ及カウント、アルブレヒトノ兩系ヲ以テハツプスブルヒノ帝家ヲ組成シタルモノニシテ之レ即チ現時澳國ノ帝系ナリトス果シテ然ラハ澳國ノ帝家ト普魯士ノ王家トハ互ニ連系スルモノト謂フヘシ

カウント、アルブレヒトハ當時獨逸皇帝ト近親ナリシニ依リ一時其威權盛大ナリシト雖モ其逝去スルヤ所領ヲ子孫ニ分

割シタルヲ以テ大ニ其權勢ヲ失シタリ即チ其家産ヲ兄弟二人ニ分割シ又之ヲ其子孫ニ再分シ或ハ之ヲ賣却シ〔澳國ノ帝家ニ賣却シタルモノ多シ〕爲ニ微々タル一小家トナリ遂ニハツォルレルン家ト連系タルヲ知ラサルニ至リホーヘンベルヒ家ノ子孫ハ唯カウント、シグムンドノアルノミトナリシカ一千四百八十六年逝去スルヤ其家終ニ斷絶セリ

一千百七十年ホーヘンツォルレルン家ノカウント、フリードリッヒハ曩ニツォルレルンノ居城及之ニ附屬スル財産ヲ得フリードリッヒ第三世ト稱シ其子孫亦ツォルレルンノ姓ヲ繼キ南部獨逸ノ「カウント」中ニ於テ最モ資産アリ威權アル一家トナレリ盖シツォルレルン家ハ當時巨多ノ資財ヲ有シ堅城ヲ構ヘ其威國內ニ轟キ第十三世紀ノ半ニ在リテハ獨逸皇帝ノ威力モ猶

之ニ及ハサルノ觀アリタリ

カウント、オフ、ツォルレルンハ巨多ノ領地アリシノミナラス猶廣大ナル邦土ヲ管轄シ所有權ト爲政權トヲ併有セリ而シテ其爲政ノ權即チ「カウント」ナル官職ハ男子ニアラサレハ之ヲ相續スルコト能ハサリシナリ

ツォルレルン家ニ數子アリ而シテカウント、フリードリッヒハ最モ皇帝ノ寵臣ニシテ其威盛ナリシカハ一子ヲ郷里スウァピアヨリフランコニアニ移シテ又一家ヲ興シタリ

往時ヨリニュールンベルヒニ一城アリ第十一世紀ノ頃ニハ獨逸皇帝ノ直轄ニ屬シ屢々帝室ヲ爰ニ移シタルコトアリ一千五十一年皇帝ハインリッヒ第三世ノ治世ニ及ヒ該府ニ設ケタル市場翫具及造幣ノ事業等ヲ悉ク其城主ノ專有トナシタリ

一千百五十年ニ至リ始メテ澳國ノ一貴族ヲ舉ケテ其城主トナス之ヲカウント、ゴットフリートト稱シ其一子ヲコンラード、オフ、ラガッサ又ハラトブスト稱セリ然レトモコンラードニ男子ナカリシカハ其家終ニ斷絶シタリ但コンラードニ一女アリソフイエート稱シツォルレルンノ城主カウント、フリードリッヒニ嫁セリ抑モニールンベルヒノ城主ハ男子ニアラサレハ之ヲ相續スル能ハサルノ制タリ然レモカウント、コンラード及ソフイエートノ夫カウント、フリードリッヒハ皇帝ノ寵臣ナルヲ以テ特ニ之ヲ相續スルヲ許可セラレタリ而シテカウンテス、ソフイエートノ領地ハ多クフランコニアニ存セリ然レトモ其曾テ澳國ニ於テ所領シタル土地ハ一千二百十八年澳國ノデューク、レオポルド第六世ニ賣却シ尙其他爰ニ領スル所アリシト雖

モ一千七百九十二年フリードリッヒ、ウイルヘルム第二世ノ世ニ及ヒ悉ク之ヲ失フニ至レリ
夫レ「マルクト」ハ敵國ニ界スルノ國ニシテ之ヲ管轄スル官ヲ「マルグラフト」云フ「ブルグラフト」ハ所謂城下ヲ管轄スルノ職ニシテ「マルグラフト」ヲ補佐スルモノトス彼ノフランコニアハ素ト敵國ニ鄰接スル邦土ナレハ從來「マルグラフト」ノ官職アリシト雖モ今ヤ其要ナキニ至リシカハ之ヲ廢シテ帝王直轄ノ下ニ屬スルニ至レリ從テカウント、オフ、ラガッサハ一千百三十八年ニールンベルヒ城主ノ職ヲ失ヒタリト雖モ帝城ノ近傍ニ居城ヲ設ケ尙ホ未タ該府ノ爲政權ヲ掌握シタルノミナラス翫具等ノ專有權ヲ有シ〔該府ハ往時ヨリ翫具製造ノ盛ナル地ナリ〕且巨多ノ領地ヲ有シタリ一千四百二十七年ニ至リ爲

政及專有ノ兩權ヲ失シ「ブルグラフィ」ハ唯其稱號トナレリ然レトモ居城ノ近傍ニ巨多ノ領地ヲ有シタルノミナラス尙ホ益々土地ヲ購求シタリシカハ終ニハ全州其私有ニ歸スルニ至レリ夫レ富貴ノアル所威權之ニ從フハ世上ノ通則ナリ是ニ於テ其子孫ヲシテ家産ヲ蕩盡セサランコトヲ謀リ一千三百四十一年家法ヲ設ケテ其相續法ヲ定メタリ之レ即チ現時ニ至ルモ尙ホ固守スル所ナリトス

ソフイエーノ夫フリードリッヒハホーヘンツォルレン家ヨリ出テニュールンベルヒニ於テ猶一家ヲ興シタル始祖ナリシニ依リ之ヲ第一世フリードリッヒト稱セリ而シテ其スウアピアノ財産及ニュールンベルヒノ領地竝ソフイエーニ所屬シタル財産ヲ併セタルニ依リ今ヤ獨逸國中最モ富裕ノ貴族タリシノミナ

ラス猶皇帝ノ寵臣ナルヲ以テ其威全國ニ普ク又皇帝ニ隨ヒ屢々戰地ニ臨ミタリ

一千二百年フリードリッヒ第一世逝去シハイルスブローンノ地ニ葬ル爾來ニュールンベルヒニ於テ逝去スルモノハ爰ニ葬ルコトトナセリ蓋シ當家ノ此地ニアルコト凡ソ二百年間ナリトス寡婦ソフイエーハ依然尙ホ該城ニ居住シ一千二百四年家産ヲ其子ニ譲リ且夥多ノ財産ヲ寺院ニ寄附シ終ニ一千二百十八年ニ至リ亦逝去シタリ

フリードリッヒ第一世及ソフイエーノ間ニ二子アリーチユンラードト云ヒ他ヲフリードリッヒト稱セリ父ノ死スルヤ兄弟猶未タ幼ナリシカハ後見人ヲ置キ家事ヲ掌理セシメ壯年ニ達スルニ及ヒ始メテ自ラ之ヲ管理シタリ然レトモ兄弟共ニ一

城ニ居住シ更ニ財産ヲ分割セサリシモ〔此兄弟ヲ或ハホーヘンツガルレルンノ「カウント」ト云ヒ或ハニュールンベルヒノ「ブルグラフト」稱シ當時獨逸皇帝ニ奉仕シテ大ニ其寵遇ヲ受タリ〕後ニ至リテハ終ニ之ヲ兄弟間ニ分割シタリ其年代詳ナラスト雖モ蓋シ一千二百二十七年ナルヘシ何トナレハ此年始メテフランコニア及スウアビアノ兩家ニ分離シコンラードハニュールンベルヒ、フランコニア及澳國ニアル母ノ遺産ヲ領シフリードリッヒハスウアビアニ於ケル父ノ遺財ヲ領シ以テコンラードハフランコニア家ヲ繼キフリードリッヒハスウアビア家ヲ興シタレハナリ夫レ如斯兩家互ニ近親ナルモ累世兩家ノ交通疎遠ニ失シ終ニハ其關係アルヲ全ク忘ル、ニ至リ後漸ク兩家ニ於テ使用シタル封印ニ因リ始メテ互ニ其近親ナルヲ

發見シタリ但シ此封印ハ一千二百五十五年フリードリッヒ第二世ノ逝去シタル以來其使用ヲ廢止シタルモノナリト云フフリードリッヒ第二世ハスウアビア家ヲ興シ以テスウアビア地方ノ領地及ホーヘンツォルレルンノ居城ヲ得爾來ツォルレルンノ「カウント」ト稱ス二子アリ一千二百八十九年家産ト俱ニ之ヲ二家ニ別テタリ其後勢威漸ク衰退シタルヲ以テ一千三百四十二年七月二十七日家法ヲ兩家ニ設ケ長子ハ素ヨリ其家ノ相續者タルヘシト雖モ若シ一家ニ於テ嗣子ナキハ其家産ハ之ヲ他ノ一家ニ合併スヘシト定メタリ然ルニ其一家ノ相續者ハ貧窮ノ爲メ殆ト各領地ヲ二万八千金ニテバルデンブルヒノ「カウント」ニ賣却シ一千四百八年死去シテ其家終ニ斷絶セリ他ノ一家ノ相續者ハ再ヒ其家産ヲ二分セリ而シテ其一

家ハ一千三百四十四年忽チ斷絶シ一家ハ一千四百十二年ス
 トラスブルヒノカウント、フリードリッヒ之ヲ嗣ク二子アリ然
 レトモ更ニ家産ヲ分割セスシテ次子ハ牧師トナシ唯一定ノ
 年俸ヲ給與セリ是ニ於テ次子ハ家産ヲ分割セサルヲ怒リ一
 千四百十五年兄弟即チカウント、フリードリッヒ、オフ、オーナ
 ゲン及カウント、アイテル、フリードリッヒノ間ニ遂ニ戰端ヲ開
 キカウント、フリードリッヒ、オフ、オーナゲンハ其弟ノ爲メ十日
 間ホーヘンツォルレルン城ニ攻圍セラレ大ニ敗績シタリ此事
 タルヤ實ニ背理ノ舉ナルニ依リ戰後獨逸皇帝ノ命ヲ以テ其
 居城ヲ破毀セラレタリ然レモアイテル、フリードリッヒハ隣國ト
 和好ヲ修メ悉ク家産ヲ領有シテ一家ヲ興シ大ニ山林農耕牧
 畜ニ注意シ其子孫亦父ノ遺志ヲ繼キ益々事業ノ改良進歩ヲ

謀リタリ

當時スウァピア及フランコニア兩家ハ久シク疎遠ニ涉リ遂ニ
 全ク其近親タルヲ忘ル、ニ至レリ而シテニュールンベルヒノ
 「カウント」ハ獨逸皇帝ノ寵臣ナリシカハ其勢威益々伸長シス
 ウァピア家ハ兄弟内ニ鬩ク等ノ舉アリシヲ以テ其權力彌々衰
 微スルノ觀ヲ呈セリ第十五世紀ノ半ニ至リ漸クフランコニ
 ア家即チブランデンブルヒ家及スウァピア家ノ間ニ關係アル
 ナ発見シ一千四百五十四年五月廿一日兩家ノ費用ヲ以テツォ
 ルレルン城ヲ再建シタリ
 一千四百七十九年カウント、アイテル、フリードリッヒ第二世ハ
 マデリン、オフ、ブランデンブルヒノ女ト結婚セリ而シテ一千
 四百八十八年ニ至リフランコニア及スウァピア兩家ノ間ニ契

約ヲ結ヒ若シ兩家ノ一ニシテ嗣子ナキトキハ他ノ一家ヨリ
之ヲ相續セシメ又兩家共ニ嗣子ナキトキハブランデンブル
ヒ家ヨリ之ヲ繼キ家産ハ悉ク其一家ニ合併スヘキユトト定
メタリ之レ終ニホーヘンツォルレン家ノ一家ニ合併スヘキ
基礎トハナリタルナリ

フランコニア家ヲ興シタルフリードリッヒ第一世及ソフイエー
ノ子コンラードハ特ニ獨逸皇帝ノ寵臣ナリシヲ以テ皇帝ニ
隨ヒ屢々戰場ニ臨ミ或ハ皇帝フリードリッヒトシシリーノ戰
争ニ出陣シ郷里ニ在ルユト甚タ稀ナリ後其舊城ニ歸リ「ブル
グラフ」ノ職ヲ實子フリードリッヒニ譲リ一千二百六十一年終
ニ逝去シハイルスブローンノ寺院ニ葬リタリ
二子アリーナフリードリッヒ第三世ト稱シ他ヲコンラード第

四世ト稱ス父ノ死後兄弟家産ヲ分割シタリト雖モコンラ
ード第四世ハ暫時ニシテ死シ其家産ヲ悉ク寺院ニ寄附シタリ
〔人其資財ヲ寺院ニ寄附スレハ死後魂魄天ニ昇リ快樂ナル地
位ヲ占ムルヲ得ヘシト思考シ其家斷絶スレハ勿論然ラサル
モ財産ヲ寺院ニ寄附スルモノ多カリシ故ニ往時各寺院ハ實
ニ富有ニシテ一州若クハ數州ヲ所領スルノ狀況ナリシナリ
然レトモ現時ハ之ニ制限アリテ妄リニ資財ヲ寺院ニ寄附ス
ルハ許サ、ルコト、ナレリ〕故ニ弟家斷絶シタリト雖モ一毫
ノ資財モ兄家ニ歸セサリシ然レトモフリードリッヒ第三世能
ク經濟ニ通シ父ノ遺財ヲ保有シタルノミナラス後妻エリザ
ベスト結婚スルニ及ヒフランクニア、バイロイト、レクレット及
クルンパッハ等ニ於テ多クノ領地ヲ得タリ

フリードリッヒ三世ハ其初妻ニ男子ナク爲ニ繼嗣ニ付非常ニ苦慮シ遂ニ皇帝ルードルフヨリ女子ヲ以テ家督相續ヲ爲スノ特許ヲ受ケタリ〔皇帝ルードルフハ瑞西國ノ「カウント」ヨリ獨逸皇帝ニ舉ケラル、ノ際大ニフリードリッヒノ幫助ヲ受ケ其庇蔭ヲ蒙リタルニ依リフリードリッヒノ爲メ盡力シタルコト多カリシ〕然レトモ後妻エリザベスニ二人ノ男子アリ其長子ハ早世シタルヲ以テ一千二百九十七年次子フリードリッヒ第四世相續スルコトトハナレリ

フリードリッヒ第四世賢明ニシテ大ニ商業ヲ獎勵シ市府ノ繁榮ヲ謀リ猶太人ヲ保護シタルノミナラス又能ク理財ニ長シ巨額ノ蓄財ヲナシ以テ巨多ノ土地ヲ購求セリ一千三百三十二年ニ至リ三子ヲ遺シテ逝去ス其一子亦一千三百三十四年

世ヲ去ルニ及ヒ兄弟二人間ニテ其家産ヲ分割セントスルヤ未タ確固タル家法ノ制定アラサルヲ以テ稍々紛議ヲ生スルニ至リタリ然レトモ一千三百四十一年十月十日遂ニ和解ヲ爲シ一ノ家制ヲ設ケタリ之レ即チフランユニア家ニ於ケル家法ノ根源ナリトス其約ニ曰ク

此契約ニ因リ家産ハ六ケ年間分割セス兄弟共ニ一家ニ居住スヘシ若シ之レカ爲メ紛議ヲ生スル場合ニ於テハ仲裁人ヲシテ其是非曲直ヲ判決セシムルモノトス
家産ヲ分割シタル以上ハ之ヲ男子ニ讓ルヲ得ヘシト雖モ若シ嗣子ナキトキハ孰レカ其永續スル一家ニ之ヲ讓ルヘキモノトス

女子アルニ於テハ之レニ年金若クハ若干ノ金額ヲ與フルハ

自由ナリト雖モ決シテ不動産ヲ分與スルコト能ハサルモノトス

如何ナル場合ヲ問ハス互ニ當主ノ承認ヲ得ルニアラサレハ家産ヲ賣却若クハ典却スルコト能ハサルモノトス然レトモ萬止ムヲ得サル場合ニ於テハ之ヲ他ノ一家ニ賣却若クハ典却スルノ義務アルモノトス

右ノ如ク契約ヲ結ヒ兄弟親睦シテ其居ヲ共ニシ終ニ家産ヲ分割シタリト雖モ忽チ家兄遺子ナクシテ逝去シタルヲ以テフリードリッヒ第五世ハ一千三百六十一年再ヒ之ヲ一家ニ合併シタリ

當時ノ獨逸皇帝カール第五世ハフリードリッヒ第五世ヲシテ帝位ヲ嗣カシメント欲シ一千三百六十三年三月十七日「イン

ベリアル、プリンス」ノ名稱ヲ與ヘリ蓋シフリードリッヒ第五世ハ「カウント」ニシテ未タ「プリンス」ノ地位ニアラサリシナリ「説」チナスモノアリ曰ク皇帝ノフリードリッヒヲ舉ケテ「プリンス」トシタルニハ最モ深意アリテ存ス何トナレハフリードリッヒハ當時富裕ノ聞ヘアル一貴族ナレハ皇帝ハ或ハ其資財ヲ帝室ニ領有セントノ意アリシナリト」

フリードリッヒ第五世ハ殆ント帝國ニ冠タル富者ニシテ當ニ領地ノミナラス猶夥多ノ礦山等ヲ所有シ且理財ニ長シタリシヲ以テ其富益々増殖シタリ加之年々巨多ノ土地ヲ購求シタルニ依リ皇帝ハ頻リニ之ヲ掠奪セントスルカ如キノ觀アリタリ

フリードリッヒ第五世老年ニ至リテ二子ヲ舉ク一ヲヨハン第

三世ト云ヒ他ヲフリードリッヒ第六世ト稱セリ而シテ其自ラ老年ナルヲ以テ深ク將來ヲ慮リ一千三百七十二年後見及相續等ニ關スル家法ヲ設ケタリ即チ

未ダ丁年ニ達セサルノ間ハ決シテ家産ヲ分割スルコトヲ得ス假令丁年ニ達スト雖モ猶可成兄弟共ニ一家ニ居住スヘシ若シ分離スル場合ニ於テハ領地ヲ南北二部ニ分ケ各之ヲ領有シ飽マテ其連絡ヲ離ルヘカラサルモノトス而シテ男子二人以上アルニ於テハ嫡子ヲ除クノ外悉ク之ヲ牧師ト爲スヘシ一千三百八十五年父死スルヤ曾テ制定シタル家法ニ隨ヒ兄弟俱ニ十年間其居ヲ同クシ終ニ家産ヲ二分シタリ然レトモ猶城府及礦山ハ飽マテ宗家ノ所屬トナシ若シ他ヨリ襲撃ヲ蒙ムルカ如キ場合ニ於テハ兄弟互ニ幫助スヘク且萬止ムヲ

得サル場合ニアラサレハ決シテ其所有ノ不動産ヲ賣却若クハ典却スルヲ得サルコトトナセリ故ニ此法規タルヤ曾テ一千三百四十一年制定シタルモノト其主意敢テ異ナル所ナキモノトス

兄弟ノ一方死スルニ於テハ生存者ハ其遺子ノ後見人ト爲リ又相續スヘキ男子ナキトキハ其資財ハ悉ク一家ニ歸シ而シテ女子アルトキハ自家ノ女子ト同一ノ年金ヲ給與スヘキモノトス

以上ノ家法ニ因リ兄弟二人其家産ヲ分割シヨハン第三世ハ北部バイロイトヲ領シフリードリッヒ第六世ハ南部アンスバッハ及城府礦山等ヲ領セリ然レトモヨハン三世更ニ子ナキヲ以テ到底相續ノ望ミナカリシ

フリードリッヒ第六世ハ屢々當時ノ獨逸皇帝シグムンドニ隨
 ヒ出陣シ郷里ニアルクト甚タ稀ナリ然レトモ決シテ其家政ヲ
 怠ラス益々領土ヲ擴張センコトヲ圖リ既ニ郷里ニ於テハ充
 分ノ土地ヲ得タルモ到底他邦ニ依ラスンハ其大志ヲ遂クル
 コト能ハサルヲ悟リ頻リニ皇帝ニ隨ヒテ所々ヲ徘徊シタリ
 ブラウンデンブルヒノ國主

ホーヘンツォルレルレ家ヨリ王位ニ登ルノ經歷
 一千四百十五年ヨリ一千七百一年ニ至ル

[A]マーク、オフ、ブラウンデンブルヒノ管領

カール第一世デル、グローセ及其後嗣并ニ撒遜王家ハ曾テエ
 ルベノ右岸ヲ領シタリト雖モ終ニ之ヲ失シ一千百三十四年
 アンハルト家ノカウント、アルブレヒト、ベアー其東部特ニ首

府ブラウンデンブルヒヲ領シ自ラ國主トナル後嗣亦皆施政宜
 シキヲ得タルニ依リ第十二世紀ヨリ第十四世紀ノ頃ニ至ル
 迄ハ邦土寔ニ安泰ナリシ然リト雖モ一千三百十九年以來漸
 次ニ行政紊亂シ騷擾絶ヘス一千四百十一年終ニ獨逸皇帝ノ
 直轄ニ歸スルニ至レリ而シテ之ヲ直轄スルモ亦或ハ更ニ國
 主ヲ置クモ素ヨリ皇帝ノ隨意ナリト雖モ當時四方ニ敵アリ
 國事多端ノ際ナリシカハ皇帝ハ到底之ヲ直轄スル能ハス依
 テ一千四百十一年七月八日其寵臣ナルフリードリッヒ第六世
 ナ爰ニ封シテマーク、オフ、ブラウンデンブルヒノ太守トナシ
 大ニ威權ヲ附與シタリフリードリッヒ第六世是ニ於テ著シク
 其威權ヲ増加シ自ラ施政スルノ權ヲ有シタリト雖モ單ニ太
 守タルニ止マリ未タ國主ノ稱號ヲ得ル能ハサリシ之レ理ア

リ未タ獨逸先帝ノ家兄ウエゼルアリ之ヲ舉ケテ其國主ニ任セサルヘカラサル場合ナレハ今之ヲ措キフリードリッヒ第六世ニ其官位ヲ授クル能ハサリシナレハナリ

獨逸皇帝シグムンドノフリードリッヒ第六世ヲ該地ノ太守ニ任スルヤ約スラク宜シク資金ヲ投シテ地方ノ改良ヲ致ムヘシ決シテ土地ヲ賣却讓與又ハ典却セサルヘシ若シ之ニ違フトキハ拾五万「デユカツ」ノ償金ヲ下付スヘシト之ヲ一紙ニ記シテフリードリッヒ第六世ニ附與セラレタリ〔一説ニ曰ク皇帝ハフリードリッヒ第六世ノ富裕ナルヲ知り之ニ委任シテ該地ノ改良ヲ謀リ時機至ラハ自ラ之ヲ領有セントノ意アリシナリト又曰クフリードリッヒハ特ニ皇帝ノ寵臣ナレハ之ヲ領有セシメントスルモ未タ先帝ノ家兄アリ子孫アリ若シ該地ヲ領

セントスルニ於テハ到底之ヲ拒ムコト能ハサルニ依リ爰ニ十五萬「デユカツ」ノ償金ヲ與フヘキヲ約シテ以テ之ヲ豫防シタルモノナルヘシト其說孰レカ信ナルヲ知ルヘカラスト雖モ當時ノ狀況ヨリ之ヲ觀察スレハ前説或ハ信ナルニ近シ〕
一千四百十二年カウント、フリードリッヒ第六世ハ始メテ該地太守ノ資格ヲ以テ夥多ノ臣僕ヲ隨ヘ美服盛粧シ意氣揚々ブランデンブルヒニ入レリ蓋シ新任太守ノ始メテ赴任スルヤ貴族牧師ハ論ナク各州ノ知事郡吏等數百人其首府ニ參集シ之ヲ歡迎スルヲ例ナリトス然ルニフリードリッヒ第六世始メテ爰ニ來ルヤ之ヲ迎フル者僅ニ二人ノ牧師ト少數ノ貴族等ニ過キス亦以テ人民ノ多數ハ其太守タルヲ快トセサリシヲ察スルニ足ルヘシ嗚呼フリードリッヒノ困難ナル察スルニ餘

リアリ身ハ遠ク郷里ヲ去リテ更ニ依ル所ナク一國ノ貴族ハ殆ント舉ケテ之ニ反對シ而シテ又國事多端ノ際ナレハ皇帝ノ幫助ヲ得ルコト能ハス因テ思ラク到底貴族ヲ掌裏ニ歸スルニアラスンハ百事爲スヘカラス先ツ平和ノ手段ヲ以テ之ヲ懷柔セント之ヲ試ミタリト雖モ遂ニ其企望ヲ遂クル能ハサリシ是ニ於テ其方向ヲ市民ニ轉シ漸次稍々市民ノ歡心ヲ得ルニ至リシト雖モ未タ貴族ハ依然トシテ動ク所アラサリシナリ

嗚呼國ニ剛勇ナル敵アルモ數倉ノ黄金アラハ何ソ恐ル、ニ足ランフリードリッヒ第六世ハ己ニ世ニ聞ヘタル富裕ノ貴族ナリ到底平和手段ヲ以テ貴族ヲ懷柔スルコト能ハサルヲ悟ルヤ斷然巨金ヲ抛テ夥多ノ銃砲彈藥ヲ其郷里ニユールンベル

ヒヨリ購入セリ〔銃砲彈藥ハ曾テ支那ニ於テ發明シタルモノナリト雖モ未タ支那トノ交通ナカリシニ依リ獨逸ニ於テハ斷ヘテ之ヲ知ルモノアラス然ルニ當時學術未タ開ケサリシト雖モ獨リ僧侶ハ能ク之ニ通シ既ニ理化學等ヲ修メタルモノアリ蓋シフリードリッヒ第六世ノ郷里ニユールンベルヒニシユウアーツト稱スル一僧アリ常ニ化學ニ從事シ石ヲ化シテ黄金ト爲スノ術ヲ發明セントシ偶々一器ニ木炭、硫黃及硝石ノ三種ヲ盛り頻リニ之ヲ混和シタルニ豈圖ラン終ニ火焰發シ一烟ノ下ニ消散セリ是ニ於テ反復之ヲ試ミ終ニ彼ノ火藥ヲ發明シタリ故ニ獨逸國ニ於テハニールンベルヒヲ以テ之レカ創始トス爾來之ヲ以テ居城ヲ防禦シ叛徒アルヤ一撃ノ下ニ忽々之ヲ破レリ當時未タ世ニ銃砲彈藥ヲ備フルモノアラス

是ヲ以テ皆其軍器ニ恐怖シ亦一人ノ叛逆ヲ試ムル者ナキニ至リタリ

一千四百十四年以來彼ノ軍器ノ爲メニ貴族ハ素ヨリ人民ニ至ルマテ悉クフリードリッヒノ威權ニ恐レ一人ノ叛徒ナキニ至レリ之レ平和ノ端緒ナリトス

一千四百十四年フリードリッヒ第六世ハ獨逸皇帝ニ隨ヒユストニックノ會議ニ臨ミ一千四百十五年四月三十日該會ニ於テ皇帝シグムンドノ推舉ニ因リ始メテ皇帝ヨリ約シタル彼ノ償金ニ尙ホ二十五萬「デユカツ」ヲ増加シ總計四十萬「デユカツ」トナリタリ

一千四百十五年十月十八日新任國主フリードリッヒ第六世伯林府ニ歸着スルヤ人民ハ大ニ尊敬ノ意ヲ表シタリ

一千四百十七年四月十八日フリードリッヒ第六世「マルグラフ」ノ職ニ就ク然レトモ未タ其全權ヲ掌握スル能ハサリシ之レ蓋シ未タ皇帝シグムンド及先帝ノ家兄ウエゼルノ在ルアレハナリ然レトモウエゼルハ一千四百十九年ニ死去シ皇帝シグムンドハ一千四百三十七年崩御シタレハ爾來フリードリッヒ第六世ハ「マルグラフ」ノ全權ヲ掌握スルニ至レリ

[B]「マルグラフ、オフ、ブランデンブルヒ」

一千四百七十三年ニ至ルノ經歷

フリードリッヒ第六世ハホーヘンツォルレルン家ニ於テ始メテ「マルグラフ」ノ職ニ就キタル人ナレハ之ヲ第一世フリードリッヒトナセリ蓋シ其始メテブランデンブルヒニ住シタル以來實ニ名狀スヘカラサル艱苦ヲ嘗メ身ハ恰モ敵中ニアリ逆徒四

方ニ蜂起シ到底其任ヲ全クスル能ハサルノ觀アリシ然レトモ其未タ世人ノ備ヘサル武器ヲ以テ漸次ニ貴族ノ逆意ヲ摧クニ至リ爾來司選公トナリ「マルグラフ」トナリ今ヤ其威權盛大トナリ益善政ヲ施シ其赴任以前ニ於テ曾テ失ヒタル土地ノ回復ヲ謀リタリ

當時フリードリッヒ第一世ハ獨逸皇帝ニ奉仕シ常ニ其事務ヲ擔任セサルヘカラス從テ自ラ國政ヲ顧ミルノ暇ナク爲メニ久シク其子ヨハンニ政務ヲ委テ威力再ヒ衰退シ大ニ人民ノ敬心ヲ減スルニ至レリ

一千四百二十年フリードリッヒ第一世ノ弟ヨハン第三世遺子ナク逝去シタルヲ以テ悉ク其家産ヲ一家ニ合併セリ

フリードリッヒ第一世ニ數多ノ男子アリ是ヲ以テ一千四百三

十七年既定ノ家法ニ倣ヒ家産分配ノ法ヲ設ケタリ蓋シフラインコニアノ地ハ依然トシテ二分シ飽マテホーヘンツォルレルン家ノ私財タル性質ヲ變セサリシ此制ニ依リ兄弟二人ハ必ス十六年間俱ニ公領地ニ住シ他ノ二子ハフランコニアノ地ヲ領シタリ蓋シ一千四百四十七年終ニ公領地ヲ其兄弟ニ分割セリ然レトモ一千四百六十三年フリードリッヒ、フワット逝去シタルニ依リフリードリッヒ第二世獨リ之レヲ領スルニ至リ大ニ人望ヲ博シ人民ノ敬愛ヲ得且伯林及コローン兩府ヲ領シ爰ニ堅牢ナル城郭ヲ構ヘタリ

フリードリッヒ第二世ニ四子アリ三子ハ遺子ナクシテ早世シ一千四百七十一年第三子アルブレヒト、アキル其家産ヲ一家ニ合併セリアルブレヒト、アキルハ公領地ニ於テ誕生シ始テ

其職ヲ繼承スル第一子ニシテ賢明多才百事先見宜シキヲ得大ニ名望ヲ博シタリ先妻及後妻ニ二十一人ノ子ヲ設ク是ニ於テ深ク將來ヲ慮リ相續及家産分配ノ方法ヲ豫定スルノ必要ナルヲ悟リ一千四百七十三年「アキリアン」法即チ一ノ家法ヲ設ク之レ蓋シ現時ニ至ルマテ世人ノ熟知スルモノニシテフランコニアノ家法ニ倣ヒタル所多シ即チ公領地及フランコニアノ領地ハ尙ホ既定ノ如ク分割スヘシト雖モ孰レカ一家斷絶スル場合ニ於テハ必ス他ノ一家ニ合併スルモノトス但シフランコニアノ南北兩地ハ素ヨリ私財ノ性質ヲ存シ子孫ヲ配置スルニ便宜ナレハ飽マテ舊例ニ依リ之ヲ分割スヘシ然レトモ公領地ハ所謂官職ニ附屬スル土地ナレハ如何ナル場合ヲ問ハス之ヲ分割スルコトナク必ス一人ニテ其政ヲ

掌ルヘキモノトス故ニ男子幾人アルモツォルレルン家ヲ相續スルハ三人ニ限ルヘシ但長子ハ公領地及國主ノ位ヲ繼キ次子及三子ハフランコニアノ地ヲ領スルモノトス若シ二子ノミナルトキハ一子ハ公領地ヲ領シ他ハフランコニアノ兩地ヲ領スヘシ一子ノミナルトキハ兩所ヲ合併シテ一トナシ之ヲ領有スルモノトス男子三人以上アルトキハ三人ヲ除クノ外悉ク牧師トナシ大僧正ノ地位ニ達スル迄ハ每歲一千「デユカツ」ヲ給與スルモノトス然レトモホーヘンツォルレルン家ヲ相續スヘキ三人中孰レカ缺クル場合ニ於テハ該牧師中ノ年長者ヲ以テ之ニ充ツヘキモノトス女子ハ結婚スル時之ニ要スル衣服調度等ヲ調製シテ給與スルノ外一萬「デユカツ」ノ金ヲ與フルモノトス然レトモ財産ノ分配ヲ請求スルコト能ハス又

決シテ不動産ヲ分配スルコト能ハサルモノトス自ラ購得シ
 或ハ更ニ取得シタルモノ若クハ某貴族ノ家滅亡スル等ノ爲
 メ其領地國主ノ手ニ歸シタルモノハ先代ノ遺財ナルト否ト
 ニ係ラス國主ハ自由ニ之ヲ處分スルヲ得ルモノトス而シテ
 孰レカ一家男子ナキ爲メ其家斷絶シ女子ノミ存スル場合ニ
 於テハ他ノ一家ニ於テ之ヲ養育スルモノトス
 「アキリア」家法中ニハ以上ノ規定ノ外猶戰鬪ニ際シ互ニ幫助
 スヘキノ制及家族間ニ紛議ヲ生スル時之ヲ判決スルノ規定
 等アリ蓋シ家族間ニ紛議ヲ生スル場合ニ於テハ仲裁人ヲ以
 テ其是非曲直ヲ判定シ決シテ法庭ニ訴フルヲ得サルモノト
 シ其他此家法中ニ明文ナキモノハ當家ノ慣行及公法ニ因テ
 之ヲ補フヘキモノトナセリ

以上ノ家法中最モ緊要ナル點ハ公領地ヲ分割セサル云々ニ
 アリ夫レ假令王家ト雖モ富裕ナラサレハ其威權薄弱ニシテ
 到底ツォルレルン家ノ如ク數百年繼續スルコトナカルヘシ之
 レ單ニ各相續者ノ賢明ナリシノミナラス蓋シ其家法ノ宜シ
 キヲ得タル結果ニ外ナラスト謂フヘシ
 一千四百七十三年獨逸皇帝フリードリッヒ第三世ハアルブレ
 ヒト、アキルノ家法ニ倣ヒ帝室家憲ヲ設ケタリ

〔C〕公領及國主

「アキリア」ヨリ「ゲラ」ノ家法ニ至ル

一千四百七十三年ヨリ一千六百三年ニ至ルノ經歷

アルブレヒト、アキルノ制定シタル家法ニ隨ヒ其長子ヨハン、
 シセロハ公領地及國主ノ位ヲ繼キ一千四百八十六年ヨリ一

千四百九十九年ニ至ルノ間政ヲ執リ次子フリードリッヒ第二世ハフランコニアノ南部アンスバッハヲ領シ三子シグムントハ其北部バイロイトヲ領シタリ

國主ヨハン、シセロ博學多才ニアラスト雖モ最モ威權ヲ掌握セリ其ノ長子ジエームス、チストウ第一世ハ一千四百九十九年ヨリ一千五百三十五年ニ至ルノ間政ヲ掌リ賢明多才ニシテ開進ノ思想ヲ抱キ大ニ人民ノ自由ヲ發達セシメタリ而シテ又羅馬法ヲ採リ之ヲ自國ニ行ハンコトヲ孜メ且大學校ヲフランクフルト、オーデルニ設立シ一千五百十六年及一千五百二十七年羅馬ノ制ニ倣ヒ上院開設ノ布告ヲ發シ且人民ノ財產處分法ヲ設ケタリ而シテ一千五百十三年先ツ兩家ノ城府ニ警察制度ヲ布キ漸次之ヲ他ノ市府ニ及ホサントシタルモ

貴族及牧師之レニ反對シタルヲ以テ唯二三ノ市府ニ止マリ之ヲ一般ニ及スコト能ハサリシ

夫レ一國ノ政治上ニ宗教ノ關係ヲ及スコト大ナルハ素ヨリ世人ノ知ル所ナリ往年撒遜ニ住スル一僧ル―ターナル者アリ當時羅馬法王奢侈ヲ極メ威權ヲ弄スルヲ憤リテ曰ク幾部ノ經典ヲ反復誦讀スルモ法王ハ威權ヲ逞クシ奢侈ヲ縱ニスヘシトノ教旨アルナク却テ其誠語アルヲ見ル然ラハ羅馬法王ハ基督教ノ假面ヲ被ルモノニシテ其實聖教ニ逆フノ徒ト謂フヘシ今如斯邪人ニ服従スルハ又天帝ノ教ニ逆フ者ト謂ハサルヘカラス宜シク法王ノ配下ヲ脱シ「プロテスタント」宗ヲ立ツルニ如カスト是ニ於テ大ニ決意シ頻リニ之ヲ人民ニ布說シ漸ク其意思ヲ貫徹スルノ傾向ヲ呈スルニ至レリ因テ

羅馬法王ハルターナ死刑ニ處スルノ令ヲ獨逸皇帝ニ下シ
 タリト雖モ撒遜王密ニ之ヲ城中ニ隱匿シ免カレシムルコト
 ナ得タリ其後「プロテスタント」宗ハ漸次國內ニ傳播シ今ヤ殆
 シト人民悉ク之ヲ信奉スルニ至レリ然レトモ當時「ブランデ
 ンブルヒ」ノ國主「ジエームス」第一世ハ飽マテ「カソリック」宗ヲ固守
 シテ更ニ動ク所アラザリシ

一千五百三十四年十月二十二日「ジエームス」第一世ハ既定ノ「ア
 キリア」家法ニ背キ終ニ公領地ヲ二分シ長子ハ國主ノ職及西
 部ヲ領シ次子ハ其東部ヲ領スルコトトナセリ「ジエームス」ヘク
 ター「第二世」父ノ職ヲ繼キ一千五百三十五年ヨリ一千五百七
 十一年ニ至ルノ間公領地ノ政ヲ掌リ終ニ亦父ノ遺訓ニ違ヒ
 一千四百三十九年十一月一日「カソリック」宗ヲ棄テ、「プロテス

タント」宗ニ歸シタリ之レ政治上一大變動ヲ生スルノ源ニシ
 テ昨ハ獨逸皇帝ノ寵臣タリシモ今ヤ其仇敵トナリ羅馬法王
 ハ皇帝ニ令シテ之ヲ攻撃セントセリ嗚呼現時ニ至ルマテツォ
 ルレルン家ナシテ果シテ「プロテスタント」宗タラシメハ到底
 今日ノ盛大ヲ見ルコト能ハザリシナラン

「ジエームス」第二世ハ斷然「プロテスタント」宗ニ歸シ寺院ニ關ス
 ル法規ヲ設ケ羅馬法王ノ配下ヲ脫シ今ヤ一國ノ主權者タル
 ノミナラス又寺院ノ管長トハナレリ而シテ其政治上ニ在リ
 テハ更ニ著大ナル實功ナク却テ之カ爲メ巨費ヲ要シ悉ク之
 ヲ負擔スル能ハザリシカハ終ニ國民ニ其補助ヲ求ムルニ至
 リタリ「當時國王ハ總テ政治上ニ要スル費用ヲ自ラ負擔セリ」
 然レトモ國民ハ未タ政費ヲ負擔スルノ慣習ナキヲ以テ容易

ニ之ヲ承諾スルモノナカリシカハ遂ニ國民ト約シ國家ノ安危盛衰ニ關スル事件ハ必ス國民ノ協贊ヲ得ヘキコトトナシ大ニ人民ノ掣肘ヲ受ケ漸ク之ヲ承諾セシメ一千五百四十九年新ニ麥酒税ノ一法ヲ設ケ爾來其收入支出ヲ明記シテ人民ニ公告スルコトトナセリ

前述ノ事實ニ依リジエームス第二世ハ人民ニ依頼シ爲メニ其掣肘ヲ蒙ムルノ位置ニ立ツニ至リタリト雖モ將來ニ對シテハ大ニ國家開明ノ基礎ヲ置キタルモノト謂フヘシ

一千五百三十七年十月十九日ジエームス第二世ノ一子ハフリードリツヒ即チデューク、オフ、リーグニツツノ子ト重縁ヲ結ヒシレシア家斷絶スルニ於テハブランデンブルヒ家ヨリ之ヲ相續スヘキヲ約シ以テシレシアヲ領有セントシタルノミナラス

ジエームス第二世ハ又普魯士國ヲ領有センコトヲ企テリ獨逸國ノ武士ニシテ嚮ニ普魯士國ヲ押領シタル輩ハ一千四百十年七月十五日タンテンブルヒニ居住スルトトナリソノ條約ニ依リ大ニ其所領ヲ失ヒ僅ニ波蘭國王ヨリ普魯士國ノ一小部ヲ家祿地トシテ給セラル、ニ至リタリ因テ今ヤ彼ノ武士等ハ波蘭合衆王國ノ世襲借地人タルノ觀ヲ呈シタリ一千五百二十五年四月八日クラカンノ條約ニ依リフランコニア家ノ裔ナルマルグラフ、アルブレヒト、フォン、ブランデンブルヒハ波蘭國王ヨリ普魯士國ヲ領シ爾來其子孫ヲ以テ之ヲ相續セリ一千五百六十九年一ノ盟約ヲ結ヒフランコニア家若シ男子ナキ爲ノ滅亡スル場合ニ於テハブランデンブルヒ家ヨリ之ヲ相續スヘキコトトナセリ

一千五百七十一年一月三日ジエームス二世逝去シ後十日ヲ經テ其弟ヨハン亦嗣子ナク終ニ逝去スルニ至レリ因テ其所領シタル東部ノ公領地ハ國主ノ家ニ歸シ再ヒ之ヲ合一シ爾來公領地ヲ分割スルコトナカリシ

ジエームス二世ノ長子ヨハン、ジヨルジ繼キ一千五百七十一年ヨリ一千五百九十七年ニ至ルノ間政ヲ掌ル其父在世中ニ巨額ノ負債アリシヲ以テ大ニ之カ償還ノ途ニ苦ミ屢々國民ニ出金ヲ請求シタリ是ニ於テ國民ハ其束縛ヲ脫シ自由ノ權ヲ得ルノ好機ナルヲ悟リ容易ニ之ニ應シ國主ハ終ニ貴族所領ノ地稅ヲ領スルノ權ヲ失ヒ全ク貴族ノ專有ニ歸シタルノミナラス貴族ハ又農民ヨリ土地ヲ購求スルノ自由ヲ得タリ(當時邦土ハ悉ク國主ノ所有ニシテ恰モ私有財産ナリシカハ素

ヨリ人民擅ニ之ヲ賣却スルコト能ハザリシ)如斯ニシテ公領地ハ漸次ニ貴族僧侶等ノ私有ニ歸シ以テ封建制度ヲ破ルノ端緒ヲ開キタリ

一千四百七十三年制定シタル「アキリア」家法ノ要旨ハ爾來或ハ之ヲ遵奉セサル者アリシ蓋シジエームス第一世ハ一千五百三十四年十月二十日特ニ制定シタル家法中ニ於テ其要旨ニ背キタル所アリ又ヨハン、ジヨルジハ一千五百九十六年遺言書ニ因リ「アキリア」ノ要旨ニ背キ公領地ヲ其二子ニ分割スルコトトナセリ

一千五百九十七年ヨリ一千六百八年ニ至ルノ間公領地ノ政ヲ執リタルジエームス、フリードリッヒハ既定ノ家法ヲ以テ足レリトセス尙ホ之ヲ整備セント欲シフランコニア家ノ當主ジヨ

ルジ、フリードリッヒト謀リゲラニ會シテ家法ヲ議シ一千五百九十九年四月二十九日マクデブルヒニ於テ俱ニ其盟約書ニ調印セリ然ルニ國主ジエームス、フリードリッヒノ弟クリスチアン其盟約ヲ拒ミ父ノ遺言書ニ隨ヒ公領地ヲ分割シ其東部ヲ領センコトヲ迫リタリ然ルニ暫時ニシテフランconiア家ノ當主シヨルジ、フリードリッヒ遺子ナク逝去シ其領地國主ノ家ニ歸シタルヲ以テ之ヲ其弟ニ譲リ漸ク其甘心ヲ得テ公領地ハ決シテ分割スヘカラサルコトニ同意セシメタリ

一千六百三年クリスチアン及ジエームス、アーチスト兄弟ハ父ノ遺法ヲ棄テ飽迄公領地ヲ分割セサルコトニ同意シヨハン、シヨルジ、クリスチアンハフランconiアノ北部即チバイロイトヲ領シジエームス、アーチストハ其南部アンスバッハヲ領シ公領

地ハ全ク國主ノ家ニ歸セリ抑モゲラノ盟約ニ依リ制定シタル家法ハ彼ノ「アキリア」ノ法ニ倣ヒタルモノニシテ其主意更ニ異ナルナシ蓋シ三人ノ兄弟ノミ家産ヲ受ケ執レカ其一家斷絶スルニ於テハ之ヲ合一スヘシ國主ノ職及公領地ハ彼ノ「ゴールデン、ブル」ナル公法ニ因リ嫡子ヲ以テ相續シ公領地ハ決シテ分割セサルコトトナセリ而シテ普魯士ノ公領地ハ當時發狂シタルゲューク、オフ、アルブレヒト、フリードリッヒ逝去スルニ於テハフランconiア家ノ當主シヨルジ、フリードリッヒノ所領ニ歸シ若シ其家斷絶スルニ於テハ普魯士ハ國主ヨハン、ジエームス、フリードリッヒニ歸スヘシ又其繼嗣ハ必ス嫡子ヲ以テ之ニ充ツヘク他ノ男子及女子ニ分配スルモノハ即チ既定ノ家法ニ依リ三人ノ男子ノミ家産ヲ領シ國主ハ他ノ弟ヲ教育

スヘク其丁年即チ十八才ニ達スルトキハ毎歲之ニ六千「ター
レル」ヲ給スヘシフランコニア家ニ於テハ其弟ヲ教育シ猶每
歲「プリンス」ノ生計ヲ營ムニ足ルヘキ適宜ノ金額ヲ與フヘキ
モノトス女子ハ結婚スル時身分ニ應スル衣服調度ヲ與フル
ノ外國主ハ二萬「グルデン」フランコニア家ニ於テハ一万二千
「グルデン」ヲ給スヘシ決シテ家産ノ分配ヲ請求スルノ權ナキ
モノトス而シテ總テ其弟タルモノハ國主ヲツォルレルン家ノ
主長トナスヘキモノトナセリ

〔D〕ブランデンブルヒノ國主

ガラノ盟約ヨリ王位ニ登ルノ經歷

一千六百三年ヨリ一千七百一年ニ至ル

ガラノ盟約ニ因リ國主「ジエームス、フリードリッヒハツォルレルン

家ノ法ヲ定メ且大ニ國家ノ開進ヲ謀リタリ蓋シ一千六百四
年十二月十三日始メテ宰相ヲ置キタルハ一大改革ニシテ從
前僧侶「カウント」及武士等ヲ以テ公領地ノ參政者トナセシモ
今ヤ純然タル宰相ノ官位ヲ設ケ政ヲ行ハシムルニ至レリ
ヨハン、シグムンド職ヲ繼キ一千六百八年ヨリ一千六百十九
年ニ至ルノ間在位シ普魯士國主アルブレヒト、フリードリッヒ
逝去スルノ後終ニ普魯士國ヲ領スルニ至レリ蓋シアルブレ
ヒト、フリードリッヒハ一千五百七十三年以來發狂シタルニ依
リフランコニア家ノ「ジヨルジ、フリードリッヒ」其後見人トナリシ
モ一千六百三年「ジヨルジ、フリードリッヒ」逝去シタルヲ以テ「ジエー
ムス、フリードリッヒ」之ヲ嗣キ一千六百十八年アルブレヒト、フ
リードリッヒ逝去スルニ至リ終ニ「シグムンド」繼テ其地ヲ領シ

タルナリ

百七十八

一千六百十四年十一月十二日ノ盟約ニ因リヨハン、シグムン
ドハ「ヂュークドム」ナルツツリツヒ、クレヴェス、ベルンカステル、マールク
及ランゲンベルヒヲ得タリ之レライン及ウエスト、ファリア二州
ノ源ナリトス

ヨハン、シグムンドハ一千六百十三年十二月二十五日「プロテ
スタント」宗ヨリ「レフォーム」ニ改宗セリ之レ一大變革ニシテ全
國ニ一時旺盛ヲ極メタリシ「プロテスタント」宗モ今ヤ益々衰
退スルニ至レリ

シヨルジ、ウイルヘルム職ヲ繼キ一千六百十七年ヨリ一千六百
四十年ニ至ルノ間在位シ彼ノ一千六百十八年ヨリ一千六百
四十八年ニ至ルノ間即チ三十年間宗教ノ爲メニ起リタル戰

爭中ニアリテ實ニ名狀スヘカラサル慘狀ニ遭遇シタリ

一千六百三十七年「ボメラニア」ノ「ヂューク、ボジスロース」第十四
世逝去シ其家斷絶シタルニ依リ曾テ兩家ノ間ニ結ヒタル盟
約即チ一千五百二十九年八月二十四日獨逸皇帝ノ允許ヲ經
タル相互繼承ノ約ニ因リ「ボメラニア」ヲ領セントシタルモ終
ニ其目的ヲ達スルコト能ハザリシ之レ蓋シ該地ハ當時瑞典
國ノ手ニ歸シタルヲ以テナリ

フリードリッヒ、ウイルヘルム大司選公位ヲ繼クヤ一千六百四
十年ヨリ一千六百八十八年ニ至ルノ間在位シ大ニ國威ヲ擴
張セリ蓋シ大司選公ハ三十年間連續シタル戰亂ノ爲メ殆ン
ト疲弊ノ極ニ達シタル邦土ヲ受ケ未タ敵兵國內ニ散在スル
ニモ拘ハラズ更ニ之ヲ意トセス暫ク内事ヲ棄テ、ボメラニ

百七十九

ヤヲ領センコトヲ謀リ終ニ其東部ヲ得タリ而シテ其西部及
 リューゲン島ハ未タ瑞典國ノ所屬タリシト雖モ其内寺院ニ屬
 スルバルナレニア及撒遜ウエスト、フアリアニ於ケル巨多ノ寺領
 地ヲ領セリ如斯著ク其領地ヲ弘メ今ヤ邦土ノ大ナル獨逸國
 中澳地利ニ亞クニ至レリ而シテ其中央ニハ公領地アリ東部
 ニハ東部ボメラニヤ及三寺領地アリ西部ニハ「プリンスドム」
 ナルクレヴェス、マーク及ランゲンスベルヒアリ且東部普魯士
 アリテ其範圍寔ニ大ナリシ然レトモ各地其政ヲ異ニスルヲ
 以テ斷然地方ノ政權ヲ收メテ之ヲ中央政府ニ歸セシメ以テ
 君主獨裁トナシ税法ヲ設ケ軍務ヲ整頓スル等大ニ國政ノ一
 新ヲ謀リタリ
 抑モ普魯士國ハ波蘭國王ヨリ單ニ祿地トシテ得タルモノニ

シテ未タ其全權ヲ掌握スルニ至ラザリシ然ルニ偶々瑞典波
 蘭兩國間ニ戰鬪アルニ際シ當時ノ國主大ニ瑞典ヲ援ケ終ニ
 波蘭ヲ敗リタリ之ニ因テ一千六百五十七年大司選公ハ初メ
 テ普魯士ノ國王トナルニ至レリ果シテ然ラハブランデンブ
 ルヒノ國主ノ資格ニ於テハ獨逸皇帝ノ管下タル勿論ナリト
 雖モ普魯士ニ於テハ其君主タルニ依リ其威權益々振起スル
 ノ觀アリタリ扱大司選公ハ久ク疎絶シタルスウァピア家ノ其
 近族タルヲ知ルヤ兩家ノ交通ヲ開キ眷族ノ盟約ヲ結ハンコ
 トヲ企テタリト雖モ其在世中終ニ之ヲ果ス能ハザリシ一千
 六百八十五年六月十一日獨逸皇帝ノ允許ヲ得國主ハ素トホ
 ーヘンツォルレルン家ノ裔ナルヲ以テ又ホーヘンツォルレルン
 ノ「カウンツ」ト稱スルヲ得ルニ至レリ

大司選公ハ在世中五百四十一平方獨里ノ領地ヲ弘メタルヲ以テブランデンブルヒハ二千十三平方獨里ニ達セリ
 大司選公ハ其ノ在世中種々ノ盟約ヲナセリ即チ第一ハ一千六百五十一年ニ之レヲ結ビ第二ハ今ニ至ル迄有名ナル一法ニシテ一千六百六十四年三月二十三日ヲ以テシ第三ハ一千六百八十六年一月十六日ヲ以テセリ此遺約ニ依レハ各男子ニ領地ヲ分配シテ其ノ領主タラシムヘントアリ之レ最モ疑義ヲ生スルノ點ニシテ其ノ意那邊ニアルヤヲ知ルニ由ナシ蓋シ其ノ意タル之レヲ分割スヘント云フニアラサルヘシ何トナレハ公領地ハ獨リ其ノ嫡子ニノミ之レヲ譲リタレハナリ
 嫡子フリードリッヒ三世ハ父ノ遺法ニ遵ハス其弟ニ多額ノ

償金ヲ與ヘ一千六百九十二年三月三日遂ニ家法ヲ廢棄スルノ同意ヲ得猶其弟ト謀リ彼ノ「アキリア」及「ゲラ」ノ盟約ヲ基礎トシ國主ノ家法ヲ制定シ爾來弟ハ領地ヲ分領スルコト能ハス毎年若干ノ金額ヲ得ルコトトナセリ
 一千六百九十五年十一月二十六日フリードリッヒ三世ハホーヘンツガルレルン家ト相互繼承ノ約ヲ結ビ一千七百九年一月三十日又スウアピア家ト之カ約ヲ結ビ其領地ハ決シテ賣却スルコト能ハサルコトトナシ而シテ婚姻法ハ必ス其祖先我カ祖先ト同等ノ地位ニアリタルモノニ限ルコトトナシ其他女子出嫁スルトキ給與スヘキ嫁資等ノ制限ヲ定メタリ

普魯士國王

一千七百一年ヨリ現代ニ至ル

〔A〕國王フリードリッヒ第一世

フリードリッヒ第三世ハ創メテ王位ニ就キタルニ依リ之ヲ第一世フリードリッヒト稱ス

フリードリッヒ第三世既ニ廣大ナル邦土ヲ占有シ隨テ威權人望ヲ博シ今ヤ歐洲他邦ト比肩スルノ地位ニ達シタレハ頻リニ王位ニ就カンコトヲ切望セリ蓋シ其威獨逸國ニ於テハ皇帝ニ亞キシノミナラス普魯士國ニテハ一千六百五十七年既ニ其君主トハナレリ

中古ノ状態ヲ願ミルニ羅馬法王及一國ノ帝王ハ人ヲシテ王位ニ就カシムルノ權ヲ有セリ故ニ王位ニ就カントセハ孰レカ一方若クハ兩者ノ承認ヲ得サルヘカラサリシナリ而シテ第十八世紀ノ頃ニアリテハ羅馬法王及獨逸皇帝ノ承認ヲ得

ルヲ要セリ今ヤ法王ハブランデンブルヒノ國主ヲシテ王位ニ就カシメ以テ其「レフォーム」宗ヲ「クリスチヤン」宗ニ轉セシメントス然レトモ國主ハ其宗教ヲ變スルニ於テハ著シク國體ニ變動ヲ生シ施政上不利ナルヲ知り其意ヲ容レサリシカハ法王モ亦國主ノ意ヲ採ラサリシ是ニ於テ獨逸皇帝ノ承認ヲ得ンコトヲ試ミタリト雖モ當時國主ノ威權強盛ナルヲ以テ或ハ獨逸國ヲ併吞センコトヲ恐レ亦タ容易ニ之ヲ許サス然ルニ恰モ好シ澳國ヨリ西班牙ノ王位ヲ繼承セントシ終ニ一場ノ戰端ヲ開キタリシカハ國主ハ我カ志望ヲ貫クノ好機ナルヲ察シ巨額ノ軍費及ヒ兵ヲ送リテ之ヲ援ケタリ如斯皇帝ヲ幫助スルコト數回ニ及ヒシカハ終ニ獨逸皇帝ハ厚意ニ對シブランデンブルヒ家ト懇親ノ約ヲ結ハントシ一千七百年

十一月十六日及同二十七日獨逸皇帝レオポルドハフリードリッヒ三世ト盟約ヲ結ビ且其王位ニ就クコトヲ承諾シタリ然レトモ新ニ王位ヲ設クルハ萬國公法ニ依リ他邦ノ同意ヲ得タル後ニアラスンハ之ヲ爲ス能ハサル勿論ナルニ依リ其公規ニ依リ未タ國王タルヲ公認セサルノミナラス羅馬法王ハ頻リニ之ヲ排斥スルコトヲ孜メタリ是ニ於テフリードリッヒ思ヘラク一國ノ君主タルモノ王ト稱シ帝ト稱スルモ何ソ妨ケン今ブランデンブルヒニ於テ王位ニ就カントスレハコソ萬國公法アリ羅馬法王アリテ事容易ナラスト雖モ既ニ普魯士ノ君主ナレハ爰ニ於テ稱號ヲ變スルハ策ノ最モ得タルモノナルヘシト斷然自ラ王冠ヲ戴キ王位ニ就キタルハ實ニ英斷ト謂フハシ然レトモ普魯士國王ト稱セントスルモ未タ

其全土ヲ領有セサルノミナラス殊ニ武臣等未タ普魯士國ハ自己ノ所有地トナシ之ヲ承認セサルヲ以テ暫クベングルスノ王ト稱シタルモ「ベングルス」ハ普魯士國ノ舊キ人種ノ稱ナリ人呼ンテ東部普魯士王ト稱セリ蓋シ一千七百四十四年以來終ニ世人ハ普魯士國王ト稱スルニ至レリ〔此年始メテ普魯士全土ヲ併吞セリ〕

一千七百年十二月十六日王位ヲ享有スルコトヲ布告シ君主及人民ノ承認ヲ得一千七百年一月十五日君領ナル普魯士ヲ王國トナシ其君主ヲ普魯士國王ト稱スルコトヲ布告セリ一千七百一年一月十八日キニクスベルヒニ於テ王冠ヲ戴キ黑鷲第一等勳章ヲ制定セリ而シテ英吉利、露西亞、丁抹、瑞西、撒遜諸國及獨逸帝國中ニアル殆ント各君主ハ直クニ王位享有